

ヨコハマトリエンナーレ2017
記録集

✧
ヨコハマ
トリエンナーレ
— 2017 —
島と星座と
ガラパゴス

YOKOHAMA
TRIENNALE 2017
Islands, Constellations
& Galapagos

横浜トリエンナーレとは

概要

横浜トリエンナーレは、横浜市で3年に1度開催する現代アートの国際展です。これまで、国際的に活躍するアーティストの作品を展示するほか、新進のアーティストも広く紹介し、世界最新の現代アートの動向を提示してきました。

2001年に第1回展を開催して以来回を重ね、世界の情勢が目まぐるしく変化する時代の中で、世界と日本、社会と個人の関係を見つめ、アートの社会的な存在意義をより多角的な視点で問い直してきました。

第1回(2001年)から第3回(2008年)までは独立行政法人国際交流基金が主催団体のひとつとして事務局機能を担い、現代アートを通じて日本と各国との文化交流を促すことを目的に事業を実施してきました。第4回(2011年)以降、運営の主体を横浜市に移した後も、文化庁の支援を受けたナショナルプロジェクトとして、そして文化芸術創造都市・横浜を象徴するプロジェクトとして開催を重ね、多数の来場者を迎えています。

横浜トリエンナーレの基本的な考え方

■使命

横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として、創造都市横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。

■目標

アートでひらく

ひらかれた現代アートの祭典として誰もが多様な表現に触れる機会を分野と時代を横断して提供し、世代等を超えた理解を促進します。

世界とつながる

ナショナルプロジェクトとして、横浜から新しい価値観と新たな文化を継続的に世界に届け、国際交流と相互理解に貢献します。

まちにひろがる

創造都市として築いている、横浜ならではのまちの力と一体的に推進します。

■行動指針

世界水準　次世代の育成　市民参加　祝祭性　賑わいづくりと経済活性化

ごあいさつ

約26万人の方々にご来場いただきました「ヨコハマトリエンナーレ2017」は、多くの皆様にご支援いただき、無事閉幕いたしました。ご参加をご快諾いただきました作家や所蔵者の皆様に心よりお礼を申し上げますとともに、多大なるご協力を賜りました関係者の皆様に深く感謝いたします。

第6回展は、新たな試みとして、複数の専門家を招いて展覧会の基礎となるコンセプトを作り上げました。そこから導き出された「島と星座とガラパゴス」というタイトルのもと3名のディレクターが協働して全体を形作り、22か国から38組のアーティストと1プロジェクトを迎え、横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜市開港記念会館を主会場として展示しました。

横浜トリエンナーレは、2001年に始まり、国内の芸術祭の草分け的存在として回を重ねて参りましたが、今回展も子どもから年配の方まで、より幅広い年代の方々が来場し、加えて、多くの海外からのお客様にもお越しいただきました。国内外で多数のビエンナーレ、トリエンナーレが開催されるようになった中で、着実に現代アートの裾野が広がりとつと実感しています。

本記録集は、展覧会内容だけでなく、展覧会の魅力を様々な方に分かりやすく伝えるための取組のほか、次世代育成事業や社会包摂に向けた取組、国際発信・国際交流など「ヨコハマトリエンナーレ2017」の多面的な事業内容について記録しています。時代の変遷とともに国際展の新しい形が模索されていくなか、本記録集が文化芸術の発展を担う多くの方々にとって有益な情報になることを願っています。

今後とも横浜トリエンナーレへのご高配を賜りますようお願い申し上げます。

横浜市

(公財)横浜市芸術文化振興財団

NHK

朝日新聞社

横浜トリエンナーレ組織委員会

ごあいさつ

2001年にスタートした横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展、ナショナルプロジェクトとして開催を重ねてきました。第6回展となった「ヨコハマトリエンナーレ2017」は、多くの方々の御支援により、開催期間を通じて約26万人もの来場者を迎え、終えることができました。出品されましたアーティストの方々、そして開催にあたりお力添えをいただきました関係機関、市民サポーターをはじめすべての皆様方に、心より御礼申し上げます。

今回展では、横浜美術館と横浜赤レンガ倉庫1号館での展示に加え、100周年を迎えた横浜市開港記念会館地下での作品展示や、地域の皆様のご協力のもと寿町で「水族館劇場」の公演などを行ないました。さらに、「ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017」をはじめ、BankART Studio NYK、初黄・日ノ出町地区など市内6か所の創造界限拠点が連携して、海や港、大岡川周辺の水辺を舞台にアート作品を展示したプログラム「Creative Waterway—川と海でつなぐ創造の拠点」など、市内企業やアートNPOとの連携も一層進み、横浜市内がアート一色に彩られました。

また、障害の有無や性別・国籍等、多様性に寛容な社会の実現に向けて、誰もが安心・安全に鑑賞できる取組を進めるとともに、一人でも多くの子どもたちが世界の芸術作品に触れ、感性を伸ばし、幅広い価値観について理解を深められるよう、次世代育成にも取り組みました。

次回の横浜トリエンナーレは、東京2020オリンピック・パラリンピックが行われる2020年の開催になります。世界から注目が集まるこの機会に、初回開催から20年にわたり支えてくださっている多くの皆様とともに、多様な価値観を示す質の高い現代アートの国際展として世界へ発信し、文化芸術による新たな価値と活力を創り出していきます。



横浜トリエンナーレ組織委員会名誉会長代表
横浜市長

林 文子

ヨコハマトリエンナーレ 2017 を振り返って

2017年に6回目を迎えた横浜トリエンナーレは、都市型現代美術国際展として回を重ねてきた。初回の2001年から16年間、私たちを取り巻く状況は、予想をはるかに超えたスピードで変化し続けている。

対立が絶えない混迷した世界状況や頻発する大規模な自然災害は、一方で、社会の在り方や生活の規模、生き方を改めて模索する契機を私たちにもたらしているといえるだろう。同時代のアートは、私たちが生きている時代の政治、経済、自然環境、価値観などと深くかわり、ものごとには異なる見方や解釈、そして多様な表現があることを示してくれるのだ。

今回の横浜トリエンナーレでは、こうした時代の趨勢を読み込み、アートの複眼的な可能性を引き出し、各人の思考を促すことを試みた。

テーマ「孤立と接続」は、展覧会コンセプトとしてだけでなく、今回の横浜トリエンナーレ全体にかかわる考え方でもあった。2017年は大政奉還から150年目である。孤立していた日本が世界と接続した象徴として、横浜の歴史も構成に組み入れた。また構想会議に代表されるように、異分野の専門家による対話や協議に重点を置くとともに、作品制作の過程や展覧会の準備においても、様々な分野の人々がつながる協働的な方法を重視した。国際交流においては「日本の担当者の顔が見えない」と、海外からたびたび指摘されている。横浜トリエンナーレでは、顔の見える海外とのネットワーク構築にも意欲的に取り組んできたが、その成果のひとつとして横浜でIBA(International Biennial Association/国際ビエンナーレ協会)総会を開催できた意義は大きい。関連事業では「水族館劇場」公演を寿町で実現するにあたり、孤立した状況を接続させるために、分野を越えて多くの人々が尽力した。また、横浜美術館のエducatorが、市民サポーターの育成に更に力を注いだ。多くのサポーターが前回以上に幅広い活動を行い、来館者との接続に貢献して下さったことは嬉しい限りである。

近年、物質的な豊かさに対して、心の安定や人々との絆、身の丈の生活に対する関心が高まりつつある。横浜トリエンナーレを通して、アートの可能性が大海の一滴のように人々の生活に注がれ、静かにしかし着実にその波紋がひろがってゆくことを願う。



横浜トリエンナーレ組織委員会総合ディレクター
横浜美術館館長

逢坂恵理子

02 開幕までのあゆみ

主なできごと

- 2015 3/24(火) 横浜トリエンナーレ組織委員会第16回総会[基本的な考え方、3か年計画等の決定]
- 4/19(日) 横浜トリエンナーレサポーターオリエンテーション(以降継続的に活動)
- 10/11(日) 横浜美術館共催シンポジウム「日本の国際展はいま、未来—美術館、地域といかにして共賞しえるか」
- 10/28(水) 第6回横浜トリエンナーレアーティストック・ディレクター選考委員会
- 10/28(水) 横浜トリエンナーレ組織委員会第17回総会[会場、アーティストック・ディレクター等の決定]
- 12/1(火) 横浜トリエンナーレサポーター規約改正

- 2016 3/29(火) 横浜トリエンナーレ組織委員会第18回総会[会期等の決定]
- 5/26(木) ヨコハマトリエンナーレ2017開催概要発表(プレスリリース配信)
- 5/30(月) IBA総会[第4回IBA総会の横浜誘致決定]／於 ミラノ(イタリア)
- 7/10(日) 第1回構想会議
- 8/5(金) 第2回構想会議
- 10/11(火) 第1回記者会見[タイトル、コンセプトの発表]／於 KKRホテル東京「孔雀」

- 2017 1/15(日) ヨコハマラウンド 1「0と1の間にあるアート」
- 3/25(土) ヨコハマラウンド 2「創造と汚染」
- 3/27(月) 横浜トリエンナーレ組織委員会第19回総会[事業計画等の決定]
- 4/18(火) 第2回記者会見[参加アーティスト・作品の発表]／於 銀座 王子ホール
- 4/21(金) 前売券発売開始
- 5/28(日) ヨコハマラウンド 3「島とオルタナティブ：歴史・社会、医療、アート」
- 6/5(月) 全参加アーティスト発表(プレスリリース配信)
- 8/3(木) 第3回記者会見[展覧会紹介、作家登壇]／於 横浜ランドマークホール
記者内覧会／於 横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜市開港記念会館 地下
特別内覧会／於 同上
オープニングレセプション／於 横浜ロイヤルパークホテル 大宴会場「鳳翔」
- 8/4(金) ヨコハマトリエンナーレ2017開幕



第1回構想会議



第1回記者会見
Photo: KATO Ken



トリエンナーレ学校 Vol.8



トリエンナーレ学校 Vol.9



トリエンナーレ学校 Vol.10



第2回記者会見
Photo: KATO Ken



展示設営風景
Photo: KATO Ken



展示設営風景
Photo: KATO Ken

内覧会・オープニングレセプション

開幕前日の8月3日(木)に記者及び関係者を招待して内覧会を実施した。

同日に行った記者会見の直後から記者内覧会をスタートし、その後に時間を分けて行った関係者向け特別内覧会と合わせて1,700人を超える来場者を迎えた。内覧会終了後、文化庁長官や協賛・協力企業の代表者等来賓を迎え、参加アーティストを囲んでのオープニングレセプションを開催した。

夜には参加アーティストと関係者を交えてのアーティストパーティーの席を設けた。

①記者会見&記者内覧会

時間：記者会見 11:30 - 12:30

記者内覧会 12:30 - 14:30

会場：横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館、
横浜市開港記念会館 地下

来場者数：385名

②特別内覧会

時間：14:30 - 18:00(最終受付 17:30)

会場：横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館、
横浜市開港記念会館 地下

来場者数：1,357名

③オープニングレセプション

時間：18:00 - 20:00(受付 17:30 -)

会場：横浜ロイヤルパークホテル 大宴会場「鳳翔」

来場者数：約1,400名

④アーティストパーティー

時間：20:30 - 22:30

会場：サブゼロ(横浜港大さん橋国際客船ターミナル内)

来場者数：約100名

※連携事業(P.46-47参照)である「BankART LifeV—観光」、
「YCC Temporary 鬼頭健吾」も、同日に内覧会を開催。



1 記者会見 Photo: KATO Ken
2 特別内覧会 Photo: TANAKA Yuichiro
3 オープニングレセプション Photo: KATO Ken
4 アーティストパーティー Photo: KATO Ken

03 展覧会記録

企画後記「美しい不協和音とハーモニー」

ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」は、「接続」と「孤立」を通して、現代の芸術活動と相反する概念や現象が複雑かつ流動的に絡み合う現代世界の在り様、独自性・創造性の可能性等について考えようとする試みであった。小さな異なる個展の集合体という構成は、多島海や星座のメタファーであり、また、全体として多様な声が集まり、歴史と現在、地域と世界、アートと異分野・社会が繋がる「対話」や「思考」のプラットフォームのようなものが目指された。

そのため、哲学や解剖学等美術以外の専門家を含む「構想会議」や、かつての日本三大寄せ場の一つ、寿町での水族館劇場の公演、テーマと土地の歴史から横浜の既存の施設や場所を繋げる「ヨコハマサイト」、また展示を異なるトピックとの関係で継続的に観ることで時間を通じた鑑賞体験を促す対話シリーズ「ヨコハマラウンド」等々、面(=空間軸)と線(=時間軸)の両方から様々な取組が実験的に行われるとともに、改めて横浜という場所性を考えることも図られた。

このように多くの人々との共同作業を通して、あえて解りやすくまとめるのではなく、予測不可能性や摩擦、混乱も含めて異なる秩序の共存や関係性、その複雑さに眼を向けるという行為は、当然リスクを伴う。通常の美術展に親しんだ人々にとっては理解し難い部分もあったかもしれないし、実際、これだけ幅広い分野の専門家や各種施設と折衝・交渉すること自体、我々企画者にとっても学びが多い反面、戸惑いや不十分に感じる点も多々あった。しかし、閉幕時に構想会議メンバーとともに企画の意味等について振り返った際に、高階秀爾氏が「群島への注目は、大きな普遍性の傘の下ではなく、異なる複数の秩序が接触することで見えてくるもの、異なる眼差しに触れることで自らの世界全体が揺さ振りをかけられることでもある」と示したように、どこか不安定な状況に身を置いてみることも企画の意図するところであった。こうした試みは、まだ6回とはいえ、横浜トリエンナーレが継続してきたからこそ可能なわけだが、以前にも増して様々な芸術祭や国際展が林立する状況で、ある意味、孤立した空間とも言える美術館という場所が第4回以降拠点となり、いかなる立ち位置と独自性を出していけるか、どこまで主体性を持ち得るか、所蔵品や土地の歴史やコミュニティとの関係性を掘り下げていけるか等を常に見極めていく必要がある中、改めて自分たちがやっていることに揺さ振りをかけるという意味もあったように思う。

前述の振り返りでは、物事と物事の間関係性や一見意味や目的がないもの、読めない感覚の重要性、宇宙の文法による世界の把握、「生きる術」としてのアートの時代的な意味等々、様々な興味深い意見が出たが、中でも「美しい不協和音」という言葉が思い出される。おそらくそれが最も象徴的に感じられたのは、横浜赤レンガ倉庫1号館3階の小沢剛やクリスチャン・ヤンコフスキー、宇治野宗輝らの展示空間だろう。異なる音や光が時に干渉し合うことがあっても、それぞれはしっかりと独立し共存する。あるいは、間を挟むものがあっても、ラグナル・キヤルタンソンの映像のように、心に響くハーモニーが奏でられることもある。だからこそ、やはり、我々はオラファー・エリアソンの言う「アートは繋がりを促す可能性を持つもの」という言葉を信じたいと思うのである。



ヨコハマトリエンナーレ2017
コ・ディレクター(アーティストック)

三木あき子

参加作家一覧 (アルファベット順)

	作家名(和)	作家名(英)	出生国	出生年	展示会場
1	アイ・ウェイウェイ(艾未未)	AI Weiwei	中華人民共和国	1957	横浜美術館
2	青山 悟	AOYAMA Satoru	日本	1973	横浜美術館/ 横浜赤レンガ倉庫1号館
3	ジョコ・アヴィアント	Joko AVIANTO	インドネシア	1976	横浜美術館
4	ブルームバーグ&チャナリン	BROOMBERG & CHANARIN	南アフリカ/イギリス	1970/1971	横浜美術館
5	マウリツィオ・カテラン	Maurizio CATTELAN	イタリア	1960	横浜美術館
6	イアン・チェン	Ian CHENG	アメリカ	1984	横浜美術館
7	ドン・ユアン(董媛)	DONG Yuan	中華人民共和国	1984	横浜赤レンガ倉庫1号館
8	サム・デュラント	Sam DURANT	アメリカ	1961	横浜美術館
9	オラファー・エリアソン	Olafur ELIASSON	デンマーク	1967	横浜美術館
10	アレックス・ハートリー	Alex HARTLEY	イギリス	1963	横浜美術館
11	畠山直哉	HATAKEYAMA Naoya	日本	1958	横浜美術館
12	カールステン・ヘラー、トビアス・レーベルガー、アンリ・サラ&リクリット・ティラヴァーニヤ	Carsten HÖLLER, Tobias REHBERGER, Anri SALA & Rirkrit TIRAVANIJA	ベルギー/ドイツ/ アルバニア/アルゼンチン	1961/1966/ 1974/1961	横浜美術館
13	ジェニー・ホルツァー	Jenny HOLZER	アメリカ	1950	会場間バス/ みなとみらい駅コンコース
14	クリスチャン・ヤンコフスキー	Christian JANKOWSKI	ドイツ	1968	横浜赤レンガ倉庫1号館
15	マーク・フスティニアーニ	Mark JUSTINIANI	フィリピン	1966	横浜美術館
16	川久保ジョイ	KAWAKUBO Yoi	スペイン	1979	横浜美術館
17	風間サチコ	KAZAMA Sachiko	日本	1972	横浜美術館
18	木下 晋	KINOSHITA Susumu	日本	1947	横浜美術館
19	ラグナル・キヤルタンソン	Ragnar KJARTANSSON	アイスランド	1976	横浜赤レンガ倉庫1号館
20	小西紀行	KONISHI Toshiyuki	日本	1980	横浜赤レンガ倉庫1号館
21	マップオフィス	MAP Office	モロッコ/フランス	1996結成	横浜美術館
22	プラバワティ・メッパイル	Prabhavathi MEPPAYIL	インド	1965	横浜美術館/ 横浜赤レンガ倉庫1号館
23	ミスター	Mr.	キューバ	1969	横浜美術館
24	小沢 剛	OZAWA Tsuyoshi	日本	1965	横浜赤レンガ倉庫1号館
25	ケイティ・パターソン	Katie PATERSON	イギリス	1981	横浜美術館
26	パオラ・ピヴィ	Paola PIVI	イタリア	1971	横浜美術館
27	キャシー・アレンダーガスト	Kathy PRENDERGAST	アイルランド	1958	横浜赤レンガ倉庫1号館
28	ロブ・プリット	Rob PRUITT	アメリカ	1963	横浜美術館
29	アン・サマット	Anne SAMAT	マレーシア	1973	横浜美術館
30	瀬尾夏美	SEO Natsumi	日本	1988	横浜美術館/ 横浜赤レンガ倉庫1号館
31	ワエル・シャウキー	Wael SHAWKY	エジプト	1971	横浜美術館
32	シュシ・スライマン	Shooshie SULAIMAN	マレーシア	1973	横浜美術館
33	照沼敦朗	TERUNUMA Atsuro	日本	1983	横浜赤レンガ倉庫1号館
34	ザ・プロペラ・グループ、トゥアン・アンドリュウ・グエン	The Propeller Group, Tuan Andrew NGUYEN	ベトナム、アメリカ	2006結成 1976	横浜美術館
35	タチアナ・トゥルヴェ	Tatiana TROUVÉ	イタリア	1968	横浜美術館
36	宇治野宗輝	UJINO	日本	1964	横浜赤レンガ倉庫1号館
37	柳 幸典	YANAGI Yukinori	日本	1959	横浜市開港記念会館 地下
38	ザオ・ザオ(赵赵)	ZHAO Zhao	中華人民共和国	1982	横浜美術館
【プロジェクト】					
1	Don't Follow the Wind	Don't Follow the Wind	-	-	横浜赤レンガ倉庫1号館

横浜美術館

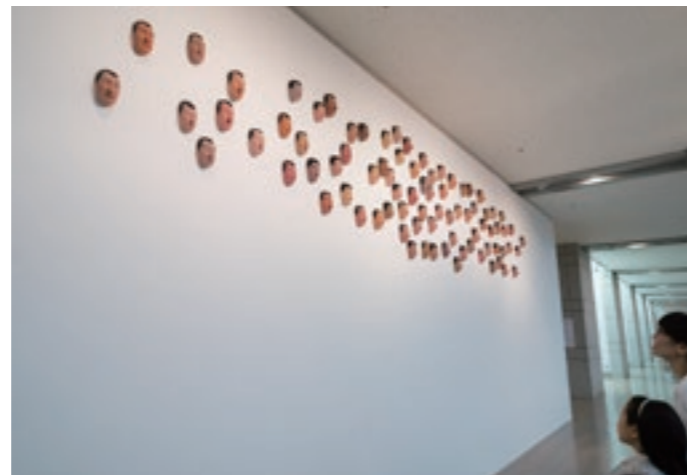


横浜美術館屋外展示風景(正面外壁・柱：アイ・ウェイウェイ、前庭：シュシ・スライマン)
Photo: KATO Ken

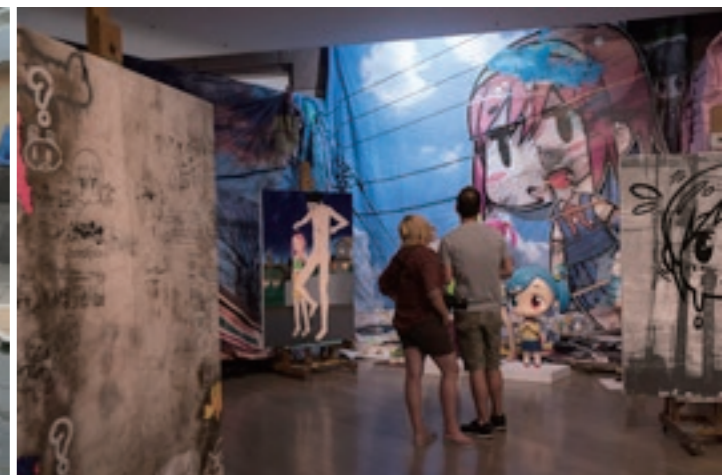


ジョコ・アヴィアント《善と悪の境界はひどく縮れている》2017
Photo: KATO Ken

- | | |
|----------------|-----------------|
| アイ・ウェイウェイ(艾未未) | ザ・プロペラ・グループ |
| シュシ・スライマン | トゥアン・アンドリュウ・グエン |
| アレックス・ハートリー | 畠山直哉 |
| 青山 悟 | 瀬尾夏美 |
| ジョコ・アヴィアント | 風間サチコ |
| マップオフィス | ブルームバーグ&チャナリン |
| ミスター | 木下 晋 |
| カールステン・ヘラー、 | イアン・チェン |
| トビアス・レーベルガー、 | サム・デュラント |
| アンリ・サラ& | ザオ・ザオ(赵赵) |
| リクリット・ティラヴァーニヤ | ワエル・シャウキー |
| プラパワティ・メツパイル | マーク・フスティニアニ |
| ケイティ・パターソン | パオラ・ピヴィ |
| タチアナ・トゥルヴェ | オラファー・エリアソン |
| ロブ・プルイット | マウリツィオ・カテラン |
| アン・サマツ | |
| 川久保ジョイ | ヨコハマラウンジ |



(右上)シュシ・スライマン《9番目の部屋》2017
Photo: Eric
(右下)マウリツィオ・カテラン《スペルミニ》1997
Photo: KATO Ken



(左上)マップオフィス 展示風景 Photo: KATO Ken
(右上)ミスター 展示風景 Photo: TANAKA Yuichiro
(左下)ザ・プロペラ・グループ 展示風景 Photo: KATO Ken





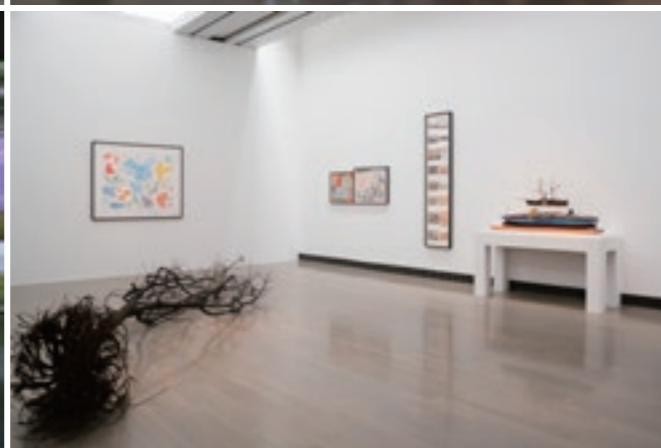
カールステン・ヘラー、トビアス・レーベルガー、アンリ・サラ&リクリット・ティラヴァーニヤ 展示風景 Photo: KATO Ken



(左上) マーク・フスティニアニー 《トンネル》2016 Photo: TANAKA Yuichiro
 (右上) パオラ・ピヴィ 展示風景 Photo: TANAKA Yuichiro
 (左下) ゼオ・ゼオ 展示風景 Photo: KATO Ken



(左上) 畠山直哉 展示風景 Photo: KATO Ken
 (右上) 風間サチコ 展示風景 Photo: TANAKA Yuichiro
 (左下) イアン・チェン《使者は完全なる領域にて分岐する》2015-2016 Photo: Eric
 (右下) サム・デュラント 展示風景 Photo: KATO Ken



ヨコハマラウンジ 展示風景 Photo: KATO Ken



横浜赤レンガ倉庫1号館

小沢 剛
 クリスチャン・ヤンコフスキー
 宇治野宗輝
 瀬尾夏美
 プラバワティ・メツパイル
 照沼敦朗
 キャシー・プレnderガーガスト
 青山 悟
 ドン・ユアン(董媛)
 ラグナル・キルダンソン
 小西紀行
 Don't Follow the Wind



横浜赤レンガ倉庫1号館外観



(上)小沢 剛《帰って来たK.T.O.》2017
 Photo: KATO Ken
 (下)クリスチャン・ヤンコフスキー
 《マッサージ・マスターズ》2017
 Photo: KATO Ken



宇治野宗輝《プライウッド新地》2017 Photo: TANAKA Yuichiro

(左上)瀬尾夏美 展示風景 Photo: KATO Ken
 (右上)プラバワティ・メツパイル《yt/thirty six》2017 Photo: TANAKA Yuichiro
 (左下)照沼敦朗 展示風景 Photo: TANAKA Yuichiro
 (右下)キャシー・プレnderガーガスト 展示風景 Photo: KATO Ken





(左上)ドン・ユアン 展示風景 Photo: KATO Ken
 (右上)青山 悟 展示風景 Photo: KATO Ken
 (左下)ラグナル・キルタンソン《ザ・ビジャーズ》2012 Photo: TANAKA Yuichiro
 (右下)小西紀行 展示風景 Photo: KATO Ken

横浜市開港記念会館 地下

柳 幸典



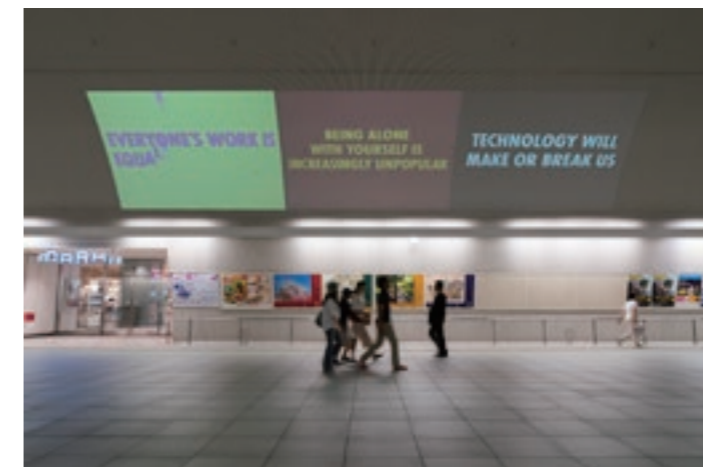
(左)横浜市開港記念会館外観
 (右)柳 幸典《Article 9》(部分)2016
 Photo: KATO Ken
 (下)柳 幸典《Project God-zilla
 ー横浜市開港記念会館の地下室》2017
 Photo: KATO Ken



Don't Follow the Wind 展示風景
 Photo: KATO Ken

みなとみらい駅、会場間無料バス

ジェニー・ホルツアー



ジェニー・ホルツアー《自明の理》より 1977-79 (2017)
 Photo: KATO Ken



ジェニー・ホルツアー《自明の理》より 1977-79 (2017)
 Photo: Eric

ヨコハマサイト

ヨコハマトリエンナーレ2017のテーマや主要なキーワードである「接続性」や「孤立」、「共生」、「多様性」。これらと結びつくような事業や展示を実施してきた施設、あるいは歴史的背景をもつ場所や建造物を「ヨコハマサイト」と呼び紹介した。また、日本郵船氷川丸ではアーティストの田村友一郎がヨコハマサイトを地図上で星座のように結び、《γ座》と題した展示を行った。

サイト

- ・日本郵船氷川丸(旧三等食堂にて田村友一郎《γ座》を展示)
- ・海上保安資料館横浜館
- ・旧横浜港駅プラットホーム跡
- ・横浜税関資料展示室
- ・日本郵船歴史博物館
- ・岩亀稲荷
- ・掃部山公園
- ・横浜外国人墓地

※有料施設はヨコハマトリエンナーレ2017のチケット掲示で入場無料
 ※ヨコハマサイトの開館日時は各施設に準じた



日本郵船氷川丸入口と《γ座》看板 Photo: TANAKA Yuichiro



田村友一郎《γ座》2017 展示風景 Photo: TANAKA Yuichiro



田村友一郎《γ座》2017 展示風景 Photo: Eric

ヨコハマサイトマップ ※ — : γ座



ヨコハマスクリーニング

ヨコハマトリエンナーレ2017のテーマやキーワードに関連する国内外の劇映画、ドキュメンタリー、アニメーション、実験映画を特集した。また、本展出品作家に関連した長編ドキュメンタリー作品群もあわせて上映した。

日時	プログラム	内容	参加者数
9月16日(土)	13:30 [A] 極北のナヌーク	■ロバート・フラハティ《極北のナヌーク》/1922年/アメリカ/64分	67
	15:30 [B] 海は燃えている	■ジャンフランコ・ロージ《海は燃えている—イタリア最南端の小さな島》/2015年/イタリア・フランス/114分	
9月17日(日)	13:30 [C] あなたはここにいる	■ダニエル・コックバーン《あなたはここにいる》/2010年/アメリカ/78分	75
	15:30 [D] 作家特集①	■畠山容平《未来をなぞる 写真家・畠山直哉》/2015年/日本/87分	
10月7日(土)	13:30 [E] 短編特集①	■チャールズ&レイ・イームズ《パワーズ・オブ・テン》/1977年/アメリカ/9分	125
		■手塚治虫《ジャンピング》/1984年/日本/6分	
		■加藤久仁生《つみきのいえ》/2008年/日本/12分	
		■ジェレミー・クラパン《Skhizein(スキゼン)》/2008年/フランス/13分	
		■山村浩二《年をとった鱈》/2009年/日本/13分	
10月7日(土)	15:30 [F] 短編特集②	■エドムンズ・ヤンソンズ《アザラシの島》/2014年/ラトビア/6分	125
		■ノーマン・マクラレン《隣人》/1952年/カナダ/8分	
		■ヤン・シュヴァンクマイエル《対話の可能性》/1982年/チェコスロバキア/11分	
		■ドン・ハーツフェルト《人生の意味》/2005年/アメリカ/12分	
		■岩崎宏俊《Between Showers》/2009年/日本/3分	
10月8日(日)	13:30 [G] 作家特集②	■カタリーナ・ディジーラー《アアア》/2016年/セルビア/5分	205
		■ジェシー・マクリーン《犬を見れば、声が聞こえる》/2016年/アメリカ/18分	
		■ヘンリック・ルンデ、ヤコブ・イェルゲンセン《オラファー・エリアソン 視覚と知覚》/2009年/デンマーク/77分	
10月8日(日)	15:30 [H] 作家特集③	■アリソン・クレイマン《アイ・ウェイウェイは謝らない》/2012年/アメリカ/91分	205

会場：横浜美術館レクチャーホール

料金：ヨコハマトリエンナーレ2017チケット(使用・未使用問わず)提示で無料

ヨコハマプログラム

鶴見大学×横浜美術館 美術情報センター

「ひろがる源氏 つながる古地図」

鶴見大学図書館の貴重書から「孤立」と「接続性」を読みとる。

鶴見大学との連携で、同大学図書館所蔵の古典籍や古地図を展示。前期には、写本によって限られた立場の人々に読み継がれた『源氏物語』が、版本というメディアを通じさまざまな大衆文化に広がっていく様子を、鎌倉時代以降の古典籍で紹介した。後期には、西洋と東洋および日本の世界観が接続していく在り様を、16世紀以降の古地図で紹介。前期は、伝冷泉為相筆『源氏物語』『須磨』(古写本、鎌倉時代後期)、後期はイエズス会士の地図製作者ティセラによる『日本図』などを展示した。

会期：前期「ひろがる源氏」8月4日(金)–9月13日(水)
 後期「つながる古地図」9月15日(金)–11月5日(日)

会場：横浜美術館 美術情報センター

料金：無料

主催：鶴見大学、横浜美術館 美術情報センター

水族館劇場

「もうひとつの この世のような夢 一寿町最終未完成版—」

水族館劇場は1987年に創設。各地を彷徨い、隠された歴史をすくいあげながら、藝能の根源を遡るかのとき芝居を展開してきた。今回は彼らにゆかりの深い横浜・寿町の中心部の空地に自らの手で幻の島のような巨大テント劇場を立ち上げ、横浜を舞台とした演劇公演を実施した。スペクタクルな仕掛け舞台と、天井から滝のように流れ落ちる数トンもの水がカタルシスを生みだし、街の新たな伝説を創り出した。

日時：9月1日(金)–5日(火)、13日(水)–17日(日) 全10公演
 各日18:30-20:30

※8月–9月にイベントを複数回実施。

会場：寿町総合労働福祉会館再整備事業用地(横浜市中区寿町4-14-1)

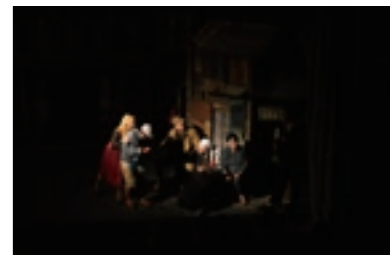
主催：水族館劇場、横浜トリエンナーレ組織委員会、(公財)横浜市芸術文化振興財団

資材協力：(株)松尾工務店

※公演チケットを別途販売した。



鶴見大学×横浜美術館 美術情報センター
 「ひろがる源氏 つながる古地図」展示風景
 Photo: Eric



水族館劇場
 「もうひとつの この世のような夢 一寿町最終未完成版—」公演風景
 Photo: Eric



水族館劇場
 「もうひとつの この世のような夢 一寿町最終未完成版—」公演風景
 Photo: KATO Ken

ヨコハマラウンド

ヨコハマラウンドは、アートを他の領域や社会との関係性で捉えること、そしてテーマを展覧会だけでなく、異なる分野の専門家との対話を通してより深く掘り下げることを念頭に、2017年1月から11月までの全8回で開催された公開対話シリーズである。展覧会会期中は参加作家を招いたラウンドbisも開催された。ラウンドは円卓(roundtable)を囲み、回を重ねる(rounds)ことをあらわしている。

ラウンド 1 0と1の間にあるアート

日時：1月15日(日) 14:00-16:00
会場：横浜美術館 レクチャーホール
内容：0と1で構成されるデジタル世界が広がる現代社会の中で、「0と1の間」という無限の世界にあるアートの可能性について探った。
登壇者：養老孟司(解剖学者、東京大学名誉教授、ヨコハマトリエンナーレ2017構想会議メンバー) 布施英利(美術批評家、解剖学者)
総合進行：三木あき子(ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター)
参加者数：173名

ラウンド 2 創造と汚染

日時：3月25日(土) 14:00-16:15
会場：横浜美術館 レクチャーホール
助成：公益信託タカシマヤ文化基金
内容：新たな創造の背景となる異文化や言語の交差、混淆と混濁、その接続の難しさや、同時に得られる豊かさについて語った。
*第一部：日英同時通訳 第二部：日英逐次通訳
登壇者：第一部(プレゼンテーション) 今福龍太(文化人類学者、批評家、東京外国語大学大学院教授) リクリット・ティラヴァーニャ(参加作家、コロンビア大学芸術学部教授、ヨコハマトリエンナーレ2017構想会議メンバー) 第二部(対談) 今福龍太 リクリット・ティラヴァーニャ
ファシリテーター：スプツニ子!(アーティスト、マサチューセッツ工科大学メディアラボ助教、ヨコハマトリエンナーレ2017構想会議メンバー)
総合進行：三木あき子
参加者数：165名
※第50回アジア開発銀行年次総会横浜開催 連携事業

ラウンド 3 島とオルタナティブ: 歴史・社会、医療、アート

日時：2017年5月28日(日) 14:00-16:00
会場：横浜美術館 レクチャーホール
内容：第一部は参加作家による「島」に関連した作品の紹介。第二部では、歴史や社会、医療の分野で新たな世界観や視点を示唆する専門家を迎えて、従来の世界観を仮に「大陸的」と言い表すのならば、「島」は従来とは異なる世界観、つまり、オルタナティブを象徴するものとして、どのような可能性があるのか探った。
*日英逐次通訳
登壇者：第一部 マップオフィス(参加作家) 第二部 稲葉俊郎(医師、東京大学医学部附属病院内科助教) 吉見俊哉(社会学・カルチュラルスタディーズ研究者、東京大学大学院教授)
総合進行：三木あき子
参加者数：149名

ラウンド 4 繋がる世界と孤立する世界

日時：[PART1] 8月4日(金) 14:00-15:15 [PART2] 8月5日(土) 14:00-15:15 [PART3] 8月5日(土) 16:30-17:45
会場：横浜美術館 円形フォーラム
内容：参加作家によるトークをテーマ別に実施した。
登壇者：PART 1[ユートピア/コミュニティ/共に生きること] アレックス・ハートリー、ワエル・シャウキー、キャシー・プレンダーガスト モデレーター：リクリット・ティラヴァーニャ *日英同時通訳 PART 2[アジアからの視点] ジョコ・アヴィアント、マーク・フスティニアニ、シュシ・スライマン、ザオ・ザオ モデレーター：スハーニャ・ラフェル *日英同時通訳、日中逐次通訳 PART 3[異なる歴史と新たな再会] オリバー・チャナリン、サム・デュラント、クリスチャン・ヤンコフスキー モデレーター：三木あき子 *日英同時通訳
総合進行：三木あき子
参加者数：[PART1] 75名 [PART2] 90名 [PART3] 64名

ラウンドbis みえること／みえないこと

日時：8月19日(土) 13:00-14:30
会場：横浜美術館 円形フォーラム
内容：社会のなかでの見えているものと見えないもの、語りえないこと、秘められていることなどについて考えながら3人のアーティストが作品の制作背景などを交えて語った。
登壇者：風間サチコ、瀬尾夏美、照沼敦朗(以上、参加作家) モデレーター：中野仁詞(ヨコハマトリエンナーレ2017 キュレーター)
参加者数：45名

ラウンドbis 歴史と私

日時：8月19日(土) 15:00-16:30
会場：横浜美術館 円形フォーラム
内容：二つの世界大戦を経て、大きく社会構造や生活環境が変化した日本、戦後の日本に生まれ、自らの文化的背景を意識した制作を続ける3人の参加作家が、それぞれの個人史と共に自作について語った。
登壇者：宇治野宗輝、青山 悟、ミスター(以上、参加作家) モデレーター：木村絵理子(ヨコハマトリエンナーレ2017 キュレーター)
参加者数：57名

ラウンドbis K.T.O.と横浜・インド

日時：8月20日(日) 13:30-15:30
会場：横浜美術館 円形フォーラム
内容：横浜生まれの美術史家・思想家、天心・岡倉覚三(K.T.O.)に取材して「帰って来た」シリーズの新作を制作した小沢剛。岡倉天心の研究者でもある美術史家を迎えて、「新作制作のエピソード」「K.T.O.の正体」「横浜と岡倉」「インドのコルカタにおける岡倉の文化的影響」などをテーマに語った。
登壇者：小沢 剛(参加作家) 木下長宏(美術史家) モデレーター：柏木智雄(ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター)
参加者数：43名

ラウンドbis パオラ・ピヴィー——アーティストトーク

日時：8月25日(金) 15:30-17:00
会場：横浜美術館 円形フォーラム
内容：世界各地を拠点に活動してきた作家が、ある血族が暮らすイタリアの島、チベットの化身ラマ、アラスカのクマなど、それぞれの土地の歴史に根ざしたイメージからなる作品について語った。
*日英逐次通訳
登壇者：パオラ・ピヴィー(参加作家)
聞き手：三木あき子
参加者数：32名

ラウンド 5 ガラパゴス考察

日時：8月26日(土) 14:00-16:00
会場：横浜美術館 レクチャーホール
内容：第一部はそれぞれ異なる専門分野を踏まえたショートプレゼンテーション。第二部は、自然生物界と人間、日本と西欧、二極化する世界、固有性と普遍性、テクノロジーと哲学、アートの役割等々をキーワードにグローバル化とガラパゴス化の狭間で揺れるいまの世界について議論した。
登壇者：長谷川眞理子(行動生態学・自然人類学者、総合研究大学院大学学長) ドミニク・チェン(情報学研究者、早稲田大学文学学術院准教授) 川久保ジョイ(参加作家)
総合進行：三木あき子
参加者数：156名

ラウンド 6 新しい公共とアート

日時：9月18日(月・祝) 14:00-16:00
会場：横浜美術館 レクチャーホール
共催：横浜国立大学大学院Y-GSA
内容：公共空間はどのように変わっていくのか、また、経済、国家、共同体、個人など様々な存在が交錯する都市において、建築やアートが何をできるのかを議論した。
登壇者：小林重敬(都市計画学者、横浜国立大学名誉教授) 内藤 廣(建築家、東京大学名誉教授) 西沢立衛(建築家、横浜国立大学大学院教授) 北山 恒(建築家、横浜国立大学名誉教授) *司会
総合進行：三木あき子
参加者数：172名

ラウンド 7 我々はどこから来てどこへ行くのか?

日時：10月21日(土) 14:00-16:00
会場：横浜美術館 レクチャーホール
内容：我々の今・ここにある生を通常とは異なる時間や視点から捉え、これからの生き方、未来の模索における創造・表現・研究の意味を倫理・感情・神話などと交錯させながら考えた。
登壇者：小林憲正(宇宙生物学者、横浜国立大学大学院教授) 平野啓一郎(小説家) 畠山直哉(参加作家)
モデレーター：三木あき子
参加者数：187名

ラウンド 8 より美しい星座を描くために: アートの可能性とは?

日時：11月3日(金) 14:00-16:00
会場：横浜美術館 レクチャーホール
内容：ラウンド1〜7で出た発言やポイントを概観し、孤立と接続が絡み合う現代世界の複雑さ、多様性、流動性、物事の多義性、複数性などや、アーティストたちの試みから、物事の間を見ること、様々な孤立と接続の在り方、離れたもの間を繋げる想像力/創造力や思考の飛躍について、また、それらが未来のヴィジョンへの発想の転換や私たちのこれからの生き方にどのようなヒントを与え得るのか、さらには国際展の可能性について意見を交わした。
*日英逐次通訳
登壇者：スハーニャ・ラフェル、スプツニ子!、高階秀爾(*司会)、藤田清一、養老孟司(以上、ヨコハマトリエンナーレ2017 構想会議メンバー) 逢坂恵理子、三木あき子(*総合進行)、柏木智雄(以上、ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター)
参加者数：198名



A ラウンド 1 G ラウンド 4 PART1 L ラウンド 5
B,C ラウンド 2 H ラウンド 4 PART2 M ラウンド 6
D ラウンド 3 第一部 I,J ラウンド 4 PART3 N ラウンド 7
E,F ラウンド 3 第二部 K ラウンドbis O,P ラウンド 8
パオラ・ピヴィーアーティストトーク

※扉書はラウンド実施日当時

作品関連プログラム

オラファー・エリアソン《Green light—アーティストティック・ワークショップ》

難民問題をきっかけに新しいコミュニティのモデルを探求するために、作家がティッセン=ボルネミッサ・アート・コンテンポラリー(TBA21)と協働し、考察したワークショップ。作家がデザインした組立式のランプ「グリーンライト」を参加者が制作した。学び合う場(shared learning)を通して相互理解の機会を提供すること、また制作されたランプを難民支援につなげることをプロジェクトの一連のプロセスとする。2016年にウィーン(オーストリア)で始まり、2017年にはヒューストン(アメリカ)とヴェネチア(イタリア)で実施された。アジアでの開催は横浜が初めて。

■グリーンライト制作ワークショップ

開催日時：8/7, 8/18, 8/21*, 8/27, 8/28*, 9/3, 9/7, 9/8, 9/9*, 9/10*, 9/12, 9/22, 9/24, 10/1, 10/9*, 10/14*, 10/15, 10/21, 10/22*, 10/28, 10/29*, 10/31, 11/4, 11/5(計24日)
*のついた日は理解講座と同時開催。その他の日はグリーンライト制作ワークショップのみ開催。

運営：米津いつか、近藤美智子(一般社団法人ノマドプロダクション)

運営補助：横浜トリエンナーレサポーター事務局

参加者数：のべ300名以上

■理解講座

日時	タイトル	講師	内容	参加者数 (+サポーター数)
8月21日(月) 13:00-17:30	ワタシが難民になったら	穂積武寛(AAR Japan[難民を助ける会]プログラム・マネージャー)、ラガド・アドリー(同支援事業部プログラム・コーディネーター)、柳田純子(同支援事業部主任)	シリア難民が直面している困難を「自分のこと」として考えるグループワークを実施した。 共催：AAR Japan[難民を助ける会]	11(+8)
8月28日(月) 13:00-17:30				17(+5)
9月9日(土) 13:00-17:30	難民が地域で暮らすということ	吉山昌(認定NPO法人 難民支援協会 ディレクター・事務局長)	日本にも逃れてきた難民を地域で受け入れる方法を考えるグループワークを実施した。 共催：認定NPO法人 難民支援協会	15(+5)
9月10日(日) 13:00-17:30	若者たちのライフストーリー：「移民」から「わたし」へ	アビナッシュ・ガレ(Web・映像クリエイター、一般社団法人kuriyaユースメンバー) 通訳：海老原周子(一般社団法人kuriya代表)	日本における移民の若者を取り巻く環境について紹介した。 共催：一般社団法人kuriya	18(+6)
10月9日(月・祝) 13:00-17:30	難民？ 避難民？	川延安直(福島県立博物館専門学芸員)、小林めぐみ(同主任学芸員)、吉田邦吉(ヴェルガイスト・フクシマ編集長)、穂積武寛(AAR Japan[難民を助ける会]プログラム・マネージャー)	シリアと福島の事例を通して、世界の難民問題と日本の福島をめぐる問題を相対化することを試みた。 協力：福島県立博物館、AAR Japan[難民を助ける会]	16(+6)
合計				77(+30)

■アーティスト・ワークショップ

日時	タイトル	アーティスト	内容	参加者数 (+サポーター数)
10月14日(土) 11:00-17:00	速くを近くに、近くを速くに、感じるための幾つかのレッスン	高山 明/Port B	高山明/Port Bによる「速くを近くに、近くを速くに、感じるための幾つかのレッスン」の音源を聞きながら、グリーンライト制作ワークショップを行った。	約60(+3)
10月15日(日) 11:00-17:00				50(+1)
10月22日(日) 13:30-16:00	理想の都市をコラージュする	北澤 潤	みなとみらいとインドネシアの街並みをコラージュし、共生社会をイメージするワークショップを実施した。	8(+6)
10月29日(日) 13:00-17:30	1秒の光で世界をつくる	SHIMURAbros	携帯電話のカメラで1秒の動画を撮影、1秒(24コマ)を組み替えて映像作品を制作、上映会を行った。	17(+4)
合計				約135(+14)

■グリーンライト寄付募集活動

1口3万円でグリーンライトのランプ1個の特典がつく寄付募集活動を2017年11月6日(月)から2018年2月28日(水)まで実施。

寄付先はAAR Japan[難民を助ける会]と認定NPO法人 難民支援協会。



オラファー・エリアソン《Green light—アーティストティック・ワークショップ》

アレックス・ハートリー《どこでもない国大使館》

移動式の建物が「大使館」となり、その中に、北極圏で作家が発見した国(島)の一部である岩や探検にまつわる資料が展示された。来場者は岩に上がり、「どこでもない国」をよりよくするための提案を行い、それが受理されると入国証明書(作品関連印刷物参照)が渡された。

大使館鑑賞時間：11:00-17:00

入国審査受付時間：8月3日(木)、4日(金)および土・日・祝、11:00-12:00、13:00-15:00

*荒雨天時は閉館

参加者数：2,461人



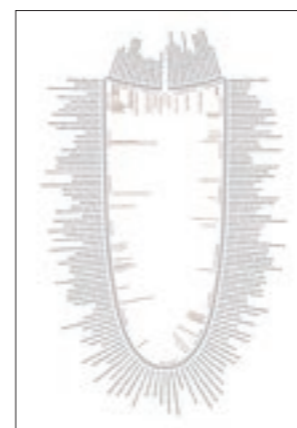
アレックス・ハートリー《どこでもない国大使館》

作品関連印刷物

展示作品の一部として以下の印刷物を作成し、展覧会場で鑑賞者に無料で配布した。

ケイティ・パターソン

《化石のネックレス》で使用された化石の年代と産地、アーティストのステイメントを記したA2クロス折の印刷物(和英)



ケイティ・パターソン(展開図)

小沢 剛

出品作品の解説と、作品にまつわる調査の経緯などを掲載したタブロイド判8頁の印刷物(和英)



小沢 剛

Don't Follow the Wind

プロジェクト概要を記したA3クロス8頁折りのガイドブック(和英別冊)



Don't Follow the Wind

アレックス・ハートリー

入国審査を通過した参加者に配られる《どこでもない国大使館》の入国証明書。作家が発見した島の一部である小石が貼付されたA5判の印刷物(和英)



アレックス・ハートリー

構想会議

ヨコハマトリエンナーレ2017では、世代や分野の異なる専門家で構成される構想会議を発足させ、コ・ディレクターとともに、既存の思想的な枠組みや専門領域の壁を越えた分野横断的な議論を行い、タイトルとコンセプトを決定した。

メンバー



スーアニャ・ラフェル
M+美術館エグゼクティブ・ディレクター



スプツニ子!
アーティスト、マサチューセッツ工科大学メディアラボ助教(-2017年9月)
東京大学生産技術研究所RCA デザインラボ特任准教授(2017年10月)



高階秀爾
美術史家、大原美術館館長、
東京大学名誉教授



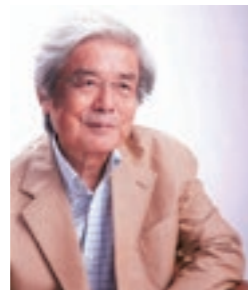
第1回構想会議



リクリット・ティラヴァーニャ
アーティスト、
コロンビア大学芸術学部教授



鷺田清一
哲学者、京都市立芸術大学学長、
せんだいメディアテーク館長



養老孟司
解剖学者、東京大学名誉教授



第2回構想会議



逢坂恵理子
横浜美術館館長



三木あき子
キュレーター、パネッセアートサイト
直島インターナショナル
アーティストティックディレクター



柏木智雄
横浜美術館副館長、主席学芸員

会議日程

第1回構想会議 2016年7月10日(日)14:00-17:00

場所：横浜美術館 円形フォーラム

参加者：高階秀爾、スーアニャ・ラフェル、スプツニ子!、逢坂恵理子、三木あき子、柏木智雄

第2回構想会議 2016年8月5日(金)15:00-18:00

場所：横浜美術館 円形フォーラム

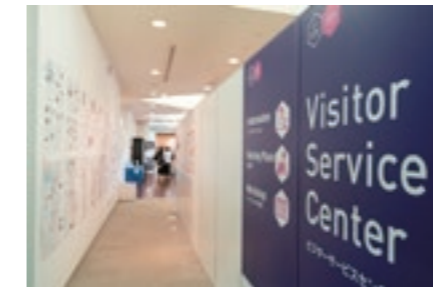
参加者：高階秀爾、養老孟司、鷺田清一、逢坂恵理子、三木あき子、柏木智雄

04 来場者サービス

来場者に対するおもてなし・情報提供の拠点として、横浜トリエンナーレを盛り上げる市民ボランティアである横浜トリエンナーレサポーター(愛称:ハマトリート!)が運営する、ビジターサービスセンターおよびハマトリート!ステーションを横浜美術館会場に設置した。作品展示エリアにはフリーWi-Fi環境を整備したほか、一定の条件の下で全ての作品の写真撮影を可とし、来場者がスマートフォン等で口コミなど情報発信しやすい環境を用意した。また、複数の会場間を来場者が効率的に移動できるよう、無料バスを運行したほか、記念スタンプを各会場に設置し、来場者が楽しみながら会場を回遊できるような取組を行った。

ビジターサービスセンター／ハマトリート!ステーション

横浜トリエンナーレサポーターが常駐し、ヨコハマトリエンナーレ2017のインフォメーションに加え、近隣のアートプログラムや商業施設についての情報提供を行った。サポーターが自主的に用意した「ヨコトリ感想ノート(来場者が作品の感想を共有するノート)」「ヨコトリ検定(クイズ)」などの様々な企画が実施され、各種ワークショップやギャラリー・ツアーの参加受付を行うなど、来場者のコンシェルジュ的な機能を果たした。



ビジターサービスセンター



ビジターサービスセンター



ハマトリート!ステーション

フリーWi-Fi

各会場の展示室にNTT東日本のWi-Fi環境を整備し、無料で来場者にインターネット接続サービスを提供した。



クリエイティブ・コモンズ・ライセンス

画像の使用にあたってクリエイティブ・コモンズ・ライセンス「表示(BY)–非営利(NC)–改変禁止(ND)」を遵守することを条件に、全ての展示作品の写真撮影を可とした。



会場間アクセス

■会場間無料バス

横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館、BankART Studio NYK、黄金町バザール(初黄・日ノ出町地区)を結ぶ会場間無料バスを運行した。

大型バスにはジェニー・ホルツァーの作品を、中型バスにはトリエンナーレのロゴをメインとしたデザインのラッピングを施し、市街を走行した。

Aルート：横浜美術館⇄横浜赤レンガ倉庫

Bルート：横浜美術館→横浜赤レンガ倉庫→BankART Studio NYK→横浜美術館→黄金町バザール会場→横浜美術館

■横浜コミュニティサイクルbaybike(ベイバイク)

みなとみらいエリア、関内エリアなどに40か所以上に設置されているサイクルポートで貸出し／返却が可能な電動アシスト付き自転車が利用できるサービス。

ヨコハマトリエンナーレ2017開催期間中は、横浜美術館会場、BankART Studio NYK、黄金町バザール(初黄・日ノ出町地区)に「臨時サイクルポート」を設置した。

■屋外誘導サイン

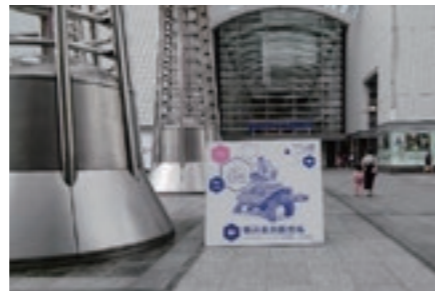
市内外から訪れる来場者が安心して巡ることができるよう、最寄駅(桜木町駅、みなとみらい駅、日本大通り駅)から会場までの動線に屋外誘導サインを設置した。



会場間無料バス Photo: TANAKA Yuichiro



横浜コミュニティサイクルbaybike(ベイバイク)



屋外誘導サイン

記念スタンプ

展覧会タイトル「島と星座とガラパゴス」やチケット連携したアートプロジェクト「BankART Life V」]「黄金町バザール2017」からイメージした親しみやすいデザインのスタンプを次の場所に設置した。来場者は各会場で配布された会場間マップ(スタンプ台紙)を手に会場間を回遊した。

- ・横浜美術館(ビジターサービスセンター/ハマトリート!ステーション)
- ・横浜赤レンガ倉庫1号館
- ・横浜市開港記念会館 地下
- ・横浜高速鉄道みなとみらい駅改札外コンコース
- ・BankART Studio NYK
- ・黄金町エリアマネジメントセンター



記念スタンプ



スタンプ台紙



裏面

05 鑑賞サポート

展覧会に初めて足を運ぶ人からアートファンまで、ヨコハマトリエンナーレ2017の来場者それぞれの鑑賞スタイルに合わせて展示作品の魅力をお届け、より現代アートに親しんでもらえるよう、ツール・プログラムの種類の充実を図った。

ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」ガイドブック

作品解説、展示マップ、各種プログラム、来場者サービス、会場周辺マップなどの基本情報をまとめた一冊。日本語、英語の2か国語で用意し、来場者全員に無料で配布した。

判型等：A5判、並製 2色印刷、本文48ページ

発行日：2017年8月4日

発行：横浜トリエンナーレ組織委員会

印刷部数：日本語版 160,000部、英語版 9,000部



日本語版



英語版

ヨコハマトリエンナーレ2017公式音声ガイドアプリ

位置情報と連動し、作品に近づくと作家本人へのインタビューなどの音声コンテンツをプッシュ配信する機能や、SNSとの連携機能を搭載するなど、スマートフォン等端末の特性を生かしたアプリを無料配信した。より多くの方に興味を持ってもらえるよう、同時期に近隣エリアで開催されるアートイベントの情報発信や、アーティスト秦基博氏による「アプリラジオ」の配信を行うなど、コンテンツの充実を図った。

対応言語：日本語、英語

ダウンロード件数：12,362件

対応機種：iOSおよびAndroid端末(一部非対応機種あり)

音声ガイド解説内容	
1 はじめに	11 ブルームバーグ&チャナリン
2 シュシ・スライマン ※	12 木下 晋 ※
3 ジョコ・アヴィアント ※	13 サム・デュラント
4 マップオフィス	14 ザオ・ザオ
5 ミスター ※	15 マウリツィオ・カテラン
6 カールステン・ヘラー、トビアス・レーベルガー、アンリ・サラ&リット・ティラヴァーニャ	16 ジェニー・ホルツァー
7 プラバワティ・メツパイル ※	17 小沢 剛 ※
8 タチアナ・トゥルヴェ	18 宇治野宗輝 ※
9 プロペラ・グループ、トゥアン・アンドリュウ・グエン	19 キャシー・プレングーガスト
10 島山直哉 ※	20 青山 悟 ※
	21 柳 幸典

※=作家によるインタビュー音声を収録



アプリトップメニュー
日本語



英語



アプリ案内掲示(横浜美術館)

横浜トリエンナーレサポーターによるガイダンス

横浜トリエンナーレサポーターが、自らの視点で来場者に紹介する作品を選定して原稿を作成し、子どもから大人まで、幅広い対象へガイダンスを提供した。

■事前ガイダンス(横浜美術館)

団体来場者(事前申込)および個人来場者(当日参加)に対し、鑑賞前にヨコハマトリエンナーレ2017の見どころを紹介した。小学生程度・中学生程度・それ以上と、各種トークシナリオを用意し、対象の年齢層にあわせて内容、言葉づかいや話し方を工夫したほか、海外からの来場団体に対しては英語でのガイダンスを行った。(約15分間)

参加者数：5,064名(団体 100団体4,410名、個人 66回654名)



事前ガイダンス
Photo by KATO Ken

■ギャラリー・ツアー(横浜美術館)

展覧会タイトルに含まれる「星座」から着想を得て、一つひとつの展示室・作品を「星」になぞらえ、サポーターが作品を解説しながら参加者と展示室を巡り「星座」を紡ぐ、というコンセプトで作品について解説するツアーを開催した。(約30分間)

参加者数：1,664名(187回)



事前ガイダンス
Photo by KATO Ken

■作品前トーク(横浜赤レンガ倉庫1号館／横浜市開港記念会館地下)

会場に展示された作品の前で、来場者に向けて作品の解説を行った。

参加者数：横浜赤レンガ倉庫1号館 1,691名(174回)

横浜市開港記念会館 地下 1,161名(92回)

■ヨコトリ2017をチラ観しよう!(横浜美術館)

親子を対象としたツアーを実施した(詳細はP.34参照)。

参加者数：624名(8日間開催)



ギャラリー・ツアー
Photo by KATO Ken

その他

■夜の美術館でアートクルーズ

横浜美術館で継続的に開催されている、閉館後の美術館を参加者だけの貸切で鑑賞するプログラム(有料)。「夜の美術館でアートクルーズ(ヨコハマトリエンナーレ2017)」では、ディレクター、キュレーターが参加者に鑑賞前ガイダンスを行い、横浜美術館会場を鑑賞した。

実施日：9月9日(土)

来場者数：121名

■その他の取組

旅行会社等の企画ツアー参加者、視察団体(美術関係者、行政関係者)など、対象に応じて組織委員会スタッフによる鑑賞前ガイダンスやギャラリー・ツアーを実施した。

06 次世代育成

未来を担う子どもたちが、様々な現代アート作品を体験することをきっかけに、自分と違った物事の見かた、感じ方、考え方があることに気づき、多様な価値観について理解を深めることができるよう各種取組を行った。

また、展示作品の技法を取り入れた制作ワークショップや、参加作家が講師を務めるワークショップなど、制作体験を幅広い世代に提供するプログラムを開催した。

学校団体の鑑賞受入れ

多くの子どもたちにヨコハマトリエンナーレ2017に触れる機会を提供するため、校外学習やクラブ活動・部活動などの学校団体(保育園やフリースクール等を含む)の積極的な誘致を図った。引率する先生の下見および当日の入場を無料としたほか、雨天時の昼食会場を用意(中学生以下対象、事前予約制)する等、来場しやすい環境を整えた。また、下見の時に先生に展示作品について解説を行い事前学習等の材料としてもらったほか、鑑賞当日には、事前申し込みにより対象団体の年齢層に合わせた内容の事前ガイダンスを横浜トリエンナーレサポーターが実施するなど、充実した鑑賞体験を得られるよう取組を行った。

参加者数：129団体 5,473名



子どもアドベンチャー2017「親子で現代アート体験!」

横浜市教育委員会が主催するキャリア教育・社会体験を通じた人との交流等を目的としたプログラム「子どもアドベンチャー2017」に参加した。ヨコハマトリエンナーレ2017に家族でお出かけしてもらえよう、この2日間は市内に在住または在学する小中学生と一緒に来場した家族の入場を無料とした。

横浜美術館では、横浜トリエンナーレサポーターが企画した子ども向けワークショップを同時開催し、多数の家族連れが参加した。

実施日：8月17日(木)、18日(金)

来場者数：1,283名(小中学生 601名、その家族 682名)

横浜トリエンナーレサポーターによるワークショップ参加者数：386名

主催：横浜市教育委員会



中高生プログラム2017「ヨコトリ2017を体験しよう!伝えよう!」

中学生・高校生を対象に6月から9月にかけて実施した全8回の長期プログラム。開幕前の作品のない展示室やアーティスト(ジョコ・アヴィアント)の展示制作作業の見学、展示会のディレクターやアーティスト(木下 晋、柳 幸典、風間サチコ)のトーク聴講、ワークショップへの参加など、現代アートの魅力を様々な側面から体験できるプログラムを各回実施した。プログラム後半では、参加した中高生が自分たちで運営する小学生のためのプログラム「こども探検隊」の企画・準備を行い、当日は運営を行った。

実施日：【会期前】6月18日(日)、7月9日(日)、7月30日(日)
【会期中】8月6日(日)、8月11日(金・祝)、8月20日(日)、8月27日(日)、9月10日(日)
参加者数：20名

■ヨコトリ2017で世界の現代アートをたのしむ!こども探検隊

夏休み中の小学4～6年生を対象に、ヨコハマトリエンナーレ2017の楽しさを伝える鑑賞ツアーと造形ワークショップ。中高生プログラムに参加した生徒たちがツアーやワークショップの内容や進行について企画し、自分たちで当日の運営を行った。

実施日：8月27日(日)
参加者数：48名(中高生20名、小学生28名)



親子講座 横浜美術館鑑賞クラブ「美術ってなんじゃもんじゃ?」

小学生とその保護者を対象に、「ヨコトリ2017の現代美術作品となかよしになろう!」をコンセプトに開催した鑑賞プログラム。小学校低学年(1日コース)と高学年(2日間コース)の2講座を開講した。それぞれ気になった作品を書き留め、お互いに発表しあうなど、親子のふれあいの場にもなった。

・低学年1日コース
実施日：9月10日(日)
対象：小学校1・2・3年生と保護者
会場：横浜美術館
参加者数：35名(小学生14名、保護者21名)

・高学年2日間コース
実施日：9月24日(日)、10月1日(日)
対象：小学校4・5・6年生と保護者
会場：横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜市開港記念会館 地下
参加者数：延べ87名(小学生39名、保護者48名)



ヨコトリ2017をチラ観しよう!

横浜美術館子どものアトリエで、小学生以下の子どもと保護者を対象に実施している「親子のフリーゾーン」参加者のうち、希望者を対象に、横浜トリエンナーレサポーターがガイドする鑑賞ツアーを実施した。現代アート鑑賞を親子で楽しんでもらえるよう、子どもに対しては「この作品は何でできていると思う?」「何に見える?」など、楽しくやり取りをしながら会場を巡った。

実施日：8月20日(日)、8月27日(日)、9月10日(日)、9月17日(日)
9月24日(日)、10月8日(日)、10月15日(日)、10月22日(日)
参加者数：624名



小学生／中学生のためのヨコトリ2017をもっと楽しむ!鑑賞ポケットガイド

子どもたちが鑑賞のきっかけとなる情報を得られるよう、わかりやすいテキスト、親しみやすいデザインのイラストおよびカラー図版を掲載したポケットガイド(小学生用／中学生用の2種類)を作成した。横浜市内の全ての児童生徒の手元に届くよう、夏休み前に市内全小中学校等に送付したほか、会期中に各会場で希望する小中学生に配布した。紙面には各会場に用意された記念スタンプの押印欄を設け、楽しく会場を巡ってもらう仕掛けを作った。

判型等：B4判両面十字折り、片面2色／片面カラー印刷
印刷部数：小学生版 205,000部、中学生版 105,000部



小学生版



中学生版

ヨコトリ2017関連制作ワークショップ

■優美なコラボレーション<鑑賞と体験>

カールステン・ヘラー、トビアス・レーベルガー、アンリ・サラ、リクリット・ティラヴァーニヤの4作家による、シュルレアリスムの手法を参考にしたコラボレーションによる作品を実際に鑑賞した後に、その制作プロセスに倣い、数種類の「作品」を共同で制作した。

実施日：8月27日(日)
参加者数：13名

■畠山直哉・写真ワークショップ-Printmaking with Light 光でつくる版画

写真を「光を用いた版画」と考え、身近な素材と印画紙で作品を制作した。講師を参加アーティスト・畠山直哉が務めた。

実施日：9月18日(月・祝)
参加者数：12名

■木下 晋・鉛筆画ワークショップ

参加アーティスト・木下晋を招き、ギャラリートークの後に、自画像をテーマとした鉛筆画を制作するワークショップを実施した。

実施日：10月8日(日)
参加者数：15名



市内学校との連携

■横浜市芸術文化教育プラットフォーム学校プログラム

様々な芸術分野で活躍するアーティストが横浜市立学校に出かけ、子どもたちへと特別な授業(鑑賞または体験)をするプログラム。横浜美術館教育普及グループがコーディネーターとしてアーティストを派遣した体験プログラム実施校で、生徒に対して、横浜トリエンナーレの紹介を行った他、開催年である2017年には「ヨコハマトリエンナーレ2017特別プログラム」として、「ヨコハマトリエンナーレ2017展示作品との対話」をテーマに戯曲を書くことを目指し、演劇の手法によるワークショップを実施した。

2015年度参加校：希望が丘中学校、本郷中学校、上の宮中学校
2016年度参加校：本郷中学校、希望が丘中学校、芹が谷中学校
2017年度参加校：日限山中学校、小田中学校、本郷中学校、芹が谷中学校(実施順)

■教師のためのプログラム

出品作品を取り上げ、横浜市立学校の図工・美術担当教諭を対象とした研修会・鑑賞会を実施した。

・平成29年 中・高等学校美術科研修、小学校図画工作研修
・横浜市各区図画工作研究会合同研修会 ほか

07 社会包摂～インクルーシブな展覧会に向けた取組

幅広い層の人々に対して「ひらかれた」現代アートの祭典として、障がいの有無、年齢、国籍などの立場に関わらず、誰もが来場・鑑賞し、多様な表現に触れることができるよう取組を行った。

誰もが来場・鑑賞しやすい展覧会に向けた取組

■入場料

障がいのある方*とその介護者(1名)を無料入場とした。

*身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳(愛の手帳)、特定医療費(指定難病)医療受給者証、自立支援医療受給者証及びこれらに類する書類の交付を受けている人

■情報発信

公式ウェブサイトにも自動翻訳サービスを導入し、9か国語対応とした。

振り仮名表記、フォントサイズを大きくするなど、さまざまな年齢層や障がいのある方にわかりやすく展覧会情報を伝えるちらしを作成し、市内区役所の障がいのある方の支援担当課窓口等に配架した。(協力：横浜トリエンナーレサポーター)

また、車椅子やベビーカー利用者のために、最寄り駅から会場までのアクセスガイドをWEBサイト上に掲載した。(協力：横浜市車椅子の会、横浜トリエンナーレサポーター、横浜美術館デジタルサービスボランティア)

■貸出備品の整備、会場のバリアフリー化

全ての会場で来場者のために車椅子、ベビーカー、杖、抱っこひも、拡大鏡、筆記ボードなどの無料貸出を行ったほか、横浜市開港記念会館地下にスロープを設置した。

■その他来場・鑑賞をサポートする取組

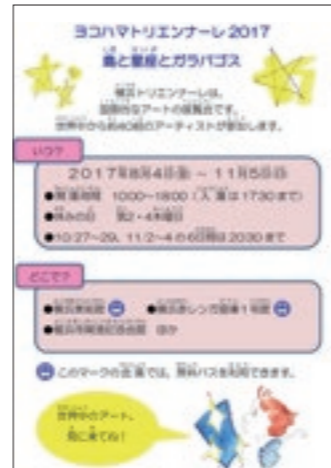
- ・音声ガイドアプリに字幕表示機能を搭載
- ・一部の講座プログラムに筆記通訳者を派遣
- ・横浜トリエンナーレサポーターによる英語での来場者のおもてなし、海外からの団体に対する英語ガイダンスの実施
- ・特別支援学校のための鑑賞プログラムの実施
- ・生きづらさを抱える若者たち(不登校、引きこもり、発達課題、若年無業者など)の自立を支援する団体との連携によるプログラムの開催 など

外国人の来場実績：7,059名

障がいのある方およびその介護者の来場実績：9,362名

障がいのある方の団体(特別支援学校含む)の

鑑賞受入実績：17団体 398名



展覧会情報を伝えるちらし(表面)



筆記通訳つき講座プログラム

「多様性」「共生」について理解を深めるためのプログラム・ワークショップの開催

■「視覚に障がいのある人のための作品解説ツアー」

実施日：9月2日(土)、9月9日(土)、9月30日(土)、10月21日(土)

実施回数：7回

会場：横浜美術館

参加者数：16組 33名

■「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」

実施日：9月16日(土)、9月23日(土・祝)

実施回数：5回

会場：横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜市開港記念会館 地下

参加者数：27名

■「特別支援学校生徒と一緒におしゃれな新聞ばつぐをつくろう!」

制作指導：横浜市立日野中央高等特別支援学校 美術部生徒

実施日：10月1日(日)

実施回数：2回

会場：横浜美術館

参加者数：76名



視覚に障がいのある人のための作品解説ツアー



視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ
Photo:Yusuke NAKAJIMA



視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ
Photo:Yusuke NAKAJIMA



特別支援学校生徒と一緒におしゃれな新聞ばつぐをつくろう!

08 国際発信・国際交流

横浜トリエンナーレは、アートを通して世界とつながることを目標に掲げ、同時代の課題を共有するべく、国際的なネットワークを構築することを目指している。ヨコハマトリエンナーレ2017では、準備年にプレイベントとして日本における国際展および美術館を拠点とする国際展の在り方について改めて検証し、会期中には国際ビエンナーレ協会(IBA)の第4回総会のホストを務めると同時に文化庁共催の国際セミナーを開催。多極化・多様化する世界の国際展の状況を確認するとともに、国際展の実務者間の交流を図った。

プレイベント シンポジウム「日本の国際展のいま、未来——美術館、地域といかにして共栄しえるか」

日本における国際展をとりまく状況に関して、既存の「美術館」という制度との関係、乱立する芸術祭といった課題や、将来的な展望などについて国内外で国際展を経験したキュレーターやアーティストを招いて検討した。

登壇者： 拜戸雅彦(あいちトリエンナーレ2016 チーフ・キュレーター)
名和晃平(彫刻家/SANDWICHディレクター/京都造形芸術大学大学院教授)
逢坂恵理子(横浜トリエンナーレ組織委員会総合ディレクター/横浜美術館館長)
モデレーター： 飯田志保子(キュレーター/東京藝術大学 准教授)
日時：2015年10月11日(日) 14:00-17:30
会場：横浜美術館 円形フォーラム
入場：無料
主催：横浜美術館 共催：横浜トリエンナーレ組織委員会
参加者数：98名

第4回国際ビエンナーレ協会(IBA)総会の開催

ビエンナーレやトリエンナーレなど国際展を企画・主催する団体・実務者から構成される国際ネットワーク。2014年に設立され、45以上の国・地域から120名以上の関係者が会員となっている。横浜トリエンナーレ組織委員会は2013年の設立準備委員会より参画。シャルジャ、ベルリン、ミラノに続き、4回目となった総会をヨコハマトリエンナーレ2017会期中に開催した。

日時：9月26日(火) 13:30-16:00 (※9月25日・26日に理事会を開催)
会場：横浜美術館 8階
参加会員数：18か国・地域 25名

【参加した国・地域の内訳】
アジア(6)：インド、韓国、中国、日本、パキスタン、バングラデシュ
中東(2)：アラブ首長国連邦、トルコ
アフリカ(2)：ナイジェリア、マリ
欧州(4)：イギリス、イタリア、ドイツ、スロベニア
北米(2)：アメリカ、カナダ
中南米(2)：キューバ、ブラジル

国際セミナー「接続する国際展・芸術祭」

文化庁の委託事業としてIBA総会と同時開催した本セミナーでは、アートが持つ根源的な価値、またそれによって得られる新たな社会的価値についての基調講演と、アートの意義と国際展・芸術祭のこれからの姿について内外で国際展・芸術祭に関わる専門家によるパネルディスカッションを連続して行った。

また、本セミナーの一環として、IBA会員を中心に国内外の国際展・芸術祭の実務者による意見交換と課題を共有するワークショップも実施した。

主催：横浜トリエンナーレ組織委員会、文化庁
共催：横浜美術館(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)
協力：IBA(国際ビエンナーレ協会/International Biennial Association)



シンポジウム「日本の国際展のいま、未来——美術館、地域といかにして共栄しえるか」



第4回国際ビエンナーレ協会(IBA)総会

■国際セミナー「接続する国際展・芸術祭」

日時：9月27日(水) 13:30-16:00
会場：横浜美術館 レクチャーホール
入場：無料
参加者数：160名
※日英同時通訳

基調講演「直島から瀬戸内国際芸術祭へ」

講演者：福武総一郎(株式会社ベネッセホールディングス名誉顧問)

パネルディスカッション「接続する国際展・芸術祭—これからの姿」

登壇者：チアゴ・ドゥ・パウラ・ソウザ(第10回ベルリン・ビエンナーレ キュレトリアルチーム・メンバー/キュレーター/エドゥケーター)
ビゲ・オール(イスタンブール・ビエンナーレ ディレクター)
山出淳也(NPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事/アーティスト)
司 会：逢坂恵理子
(横浜トリエンナーレ組織委員会総合ディレクター/横浜美術館館長)

■実務者ワークショップ「国際展・芸術祭の現場の声」

日時：9月27日(水) 10:00-12:15
会場：横浜美術館 円形フォーラム
入場：無料
参加者数：ワークショップ①14名、ワークショップ②17名
※英語のみ

ワークショップ①「なぜ国際展・芸術祭を開催するのか?新しいアプローチと新たな課題」

なぜ、いま当該地で国際展・芸術祭を開催するのか?その目的と期待される成果について新設や新しい取り組みを始めた国際展を例に意見交換し、課題を共有した。

【事例プレゼンテーション】

- カラチ・ビエンナーレ(パキスタン) | アテカ・マリク(カラチ・ビエンナーレ・トラスト副理事)
 - ハバナ・ビエンナーレ(キューバ) | マルガリータ・ゴンザレス(第12回ハバナ・ビエンナーレ アーティスティック・ディレクター/ヴィフレド・ラム現代美術センター副館長)
 - シノパール：シノップ国際ビエンナーレ(トルコ) | T・メリ・ゴルガン(シノパール創設者/アーティスティック・ディレクター)
 - アフリカ写真ビエンナーレ(ランコント・バマコ(マリ)) | レイゴ・ディアラ(ラ・メディナ ディレクター)
- ファシリテーター：飯田志保子(キュレーター/東京藝術大学 准教授)

ワークショップ②「国際展・芸術祭の人材育成」

国際展・芸術祭の人材とはどのようなスキルを必要としているのか?若手キュレーター育成の先行事例の紹介とともに、どのような成果を期待すべきか、またどのような方法論が有効か考えた。

【事例プレゼンテーション】

- イスタンブール・ビエンナーレ(トルコ) | ビゲ・オール(イスタンブール・ビエンナーレ ディレクター)
 - コチ=ムジリス・ビエンナーレ(インド) | リヤス・コム(コチ=ムジリス財団共同創設者/アーティスト/キュレーター)
 - サンパウロ・ビエンナーレ(ブラジル)からベルリン・ビエンナーレ(ドイツ)へ | チアゴ・ドゥ・パウラ・ソウザ(第10回ベルリン・ビエンナーレ キュレトリアルチーム・メンバー/キュレーター/エドゥケーター)
- ファシリテーター：帆足亜紀(横浜トリエンナーレ組織委員会プロジェクト・マネージャー)

全体討論「現場の声から—これから求められる国際展・芸術祭の形と人材」

ワークショップ①②から出た課題点、共通項を総括した。
ファシリテーター：飯田志保子



国際セミナー「接続する国際展・芸術祭」



実務者ワークショップ「国際展・芸術祭の現場の声」

09 横浜トリエンナーレサポーター

市民ボランティアである横浜トリエンナーレサポーター(愛称:ハマトリーツ!)は、横浜トリエンナーレを応援し、一緒に盛り上げることを目的として会期前から閉幕後まで多岐にわたるサポーター活動を展開してきた。作品ガイドやおもてなしなどの展覧会運営のサポートや、サポーター自ら企画運営を行った広報イベント等の開催を通じて、ヨコハマトリエンナーレ2017の盛り上げに大きく貢献した。

会期前の活動

横浜トリエンナーレに関する情報の発信を図りながら、新たな参加者の募集、サポーター意識の共有を目指し、様々なテーマのもと、講座やイベントを実施した。また、サポーターが自ら企画を立案、運営する活動を継続的に行ったほか、市内の各種イベントでのブース出展などを実施した。

プログラム名	内容	概要	実施回数	参加者数(延数)
新規参加者へのアプローチ活動	トリエンナーレ学校 meetsヨコトリ キックオフイベント	アートの現場で活躍している専門家やアーティスト、そのほか様々な分野から講師を招き、横浜トリエンナーレをはじめ国際展やアート、創造都市などに関する理解を深めるための公開講座を開催した。 これまで情報をリーチできていなかった市民層へ向けて、横浜トリエンナーレやサポーター活動への認識をより拡大することを目的としたアウトリーチ活動を行った。 自主活動の紹介と会期中の活動について説明を行い、新規参加者を募った。	計14回(2015年度:3回、2016年度:9回、2017年度:2回)*会期中に1回開催	824
サポーターが自ら企画を立案、運営する活動	チーム活動 ゼミ活動 自主活動	2014年展で活動したチーム活動のうち、「企画・イベントチーム」「こどもアートチーム」「LOGBOOKチーム」「フリペチーム」の4チームが活動を継続した。 自ら実践してみたいテーマを設定し、3名以上の賛同者を集めることでグループとして成立し、一定の期間自由に活動できるプログラムとして様々な活動を行った。 本展会期中に来場者へ提供するコンテンツを企画・運営するほか、各種印刷物を発行した。	計16回(2015年度) 計11回(2015年度) -(2016-2017年度)	96 397 -
ガイド研修	ガイド活動	ガイド育成を目的に、各種研修プログラム・勉強会を実施した。	計14回(2017年度)	-
広報活動	その他のイベント	市内の各種イベントへ出展し、ヨコハマトリエンナーレ2017の広報活動を行うなど、活動を盛り上げた。	計5回(2017年度)	61
合計			69回	1,752

会期中の活動

本展運営に直接かかわる「プログラム活動」として、来場者に対するおもてなしや会場周辺の案内などの様々な情報を提供するビジターサービスセンターの運営や、サポーターの視点で展覧会や作品の見どころを紹介するガイド活動、参加アーティストの作品制作サポートやプログラムの運営に関わるアーティスト支援活動を実施した。ガイド活動への参加にあたっては、横浜美術館教育普及グループと連携してさまざまな研修プログラムを実施し、ヨコハマトリエンナーレ2017の主旨と本展の作品に関する知識を身につけた多くのサポーターが活躍した。また、横浜トリエンナーレサポーターの自主的な活動として活動内容やそのプロセス、目標点等をサポーターが自ら考え実践していく取組「自主活動」を実施した。定められたテーマに沿った活動を考えるワーキングを経て、サポーター自らが展覧会への理解を深め、さらに楽しむための活動を企画・実施したほか、広報活動やサポーター同士を繋ぐイベントなどを開催し、本展を盛り上げた。



ビジターサービスセンター



閉幕直後のサポーター

(1)プログラム活動

プログラム名	内容	概要	場所	実施回数	サポーター参加者数(延数)	来場者参加者数
ビジターサービスセンター運営	・来場者へのおもてなし・インフォメーション ・外国語による案内 ・スタンパラリー・クイズラリー受付 ・WEBアンケート回答者対応 ・市内外の芸術文化系事業のちらし管理 ・各種イベントの運営/サポート ・星占いワークショップ	会場の正面入口に設置されたインフォメーションデスク(ハマトリーツステーション)及びビジターサービスセンターにて、来場者へのイベント・会場周辺情報の提供をはじめ、多岐にわたる活動を行い、来場者との交流を深めた。	横浜美術館	全開場日(88日間)	1,295	-
事前ガイダンス	(団体)	事前に申し込みのあった団体来場者を対象に、展覧会の見どころを紹介した。	横浜美術館	100	194	4,410
	(一般個人)	会場の正面入口付近で一般来場者を集め、展覧会の見どころを紹介した。	横浜美術館	71	114	736
ガイド活動	ギャラリー・ツアー	会場の正面入口付近で一般来場者を集め、来場者とともに展示室内を巡り、作品を紹介した。	横浜美術館	187	369	1,664
作品前トーク(横浜赤レンガ倉庫1号館会場)	照沼敦朗、キャシー・プレンダーガスト、青山悟、小西紀行の4作家の作品の前で、解説を行った。	横浜赤レンガ倉庫1号館	174	174	1,691	
	作品前トーク(横浜市開港記念会館地下会場)	柳幸典の作品前で解説を行った。	横浜市開港記念会館	92	92	1,161
アーティスト・プロジェクト支援	小沢 剛 作品制作サポート	小沢剛の新作映像作品制作に参加し、楽曲のコーラスを担当した。	横浜美術館、横浜市開港記念会館	2	32	-
	柳 幸典 搬入サポート	柳幸典の新作制作サポートとして、横浜市開港記念会館への廃材の搬入を実施した。	横浜市開港記念会館	1	3	-
	オラファー・エリアソン ワークショップ インストラクター	《Green light-アーティストティック・ワークショップ》におけるランブキット組み立て作業の指導や、材料の下準備を行った。また会期前には組み立て指導の研修会を行った。	横浜美術館	24	106	-
アレックス・ハートリー 作品運営サポート	《どこでもない国大使館》の「大使」として、「入国審査」の対応及び「入国証明書」の発行を行った。	美術の広場	65	316	-	
	シュシ・スライマン 作品メンテナンスサポート	・屋外作品への水やりを会期中、1日に2回実施した。(雨天中止) ・屋外作品の補修メンテナンスサポートを実施した。	美術の広場	83 1	1	-
合計				888回	9,538	9,662

(2)自主活動

「交・観・繋・支」の4つの漢字それぞれをテーマに、活動イメージを元にグループを結成し、各グループのリーダーを中心にグループワークを重ね、これまでの自主的な活動で得た経験を生かしながら実践的な活動を会期前から会期中まで、継続的に行った。

- ・遠足……………他地域の芸術祭への遠足、交流会の企画運営を行った。
- ・料理部……………交流会等のイベントにおいて、料理提供を行う他、レシピやメニュー開発を行った。
- ・観る・学ぶ……………来場者向けのクイズや感想共有ノートの作成、感想共有会の企画運営を行った。
- ・アートアクセシビリティ…各会場へのアクセスマップの作成とこども向けワークショップを開催した。
- ・時をかけるヨコハマ……横浜の街を多角的な視点から紹介する案内書の作成と路上観察会を実施した。
- ・情報発信……………フリーペーパー「ヨコトリーツ!」の取材・編集を行った。
- ・活動支援……………自主活動全体のサポートとトークイベントの企画運営を行った。

閉幕後の活動

これまでの活動を振り返る会と、これからのサポーター活動の方向性を考えるシンポジウムを開催した。

■ふりかえり会～ヨコトリ2017 サポーター活動をプレイバック～

日時：11月23日(木・祝)
会場：横浜美術館 円形フォーラム
参加者数：71名

■シンポジウム「ひらいて・つなげる横浜トリエンナーレ」

日時：2018年2月24日(土)
会場：横浜美術館 円形フォーラム
登壇者：小川 希(Art Center Ongoing代表)
野原 卓(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授)
帆足亜紀(横浜トリエンナーレ組織委員会事務局プロジェクト・マネージャー)
上野正也(神奈川大学工学部建築学科特別助教)
参加者数：38名



シンポジウム「ひらいて・つなげる横浜トリエンナーレ」



1



2



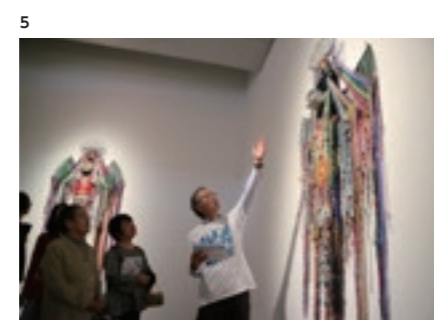
12



13



4



5



3



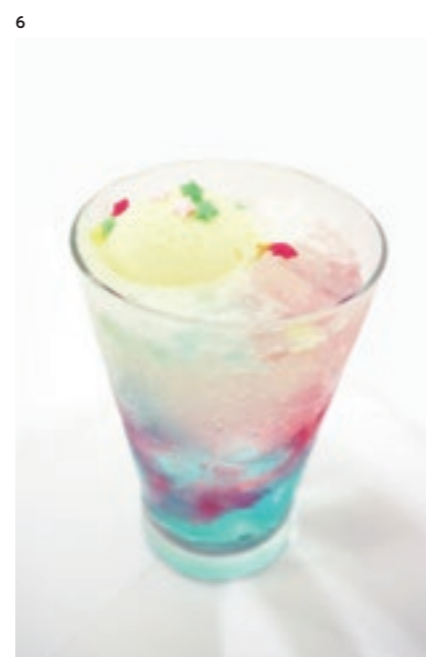
14



7



8



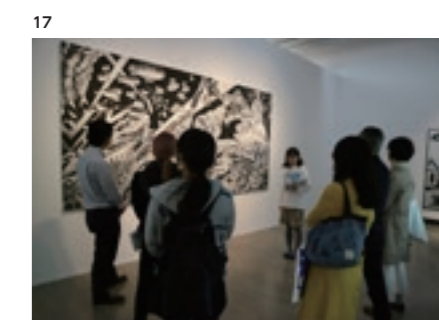
6



15



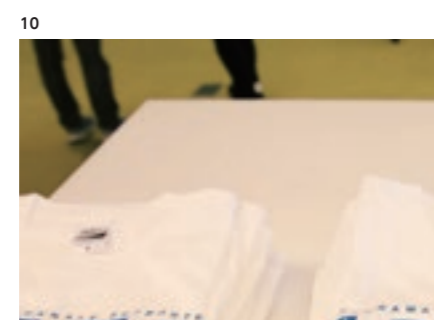
16



17



9



10



18



19



11



- 1 自主活動イベント「ファイナルラウンド-折り紙ワークショップ」(11月3日 - 11月5日)
- 2 ビジターサービスセンター(ハマトリートツ!ステーション)
- 3 ビジターサービスセンター(ハマトリートツ!ステーション)
- 4 自主活動・合同開室「活動内容をかためよう」(2016年6月19日)
- 5 ギャラリー・ツアー
- 6 café小倉山コラボメニュー「島と星座のクリームソーダ」
- 7 トリエナーレ学校vol.8(2016年10月26日)
- 8 第3回全国芸術祭サポーターズミーティングinヨコハマ(9月23日)
- 9 ビジターサービスセンター
- 10 ハマトリートツ!Tシャツ(会期中のユニフォーム)
- 11 作品前トーク(横浜市開港記念会館地下会場)
- 12 子どもアドベンチャー2017「親子で現代アート体験!」ワークショップ(8月17日、8月18日)
- 13 アレックス・ハートリー作品運営
- 14 ワークショップ「ぼくのそらぞりする最強のガラパゴス」(第33回全国都市緑化よこはまフェア 里山ガーデン)(5月3日 - 5月5日)
- 15 フリーペーパー「ヨコトリツ!」発行作業(2015年9月26日)
- 16 ワークショップ「オリジナル缶バッジ作り」(のきさきートフェアat 桜まつり)(2016年4月30日)
- 17 ギャラリー・ツアー
- 18 シュ・スライマン作品メンテナンスサポート(水やり)
- 19 横浜美術館入場待ちの来場者へのチラシ配り(11月5日)

サポーターのプロフィール

サポーター登録人数：1,470名(2018年1月4日現在)

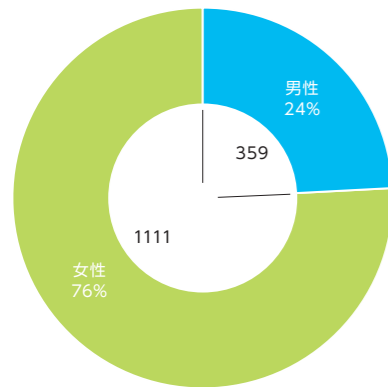
会期中活動参加人数：延3,289名(実人数：226名)

参加条件

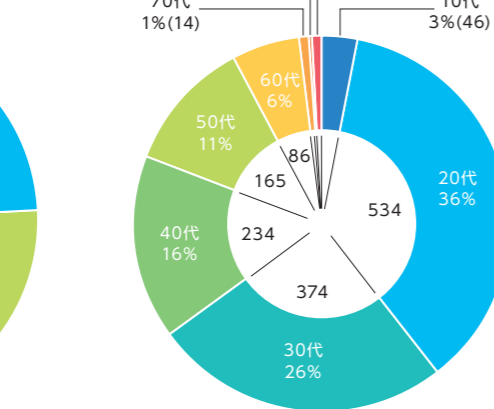
- ・16歳以上(18歳以下は原則として保護者の承認が必要)
- ・交通費、食費は不支給

登録者データ

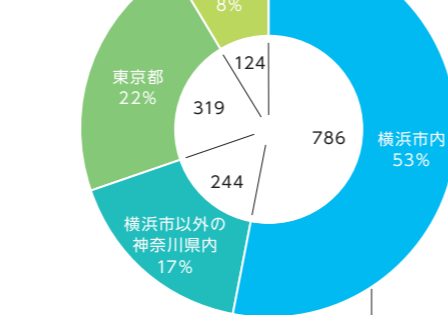
●男女比



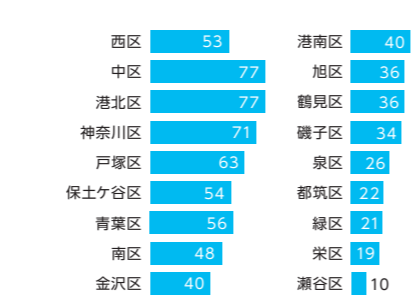
●年代別人数



●居住地域



●市内区の内訳



サポーターアンケートの結果

アンケート集計方法

サポーター登録者に対し、メールにてアンケートへの協力を依頼。

選択式もしくは文章記入によるアンケート調査を実施した。

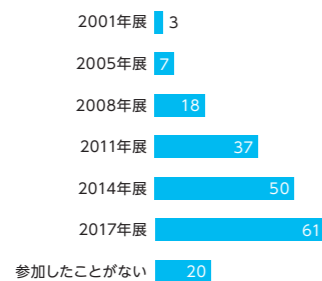
調査方法：ウェブアンケートシステム「Questant」にて実施

調査対象：2017年11月18日現在、Eメールにて連絡が可能なサポーター登録者(1,322名)

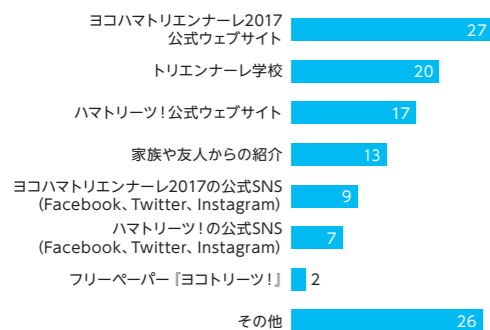
集計期間：2017年11月18日 - 12月10日

有効回答数：93

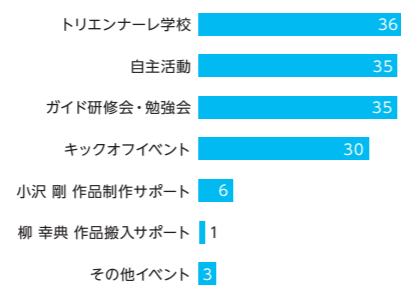
①今まで横浜トリエンナーレサポーター活動に参加したことがありますか



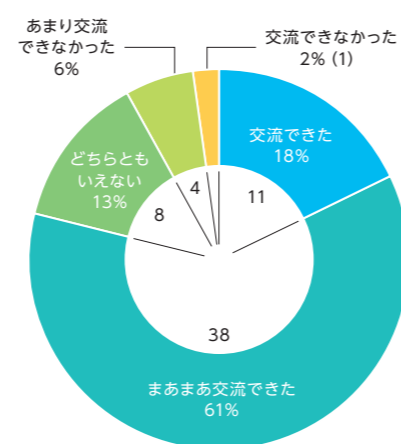
②サポーター活動を知ったきっかけ



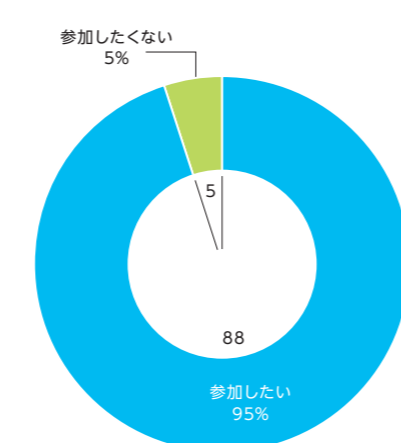
③どのような活動に参加しましたか



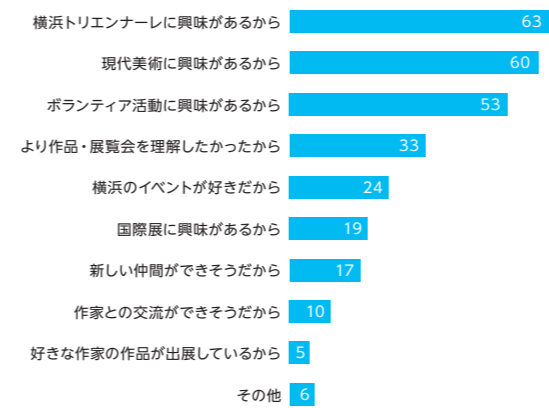
④サポーター同士の交流は生まれましたか



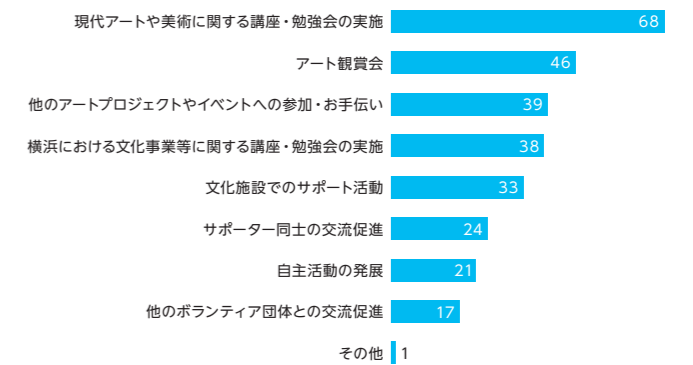
⑤今後もサポーター活動に参加したいですか



⑥サポーター登録をした理由



⑦今後のサポーター活動に期待することは何ですか



サポーターの声

アートに関わる

・アーティストの作品制作サポートに参加できることが最大の魅力だと感じています。オラファー・エリアソン《Green light-アーティストィック・ワークショップ》について日本ではあまり馴染みのない“難民”について知るきっかけとなる貴重なワークショップでした。ヨコハマトリエンナーレ2017期間中だけでなく、これからも継続して開催してもよい・した方がよい内容だと感じています。と同時に、インストラクター活動を通して得た技術・知識がこれで終わり、になることに“もったいなさ”と感じております。再びサポート出来る機会が訪れることを期待しております。ありがとうございました。

世代を超えた人とのつながり

・いろいろな人と知り合うことができ、楽しかった。
 ・サポーター同士の楽しい出会いもあり、アートとの触れ合いもふかくなり、おかげさまで楽しめました。
 ・ヨコトリだけでお目にかかる方とは3年に一度になるのでまた元気にお会いできるのを楽しみにしています。また新しいお仲間も増えて3年後が楽しみです。
 ・学生が少なく、サポーター同士の交流ができるか不安なところもありましたが、回を重ねるうちにたくさんの人から話を聞くことができ、参加してよかったと思いました!
 ・様々な動機のボランティアがいて、話ができるのは楽しかった!
 ・様々な方がいらっしやるので、色々学べました。

活動のたのしさ

・こんなに色々な経験ができるボランティアはあまりないと思う。
 ・運営事務局の方々がとても感じの良い方でした。次回もぜひ参加したいと思いますので、よろしくお願いたします。
 ・楽しかったです。スタッフの皆さんの努力の賜物と思います。御世話様でした(^_^)
 ・楽しく参加出来ました。
 ・今回2回目の参加になりましたが、楽しく参加させてもらいました。
 ・今回初めて参加させて頂きました。大変、有意義で楽しい時間でした。3年後に参加させて頂く際は、今回の経験を活かせればと思います。
 ・初めての参加できつい面もありましたがとても楽しい経験をしました。皆さんのすごいエネルギーを肌で感じましたし、特にコアで活躍された方々に多謝。
 ・初めて参加しましたが、現代美術についての理解も深まり、人々との交流もあり、とてもよかったです。ワークショップのインストラクターなどもっと参加したかったのですが、日程の都合が合わず残念でした。また、次回展でも参加したいと思いました。ありがとうございました。
 ・全体を通じて十分堪能することができました。

横浜らしさ

・思い思いに自身を表現している横浜トリエンナーレサポーターの姿から横浜らしさが感じられ、楽しかったです。



「Hama-Treats!(ハマトリーツ!)」は横浜トリエンナーレサポーターの愛称。「トリーツ/Treats」には、「思わぬ喜び、とてもいいもの」という意味があり、ヨコトリを通じて愛する横浜の“Treat”を広く世界に発信していく人たちという意味を込めて、サポーター内で公募し、決定しました。

10 各種連携事業

まちの資源を利活用した文化芸術による「賑わいの創出」とまちとの一体感による「祝祭感」を醸成すること目指し、創造界限拠点、市民、NPO団体、企業、アーティスト、クリエイター等、各団体の特性に合わせてチケット連携や広報連携などを実施した。

ヨコハマトリエンナーレ2017と一緒に楽しめるアートプログラム

BankART1929及び黄金町エリアマネジメントセンターの事業とのセット券を販売し、会場間無料バスを運行したほか、ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017をはじめとする多数の創造界限拠点のアートプログラム等が開催された。

「セット券」で鑑賞できるプログラム

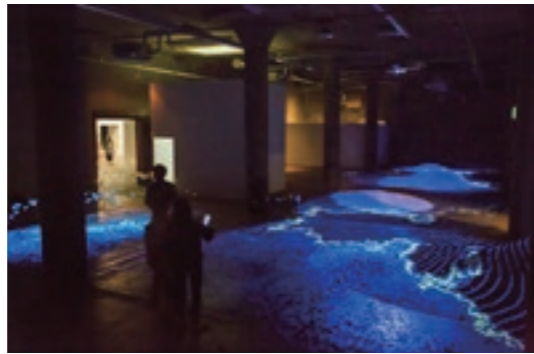
■BankART LifeV-観光

「近くにあるのに気づかない、遠くに思える存在、あるいは遠ざけていて近づけない」そんな場所と人に積極的に関わっていく。BankART Studio NYKの大規模な空間を活用した大型の作品群と黄金町地区へ向かう道程の都市的な道草が今回の展覧会のテーマ。そして観光という言葉の「光を観る」の本意に迫った。

日時：8月4日(金) - 11月5日(日) [第2・4木曜日休場]
10:00-19:00(10/27-29、11/2-4 は21:30まで)
会場：BankART Studio NYKほか
主催：BankART1929
来場者数：33,032名



丸山純子《無音花畑-NYK 2017, dear K.I.》2017
©BankART1929



高橋啓祐《The Fictional Island》2017
©BankART1929

■黄金町パザール2017-Double Façade 他者と出会うための複数の方法

黄金町パザールは、黄金町エリアのまち一帯を舞台に、2008年より毎年開催しているアートフェスティバル。10回目の節目となる今回は、ゲストキュレーターに窪田研二氏を迎え、「社会の多様性と自他の関係性」をテーマとし、国内外から8か国25組のアーティストが参加。作品展示のほか、制作プロセスの公開や参加型プログラムなど多彩な内容で展開し、多種多様な個体が共存する世界について問いかけた。

日時：vol.1 8月4日(金) - 9月13日(水)
vol.2 9月15日(金) - 11月5日(日)
[第2・4木曜日休場] 11:00-18:30(10/27-29、11/2-4 は20:30まで)
会場：初黄・日ノ出町地区、京急線「日ノ出町駅」から「黄金町駅」間の高架下スタジオほか
主催：認定NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会
来場者数：38,703名



キャンディー・バード(街車味のチャーハン) 2017
Photo: Ryudai Abe



有川滋男《(再)解釈:ゴールドタウン》2017
Photo: 加藤甫

※創造界限拠点…BankART Studio NYK、初黄・日ノ出町地区、象の鼻テラス、YCC ヨコハマ創造都市センター、急な坂スタジオ、THE BAYS

期間中に横浜で開催された主なアートプログラム

■ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017

障がいのあるなしに関わらず多様な市民やアーティストらが対等な立場で芸術活動に取り組み、障がいのある方が社会活動に参加する機会をつくり、あらゆる立場の人が関わりを持つ寛容性のある共生社会の実現を目指すアートプロジェクト。

今回展のテーマは「sense of oneness とけあところ」。創作、発表、展示を3部に期間を分けて実施した。

日程：第1部 創作(ワークショップ等) 5月27日(土) - 9月30日(土)
第2部 発表[不思議の森の大夜会] 10月7日(土) - 10月9日(月)
第3部 展示(市内施設での巡回展示) 11月8日(水) - 2018年1月27日(土)

会場：象の鼻パーク、象の鼻テラスほか市内各所
主催：横浜ランデヴープロジェクト実行委員会、特定非営利活動法人スローレーベル
参加・来場者数：125,953名

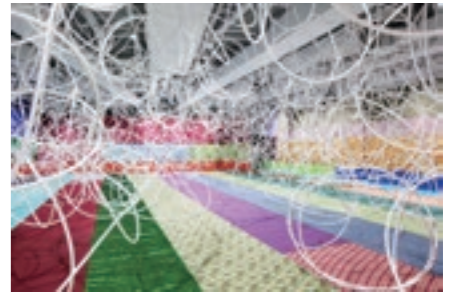


ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017 第2部 発表[不思議の森の大夜会]
Photo: Hajime Kato

■YCC Temporary 鬼頭健吾

YCC ヨコハマ創造都市センター主催のアート・プログラム「YCC Temporary」の第三弾として、美術家 鬼頭健吾氏による展覧会を開催。鬼頭健吾氏は、フラフープ、糸、布、鏡など、私たちの身近にある既製品を用いて、動き、反復、複雑さなどを取り入れながら美術作品を制作する作家として知られている。本展では、フラフープと布を使った新作の大型インスタレーションを展示した。

日時：8月4日(金) - 9月17日(日) 11:00-18:00 ※金土祝19:30まで
会場：YCC ヨコハマ創造都市センター
主催：YCC ヨコハマ創造都市センター(NPO法人YCC)
来場者数：11,574名(うち、有料会場来場者数1,247名)



鬼頭健吾《Eraser cave》2017
Photo: 木暮伸也

■Creative Waterway-川と海でつなぐ創造の拠点

横浜都心臨海部の海や大岡川周辺の水辺を舞台に様々なアート作品を展示し、クリエイティブな活動を行う6つの「創造界限拠点」を、川と海でつなぐ、屋外展示型のアートプログラム。期間中は、船上での音声によるツアーパフォーマンスや、水辺の展示作品が鑑賞できるアートクルーズも運行し、クリエイティビティ溢れるアート作品によって変わる、いつもと違う横浜の水辺を魅せた。

日程：8月4日(金) - 11月5日(日) [展示期間はプログラムや作品により異なる]
会場：横浜都心臨海部(大岡川~象の鼻パーク周辺)
主催：横浜市



普転(プ・ユン)《揺れる家》2017
Photo: Hajime Kato

■スマートイルミネーション横浜2017

省エネ技術とアートが織りなす、世界のどこにもない夜景作りのプロジェクト。7回目となる今年は、世界からアーティストたちが横浜に集結、象の鼻パークに加え、街中でも多様な表現を繰り広げた。

日時：コアフェスティバル 11月1日(水) - 5日(日) 17:00 - 22:00
ヨコハマ・イルミネーション・マンス 11月1日(水) - 12月31日(日)
[開催時間はプログラムにより異なる]

会場：象の鼻パーク、関内地区ほか市内全域
主催：スマートイルミネーション横浜実行委員会
来場者数：182,000名(コアフェスティバルのみ)



Smart Illumination Yokohama 2017
Photo: Hideo Mori

■東京藝術大学オープンシアター

東京藝術大学大学院映像研究科と横浜市による地域貢献事業の一つ。9月には、世界的に著名な映画編集者ヤン・デデ氏を講師に迎え、彼が編集した映画作品を上映したほか、特別講義を開催した。

また、10月には日本未公開の映画作品の上映会も実施した。

日時：9月9日(土)、10日(日)、10月14日(土)、15日(日) 14:00 - 18:00
会場：東京藝術大学 横浜校地 馬車道校舎3F 大視聴覚室
主催：東京藝術大学大学院映像研究科、横浜市文化観光局
来場者数：454名



東京藝術大学
講師のヤン・デデ氏(右)、進行の筒井武文教授(左)

応援プログラム

ヨコハマトリエンナーレ2017の開催期間中に、文化芸術拠点やアートNPO団体等が主催する様々なジャンルのイベント・企画と相互広報協力を行った。(110プログラム)

	プログラム名	ジャンル	日程	会場	主催	来場者・参加者数
1	若手作家による新しい表現展 アートにな ができるか1「宮澤賢治挿絵原画展」	美術	8月25日(金) - 8月27日(日)	art gallery, on the wind	art gallery, on the wind	60名
2	NFD創立50周年記念 日本フラワーデザイン大賞2017	その他(フラ ワーデザイン)	9月30日(土) - 10月1日(日)	パシフィコ横浜	公益社団法人 日本フラワーデザイナー協会	来場者 5,328名 参加者 約700名
3	若手作家による新しい表現展 アートにな ができるか 2「ゆくらゆくら展」	美術	9月9日(土) - 9月17日(日)	art gallery, on the wind	art gallery, on the wind	80名
4	瀬谷の魅力フォトコンテスト写真展	その他 (写真)	区民投票：10月29日(日) 写真展：11月10日(金) - 11月 12日(日)	区民投票:瀬谷駅南北自由通路 写真展:三ツ境相鉄ライフ 3階コミュニティスペース	瀬谷区役所	約2,700名
5	第73回ハマ展	美術	11月1日(水) - 11月13日(月)	横浜市民ギャラリー(全館)	横浜美術協会	-
6	おやこワークショップ	その他(ワー クショップ)	①9/8 おいしい焼き立てパ ンを作って食べよう! ②9/22 ボトルテラリウム作り	街山八幡社 青少年会館	まちとこどもアートでつながる humhum	12名
7	星空観望会2017	その他(多世 代交流イベン ト、星空観望)	7月27日(木) - 10月27日(金)	第1回、第2回 連合自治会館 第3回 並木北コミュニティハウス 第4回 並木第四小学校地域交流室	これからの並木を創る会 星空観賞クラブ	来場者 105名 参加者 159名
8	こどものための音楽会 in ミュージアム	音楽	8月12日(土)	日本郵船歴史博物館	日本郵船歴史博物館	来場者 308名 参加者 138名
9	目指せ人生の南十字星	美術・演劇・ 音楽・映像	8月14日(月) - 8月24日(木)	展示会場:パセセンター上大岡、パセセン ター上大岡プラザ、パセセンター東戸塚 公演会場:港南地区センター「ひまわり の郷」ホール(8/22開催)	一般社団法人 神奈川社会福祉支援パセセンター	来場者4会場 合計 約350名 参加者 約35名
10	第19回カナガワビエンナーレ国際児童画展	美術	7月7日(金) - 8月20日(日)	神奈川県立地球市民かながわプラザ (あーすぶらざ) 企画展示室	神奈川県、神奈川県立地球市民 かながわプラザ(指定管理者:公 益社団法人青年海外協力協会)	6,418名
11	リリス藝術大学美術学部 現代アートはじめて講座	美術	9月19日(火) - 9月20日(水)	栄区民文化センターリリス、横浜美術館	横浜市栄区民文化センターリリス	27名
12	B1コンサートMONO-桑田 歩-	音楽	8月11日(金)	横浜市民ギャラリー-展示室B1	横浜市民ギャラリー(公益財団法 人横浜芸術文化振興財団/西 田装美株式会社 共同事業体)	119名
13	インタラクティブ デジタルアート	映像	5月14日(日) - 9月17日(日)	ヨコハマ グランド インターコンチネ ンタルホテル 1階および2階ロビー	ヨコハマ グランド インターコンチ ネンタル ホテル	-
14	ポコスの島と星とガラパゴス	美術	8月29日(火) - 9月4日(月)	展示、プロジェクトマッピング: マークイズみなとみらい2Fぶらりギャ ラリー ワークショップ: 1Fみんなのアトリエ	横浜美術大学 ポコスプロジェクト	来場者 約1,500名 参加者 約35名 (スタッフ)
15	あざみ野ナイト	映像・音楽(ラ イブシネマ)	8月6日(日)	横浜市民ギャラリーあざみ野 エントランス	横浜市民ギャラリーあざみ野 (公益財団法人横浜芸術文化 振興財団)	来場者 163名 参加者 179名
16	オープンキャンパス「ハマ美フェスタ」	美術	7月15日(土)、16(日) 8月19日(土)、20(日)	横浜美術大学	横浜美術大学	1,214名
17	吉田 誠 コレクション 展	美術	10月9日(月) - 10月27日(金)	横浜美術大学 大学ギャラリー	横浜美術大学 大学ギャラリー	500名
18	富士ゼロックス版画コレクション展覧会 「河口龍夫展」	美術	6月5日(月) - 9月1日(金)	富士ゼロックス・アートスペース	富士ゼロックス株式会社	289名
19	横浜 JAZZ PROMENADE 2017	音楽	10月7日(土)、10月8日(日)	横浜市開港記念会館ほかホール、 街角、ジャズクラブ市内54会場	横浜 JAZZ PROMENADE 実行委員会	来場者 148,000名 参加者 2,710名
20	三遊亭萬橋独演会〜よこはま萬々〜	その他(落語)	8月23日(水)	横浜にぎわい座 のげシャール(小ホール)	横浜にぎわい座	-
21	よこはま宮治展	その他(落語)	8月29日(火)	横浜にぎわい座 のげシャール(小ホール)	横浜にぎわい座	-
22	踊る!はなし家三人衆	その他(落語)	8月30日(水)	横浜にぎわい座 のげシャール(小ホール)	横浜にぎわい座	-
23	阪田清子個展「不確かな立ち位置の集合体」	美術	8月25日(金) - 9月9日(土)	GALERIE PARIS	GALERIE PARIS	約300名
24	ダンス保育園 !!	美術・音楽・ ダンス	9月9日(土)	象の鼻テラス	ダンス保育園 !! 実行委員会	来場者 約300名 参加者 84組
25	あざみ野カレッジ 制作⇄発表 ヨコトリ 2017参加アーティスト 川久保ジョイの場 合	美術	8月27日(日)	横浜市民ギャラリーあざみ野 3Fアトリエ	横浜市民ギャラリーあざみ野 (公益財団法人横浜芸術文化 振興財団)	46名
26	ヨコハマトリエンナーレ2017応援事業 (出張アトリエゾウノハナ) 曾谷朝絵ワークショップ[MIZUNOMICHI]	美術	8月16日(水)	戸塚区総合庁舎3階区民広間	戸塚区役所地域振興課	310名
27	レオナルド・ダ・ヴィンチ展 一天才の手から生まれた未来への夢	美術	8月2日(木) - 10月15日(日)	そごう美術館(そごう横浜店6階) 休館日: 9月11日(月)	そごう美術館、レオナルド・ダ・ヴィ ンチ展実行委員会	-
28	～近代建築のガラパゴス～ 大倉山記念館の魅力と秘密	美術・その他 (歴史、建築)	8月2日(水) - 8月20日(日)	大倉山記念館ギャラリー	公益財団法人大倉精神文化研究所 横浜市大倉山記念館	359名
29	アート オブ ウルトラセブン展	その他(コマ シャルアート)	9月16日(土) - 9月24日(日)	ヨコハマ・ポート・マーケット (横浜ワールドポーターズ2F)	ジョイントワークス	来場者 約2,000名 参加者 37名
30	華麗実存-台湾新美術展	美術	8月9日(水) - 8月14日(月)	戸塚区民文化センター さくらプラザ ギャラリー	台湾アーティストモダン展執行委員会	来場者 1,306名 参加者 110名
31	ambrosia 壁画プロジェクト	美術	9月23日(土) - 11月5日(日)	ambrosia	ambrosia 壁画プロジェクト	20名
32	新・今日の作家展2017 キョウのかたち/キョウのかたち	美術	9月22日(金) - 10月9日(月)	横浜市民ギャラリー-展示室1、B1	横浜市民ギャラリー(公益財団法 人横浜芸術文化振興財団/西 田装美株式会社 共同事業体)	4,579名

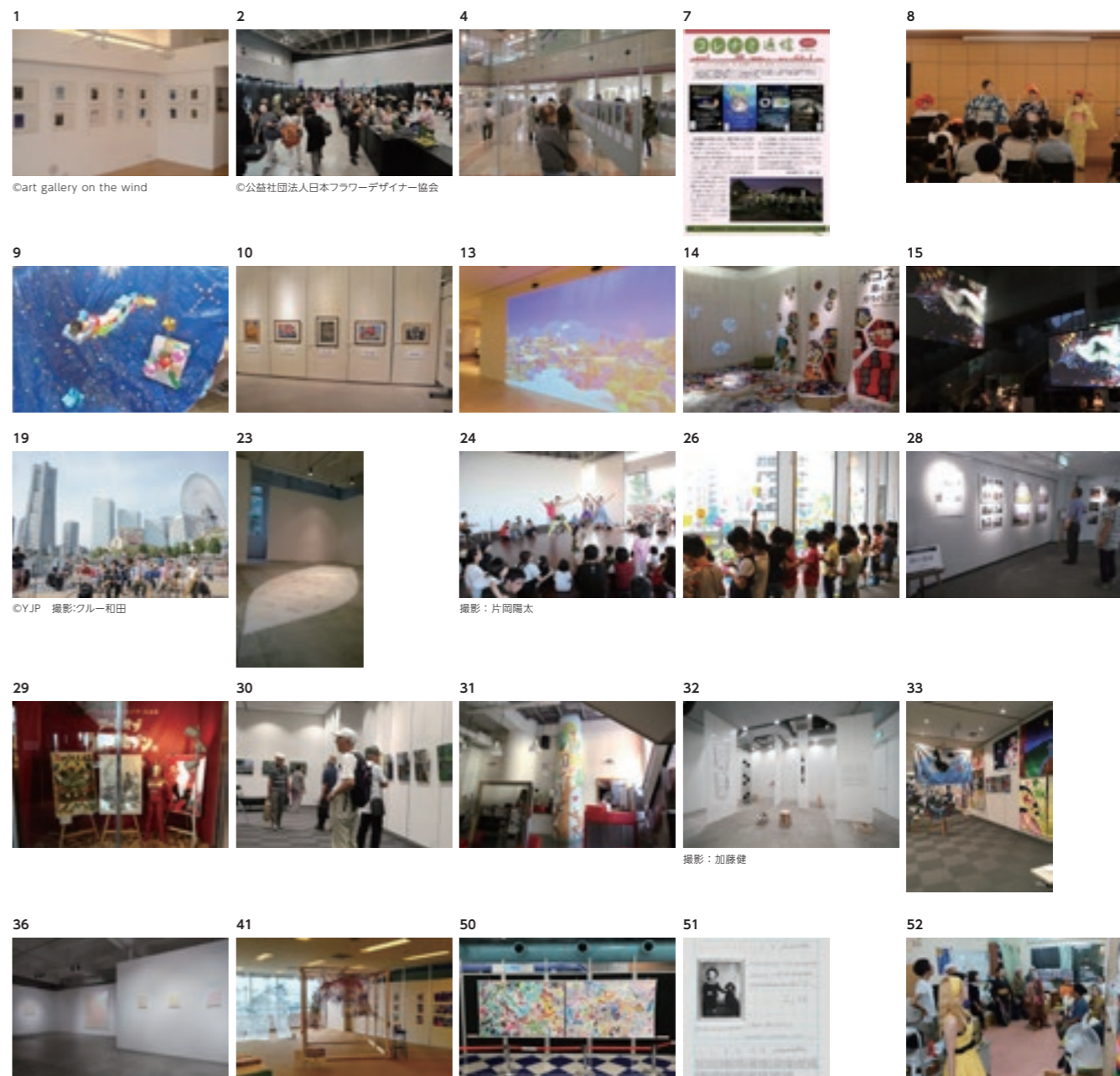
	プログラム名	ジャンル	日程	会場	主催	来場者・参加者数
33	平成29年度横浜市立中学校美術部展 (ジュニアトリエンナーレ2017)	美術	8月2日(水) - 8月7日(月)	さくらプラザ(戸塚区民文化センター 3階ギャラリー)	横浜市立中学校教育研究会 美術科部会	756名
34	若手作家による新しい表現展 アートにな ができるか3「アジアの華展2017」	美術	10月7日(土) - 10月22日(日)	art gallery, on the wind	art gallery, on the wind	120名
35	田代聖晃 個展 「ブラックホールで死んでみる」	美術	9月2日(土) - 9月16日(土)	gallery fu	gallery fu	来場者 102名 参加者 22名
36	フランス真悟 Interference New Painting	美術	8月3日(木) - 8月19日(土)	GALERIE PARIS	GALERIE PARIS	約500名
37	あざみ野コンテンポラリーvol.8 渡辺豪 ディスロケーション/dislocation	美術	10月7日(土) - 10月29日(日)	横浜市民ギャラリーあざみ野 展示室1、2	横浜市民ギャラリーあざみ野 (公益財団法人横浜芸術文化 振興財団)、公益財団法人五島記 念文化財団	来場者 3,451名 参加者 194名
38	チョークアートで描こう♪ ワンちゃん猫ちゃん似顔絵ワークショップ	美術(チョーク アート)	8月4日(金) - 11月5日(日)	エピソードディングアート主催 [EPA横浜元町チョークアートスクール]	エピソードディングアート	-
39	コンサート in ミュージアム	音楽	9月9日(土)	日本郵船歴史博物館	日本郵船歴史博物館	来場者 256名 参加者 186名
40	ハマキッズ・アートクラブ 「現代アートを と一緒に つくる=かんがえる?」	美術	9月2日(土)	横浜市民ギャラリー- 4階アトリエ	横浜市民ギャラリー(公益財団法 人横浜芸術文化振興財団/西 田装美株式会社 共同事業体)	来場者 38名 参加者 33名
41	糸 70OKU=TSUNAGU [糸 70億・つなぐ]	美術・その他 (国際協力)	8月4日(金) - 8月30日(水)	JICAよこはまプラザ3F	gallery fu、NPO法人CoC、 野毛坂ローカル	来場者 1,748名 (大人1,335名、中 学生以下413名) 参加者 1,310名
42	Extinction	美術	9月1日(金) - 9月11日(月)	LAUNCH PAD GALLERY	LAUNCH PAD GALLERY	-
43	Protection	美術	10月6日(金) - 10月16日(月)	LAUNCH PAD GALLERY	LAUNCH PAD GALLERY	-
44	ルネサンスの音とあそぶ ～vino, lacrima, donna e uomo～	音楽	10月13日(金)	大倉山記念館	音楽団体incontro	-
45	日本郵船創業記念月特別コンサートin ミュージアム - 船が運んだ音楽 -	音楽	10月14日(土)	日本郵船歴史博物館	日本郵船歴史博物館	来場者 234名 参加者 144名
46	ホッチポッチミュージックフェスティバル 2017	音楽	10月15日(日)	関内駅南口・横浜公園・日本大通り・ 横浜駅東口他	ホッチポッチミュージックフェス ティバル実行委員会	来場者 延べ 3,000名 参加者 約250名 (ボランティアスタッ フ、出演者)
47	museum tour for wondering eyes	美術(キッズ アートワーク ショップ)	8月20日(日)	横浜美術館	Little Artists League Yokohama	-
48	あざみ野アートシネマvol.4 (あざみ野サロン) 篠田太郎特集上映会「パラダイムシフト」	映像(スクリー ニング)	9月9日(土)	横浜市民ギャラリーあざみ野 3Fアトリエ	横浜市民ギャラリーあざみ野 (公益財団法人横浜芸術文化 振興財団)	来場者 48名 参加者 60名
49	闇の中に光を求めて ～Kenjiの世界～	その他(朗読)	9月16日(土)	横浜市開港記念会館9号室	ハタステージングオフィス	-
50	親子でアート! 星座をつないでひとつになろう	美術	8月27日(日)	はまぎん こども宇宙科学館	はまぎん こども宇宙科学館・ 横浜銀行	来場者 1,252名 参加者 40名
51	富士ゼロックス版画コレクション展覧会 「ハンネ・ダルフーフ展」	美術	9月11日(月) - 12月8日(金)	富士ゼロックス・アートスペース	富士ゼロックス株式会社	226名
52	水族館劇場の紹介展示	美術・演劇	8月13日(日) - 9月17日(日)	風のバード	特定非営利活動法人 空	50名
53	宮川慶子個展「filtration」	美術	9月19日(火) - 10月1日(日)	gallery fu	gallery fu	96名
54	金沢動物園アニマルアートコラボ展Vol.8	美術	10月7日(土) - 11月5日(日)	横浜市立金沢動物園	横浜市緑の協会	31,930名
55	KAIEの楽園	美術	8月18日(金) - 8月28日(月)	LAUNCH PAD GALLERY	LAUNCH PAD GALLERY	-
56	中上清「ヨコハマソダチ」	美術	9月12日(火) - 9月24日(日)	GALERIE PARIS	GALERIE PARIS	約150名
57	ペーパークラフトで楽しむ ヨコハマトリエンナーレ !!	その他(創作 アートワーク ショップ)	8月4日(金) - 11月5日(日)	ひらがな商店街アートスペース「と」	ひらがな商店街アートスペース 「と」	-
58	親子でアートのある暮らしをはじめよう!	美術	8月11日(金)	横浜市開港記念会館	アートのある暮らし協会	29名
59	urayoko net	その他(スタ ンプラリー)	9月1日(金) - 11月30日(木)	横浜駅東口周辺	裏横浜地域活性化プロジェクト urayokonet委員会	来場者 9,599名 参加者 1,312名
60	みなもアートプロジェクト vol.2	美術	8月12日(土) - 10月8日(日)	港北みなも 各階	港北みなもマネジメントオフィス	-
61	Project わたしたちの「接続性」と「孤立」 vol.1 点と線から面へ 展	美術	9月2日(土) - 9月10日(日)	Art Lab Ova横浜/パラダイス会館	横浜市立大学 わたしたちの「接続性」と「孤立」プ ロジェクト	来場者 50名 参加者 25名 (9月3と9日に開催 したイベント)
62	都筑区民文化祭 × 横浜ビー・コルセアーズ 応援事業 アートプロジェクト	美術	8月24日(木) - 10月21日(土)	港北みなも、横浜国際プール	都筑区民文化祭実行委員会、 都筑区役所	来場者 約4,000名 参加者 138名
63	横浜市緑図書館 窓辺展示	その他 (本の展示)	8月1日(火) - 8月31日(木)	横浜市緑図書館	横浜市緑図書館	-
64	カタログで楽しむ美術展	美術	9月20日(水) - 11月5日(日)	横浜市中央図書館 5階エレベーター前	横浜市中央図書館 調査資料課	-
65	学芸員の仕事とは? - 横浜美術館の場合	美術	10月7日(土)	横浜市中央図書館 5階第一会議室	横浜市中央図書館 調査資料課	35名
66	横浜美術大学イラストレーションコース Treasure island 絵本展	美術(絵本の 展覧会)	10月13日(金) - 10月16日(月)	Craft shop & Art Gallery ethnica -エスニカ-	横浜美術大学 イラストレーションコース	100名
67	金属加工×多肉植物 メタルDIYで寄せ植え体験	美術	10月28日(土)	メタルDIY(株式会社関東精密内)	はまリンク	11名
68	キッズウィーク	その他 (キッズワー クショップ)	9月16日(土) - 9月24日(日)	横浜ベイフォーター4F スマイルキッズステーション内	横浜ベイフォーター	来館者 200,000名 参加者 298名 (定員290名)

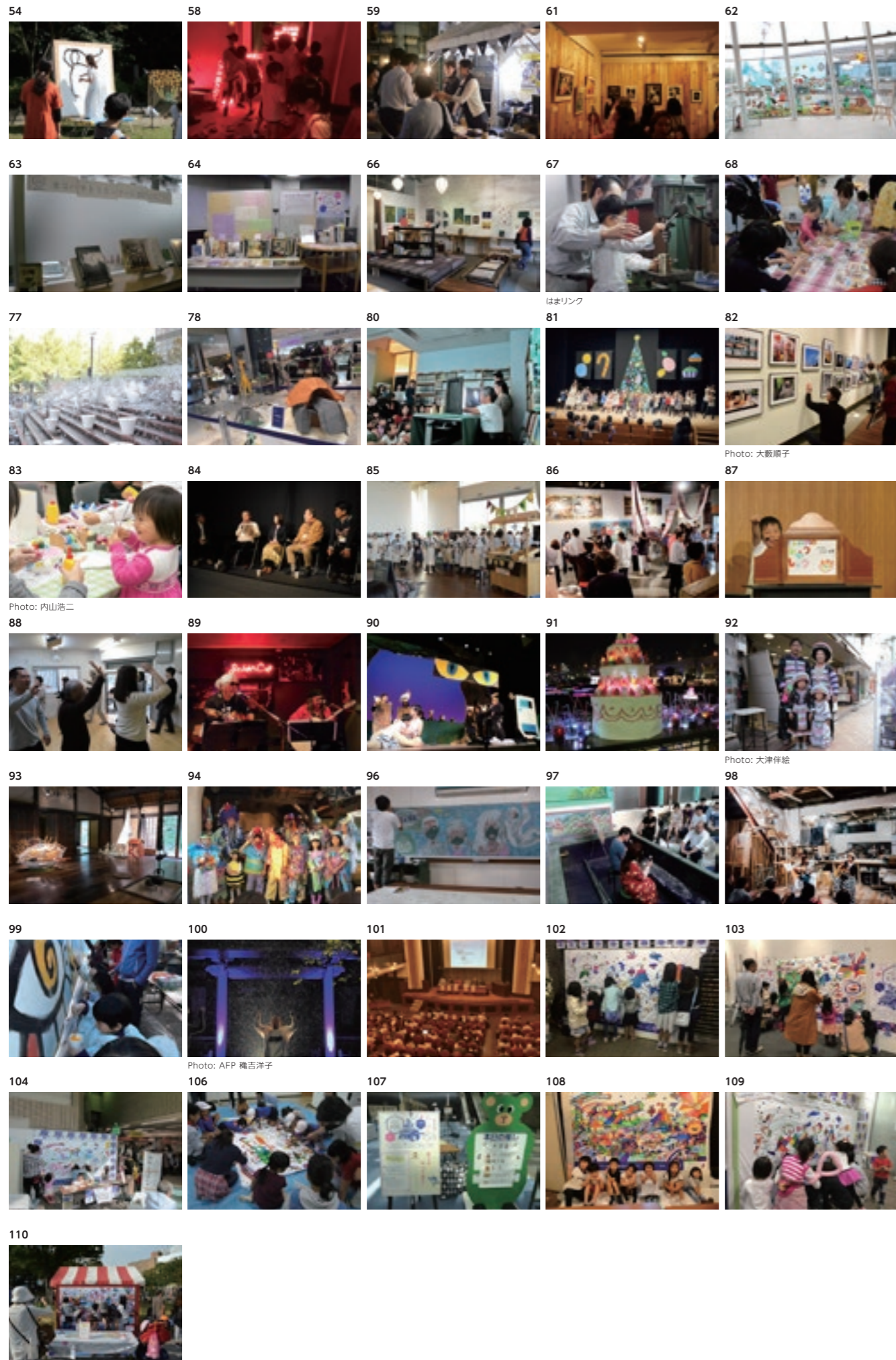
	プログラム名	ジャンル	日程	会場	主催	来場者・参加者数
69	永野のり子個展	美術	10月23日(月) - 10月29日(日)	GALERIE PARIS	GALERIE PARIS	約200名
70	濱三女・blueの魅力展	その他(作品 展示販売)	7月27日(木) - 8月22日(火)	横浜帆布靴 万国橋本店内 芭和居庵	横浜帆布靴 株式会社	-
71	アジール寿——集いの風景——	美術・その他 (講演)	10月14日(土) - 10月21日(土)	風のバード	特定非営利活動法人 空	30名
72	「ワグナー・プロジェクト」 —「ニルンベルクのマイスター・ジンガー」—	演劇	10月20日(金) - 10月28日(土)	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ	KAAT神奈川芸術劇場	947名
73	島野聖子個展「Polarisに向かう日 —北極星と輝ける星々」	美術	9月2日(土)、9月3日(日)	エリスマン邸 地下ホール	グラスサラ	-
74	パライア	美術	10月4日(水) - 10月10日(火)	ギャラリーソコソコ	パライア	-
75	日常劇場 (ゆたかないばしょのさがしかた)	美術	10月1日(日) - 10月29日(日)	nitehi works	似て非works	-
76	大人のためのアトリエ講座 クロストーク 「継承のかたち」	美術	9月23日(土)	横浜市民ギャラリー 4階アトリエ	横浜市民ギャラリー(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団/西 田装美株式会社 共同事業体)	53名
77	大巻伸嗣 Memorial Rebirth	美術	10月7日(土)、10月8日(日)	神奈川県民ホール屋外広場 (山下公園に面したレンガの広場)	神奈川県民ホール(公益財団法人 神奈川芸術文化財団)	来場者 4,194名 参加者 33名
78	新横浜プリンスペペ 秋の芸術ふれあいイベント	美術	8月29日(火) - 9月28日(木)	新横浜プリンスペペ 1F特設会場	新横浜プリンスペペ	190名
79	マチノトリエンナーレ	美術・ダンス・ ワークショップ ・映像・ト ーク企画 等	9月9日(土) - 11月5日(日)	横浜市内各所	マチノトリエンナーレ	約10,000名

ヨコハマアートサイト2017

80	アーモンド・凸凹コミュニティアート・ プロジェクト	その他	9月16日(土) - 12月9日(土)	横浜市歴史博物館(講堂、研修室)、 アーモンドホープセンター、なごみ邸他	特定非営利活動法人 アーモンド コミュニティネットワーク	383名
81	子どものためのアート・音楽・ダンスをいっ ぱんに楽しむわくわくワークショップ シリーズVol.6	その他	10月5日(木) - 12月2日(土)	戸塚区民文化センター さくらプラザ	認定NPO法人あっちこっち	350名
82	PictureThis2017:横浜インターナシヨ ナルユースフォトプロジェクト	その他	8月13日(月) - 2018年1月21日(日)	ワークショップ:なかに区民活動センター 展示会:象の鼻テラス	横浜栄写友	3,822名
83	ここに響く打楽器作っちゃおう	その他	7月21日(金) - 1月26日(金)	子育て支援拠点のんびりんこ	NPO法人打楽器コンサート グループ・あしあと	855名
84	ヨコハマ・ドキュメンタリー映画普及プロ ジェクト2017 特集上映「変わりゆく街、変わ りゆく子どもたち -ハマを見つめたドクメン タリー映画-」	その他	11月3日(金)	横浜シネマリン	映像グループローポジション	284名
85	SLOW ACADEMY 福祉施設と地域コ ミュニティをつなぐワークショップ	その他	7月6日(木) - 2018年1月31日(水)	港南福祉ホーム、かたるべ会、 象の鼻テラス	特定非営利活動法人 スローレーベル	135名
86	「会社まるごとギャラリー2017」	その他	9月23日(土) - 11月22日(水)	山陽印刷(株)他	アーティストネットワーク+コンパス	322名
87	第18回手づくり紙芝居コンクール	その他	7月13日(木) - 12月26日(火)	神奈川県立青少年センター 多目的プラザ	紙芝居文化推進協議会	1,478名
88	カドベヤ・オープンDAY —つどおう・かたろう・つながろう	その他	7月4日(火) - 2018年1月31日(水)	レンタルスペース「カドベヤ」	居場所「カドベヤで過ごす火曜 日」運営委員会	309名
89	本教アートプロジェクト2017	その他	10月11日(水) - 12月10日(日)	本牧エリア一帯/ 拠点:HONMOKU AREA-2	NPO法人 Offsite Dance Project	551名
90	みんなでワークショップ	その他	8月19日(土) - 2018年1月21日(日)	みどりアートパーク	NPO法人ぶかぶか	594名
91	大岡川アートプロジェクト 「光のぶるむなあと2017」	その他	7月22日(土) - 12月10日(日)	蒔田公園	大岡川アートプロジェクト実行委員会	6,540名
92	横浜下町パラダイスマツリ2017+ よこはま若葉町多文化映画祭2017	その他	8月19日(土) - 8月27日(日)	シネマ・ジャック&ベティ、 横浜パラダイス会館、その周辺	横浜下町パラダイスマツリ実行委員会	1,978名
93	都筑・遺跡公園・民家園アート月間2017	その他	7月22日(土) - 9月7日(木)	大塚・蔵勝土遺跡公園、工房、 都筑民家園	NPO法人都筑民家園管理運営委員会	3,482名
94	第19回金沢文庫芸術祭	その他	9月17日(日) - 10月22日(日)	[1DAYイベント]横浜 海の公園 [街角アートラリー]アサバアートスクエ アなど	金沢文庫芸術祭実行委員会	3,820名
95	障害者も健常者も分け隔てなく生きた芸術 を広げようリビングアートネットワーク	その他	10月4日(水) - 2018年1月27日(土)	ワークショップ:ともだちの丘作業室 A・B フェスティバル:にぎわい座ホール	リビングアートネットワーク	1,817名
96	ティーンズクリエイション展2017	その他	7月16日(日) - 11月26日(日)	栄区民文化センター リリス、地球市 民かながわプラザ「あーすぶらざ」、 青少年の地域活動拠点「フレンズ☆ SAKAE」ほか	さかえdeつながるアート	510名
97	横浜・藤棚シネマ商店街2017 アニメフェスティバル	その他	7月11日(火) - 8月13日(日)	シネマノヴェチエント	横浜・藤棚シネマ商店街実行委員会	720名
98	「踏る旧劇場」 〜クリエイターオフィスのオープンスタジオ〜	その他	7月21日(金) - 2018年1月31日(水)	旧劇場	旧劇場オープンスタジオ 実行委員会	135名
99	石川町ストリートアートプロジェクト	その他	10月16日(月) - 10月21日(土)	ひらがな商店街、 ひらがな商店街ウェストアベニュー	石川町ストリートアートプロジェ クト実行委員会	518名
100	土方巽 1960 しずかな家III	その他	10月13日(金) - 10月17日(火)	光明山遍照院東福寺ほか	「土方巽1960しずかな家」 実行委員会	109名
101	横浜映画ネットワーク実行委員会	その他	7月31日(月) - 10月16日(月)	横浜市開港記念会館	横浜シネマネットワーク実行委員会	388名

	プログラム名	ジャンル	日程	会場	主催	来場者・参加者数
ヨコハマトリエンナーレ2017応援イベント みんなでかこう・つながろう byイクタケマコト						
102	第28回旭ふれあい区民まつり	その他 (区民祭り)	10月15日(日)	旭区役所1階ロビー	旭ふれあい区民まつり実行委員会	来場者 20,000名 参加者 200名
103	戸塚ふれあい文化祭	美術・音楽・ ダンス	10月13日(金) - 10月22日(日)	戸塚区総合庁舎 ほか	戸塚区民まつり実行委員会	来場者 12,000名 参加者 250名
104	神奈川区区民活動支援センター 活動PR展	美術・音楽・ ダンス	10月10日(火) - 10月13日(金)	神奈川区役所	神奈川区役所地域振興課 (神奈川区区民活動支援センター)	来場者 約350名 参加者 約200名
105	瀬谷フェスティバル	音楽・ダン ス・その他 (区民祭り)	10月29日(日)	旧瀬谷通信施設のはらっぱ	瀬谷フェスティバル実行委員会	中止
106	区民交流センターまつりをめりえで飾ろう! 第13回区民交流センターまつり	その他 (区民祭り)	10月1日(日) - 11月23日(木)	青葉区区民交流センター	区民交流センターまつり実行委員会	参加者 35名 来場者 3,000名
107	木のおもちゃで遊ぼう	美術	8月7日(月) - 8月9日(水)	泉区役所区民ホール	泉区文化振興委員会	来場者 663名 参加者 約70名
108	第7回 中区多文化フェスタ	その他 (多文化共 生)	9月24日(日)	横浜市開港記念会館	なか国際交流ラウンジ	750名
109	第42回南区文化祭	音楽・ダンス	11月3日(金)	南公会堂	南区民まつり運営委員会	来場者 1,100名 参加者 486名
110	中区制90周年・開港記念会館100周年記念 イベント 第42回中区民祭り「ハローよこはま2017」	その他 (区民祭り)	10月8日(日)	横浜公園会場・日本大通り会場	中区制90周年・開港記念会館 100周年記念事業実行委員会	180,000名





タイアップ

会場周辺の商業施設やホテル、レストラン等で、ヨコハマトリエンナーレ2017のチケット提示により様々な特典や、限定メニューなどのサービスの提供が行われた。(11企画)

	施設名	内容		施設名	内容
1	キタムラ(ランドマーク店、桜木町シャル店)	半券特典	7	AMALFI CAFFE(マークイズみなとみらい)	限定メニュー
2	Colette-Mare	半券特典	8	mizumachi bar(横浜マリントワー)	限定メニュー
3	日本郵船歴史博物館	入館無料	9	横濱こてがえし(マークイズみなとみらい)	限定メニュー
4	ホテルニューグランド	半券特典	10	横濱元町 霧笛楼	限定商品
5	マークイズみなとみらい	半券特典	11	ヨコハマカクテルコンペティション2017(参加店舗)	限定メニュー
6	ランドマークプラザ	半券特典			

連携企画

■日産アートアワード2017：ファイナリスト5名による展覧会

BankART LifeVと併せて、9月16日(土) - 11月5日(日)に才能ある日本人アーティストを支援する「日産アートアワード2017」展をBankART Studio NYKで開催し、同時期に日産アートアワード・コレクションをYCC Galleryにて展示した。

主催：日産自動車株式会社
来場者数：13,874名

NISSAN
ART
AWARD

その他連携

■ヨコハマみらいスタイルラボ

日程：3月20日(月・祝)
場所：クイーンズサークル
内容：ポスターパネル展示、チラシ配布

■ヨコハマトリエンナーレ2017応援イベント みんなでかこう つながろう by イクタクマコト (文化プログラムPRイベント)

日程：3月31日(金)
場所：マークイズ みなとみらい1階グランドガレリア
内容：アーティストがヨコハマトリエンナーレ2017のイメージビジュアルをモチーフに描いた下絵に自由に色を塗るという市民参加型イベント。

■第33回全国都市緑化よこはまフェア(ガーデンネックレス横浜2017)

日程：5月3日(水・祝)、5月5日(金・祝)
場所：第33回 全国都市緑化よこはまフェア里山ガーデン正面入口広場イベントテント
内容：ポスターパネル等の展示、チラシ配布、折り紙や缶バッジ作りワークショップ

■日産スタジアムでのブース出展

横浜F・マリノス PRブース	新横浜パフォーマンス2017 PRブース
日程：7月29日(土)	日程：10月21日(土)
場所：日産スタジアム外	場所：日産スタジアム外
内容：チラシ配布、無料抽選会、缶バッジ作りワークショップ	内容：チラシ配布、缶バッジ作りワークショップ

■横浜マラソンEXPO2017

日程：10月27日(金)、28日(土) ※10月29日(日)は台風により中止
場所：横浜赤レンガ倉庫イベント広場
内容：ブース出展、チラシ配布

■はまりんフェスタ2017

日時：10月28日(土)
場所：横浜市交通局新羽車両基地
内容：「ラッピングバスアワード2017」への参加
・ラッピングバスデザインのパネル展示及び人気投票
・広報促進グッズ配布

■横浜シティガイド協会

ヨコハマトリエンナーレ2017に合わせて、創造界隈拠点やパブリックアートを中心としたまち歩きツアーが実施された。

- ①9月20日(水) 海辺をたどるアートめぐり
- ②10月4日(水) 関内の歴史的建造物と創造界隈拠点めぐり



第33回全国都市緑化よこはまフェア



ヨコハマトリエンナーレ2017応援イベント



横浜マラソンEXPO2017

11 カタログ、グッズ、ショップ

公式カタログは、図版を多く取り入れた手にとりやすい仕様にしたカタログを青幻舎から出版した。

公式グッズは、ヨコハマトリエンナーレ2017公式ロゴ、キービジュアルを使用したトートバッグ及びクリアファイル(2種)、キャンディー(2種)の計5アイテムを公式グッズとして展開した。

また、公式グッズの他に、『面白いモノを創作し、楽しいモノを発表する』をコンセプトに、横浜市に在勤または在住のクリエイターが制作した「ヨコハマ・クリエイターズグッズ」を販売し、横浜で活躍するクリエイターを広く紹介した。

公式グッズは横浜美術館会場及び横浜赤レンガ倉庫1号館会場のショップで、ヨコハマ・クリエイターズグッズは主に横浜赤レンガ倉庫1号館会場のショップで販売した。

公式カタログ

展示風景と作品図版とともに作品解説や作家の言葉などをまとめた一冊。

手にとりやすさを重視し、デザインと判型を工夫した。

タイトル：『ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」』

判型等：B5変形(260×190mm)、並製

カラー/モノクロ、本文160頁

価格：2,376円(税込)

発売日：2017年10月11日

発行：株式会社青幻舎



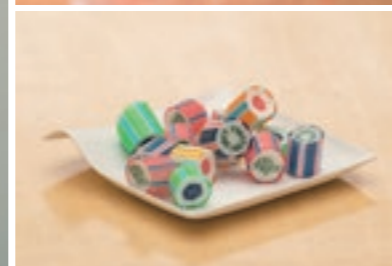
公式グッズ

キービジュアルをあしらった公式グッズを5アイテム制作し、公式ショップ等で販売した。

(全て税込、単位：円)		
	商品名	価格
1	キーホルダー付バッグ	1,500
2	クリアファイル(青)	400
3	クリアファイル(白)	400
4	パパブレ(ラズベリー&キウイ味)	700
5	パパブレ(マンゴー&コーラ味)	700



キーホルダー付バッグ

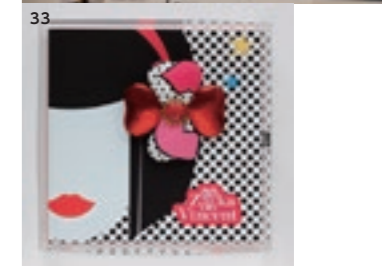
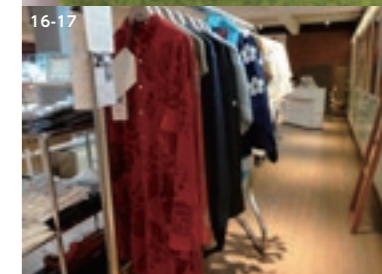


(上)クリアファイル
(下)パパブレ

ヨコハマ・クリエイターズグッズ

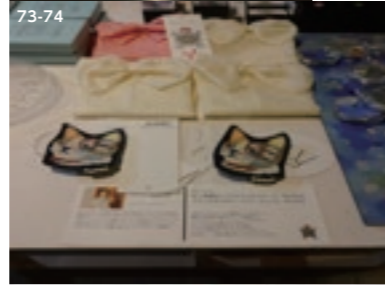
横浜市に在勤または在住のクリエイター49組により116アイテムが制作され、公式ショップなどで販売した。

(全て税込、単位：円)				
	商品名	出品者	価格	
1	一葉箱 Thermometer & Hygrometer	アイス/オリーブ/コーラル	天野和俊	1,944
2	カトラリーのようなお箸 STIHK	2膳入		3,240
3	Blister Clock	ミディアム	伊東祥次	3,240
4		スモール		2,160
5	横浜帆布靴045×イネ! Yokohama Boat Tote Bag	(M13A6)		8,856
6	横浜帆布靴045×イネ! Yokohama Container Tote Bag	(M17A16)	鈴木幸生	8,100
7	ヌメ革 ショルダーベルト			1,000
8	横浜帆布靴045×イネ! Yokohama Bag in Bag			4,500
9	はまいろ手ぬぐい		石河美和子	1,620
10	時芝			6,480
11	時芝 枡(バージョン)		堤 岳彦	10,800
12	UNIT COASTER-FLOWER-	5枚セット		1,080
13	こっそりペア Tシャツパジャマセット			3,780
14	黄金町ポストカードセット		イクタケマコト	1,080
15	ポストカード2枚セット	(横浜トリエンナーレ応援イベントイラスト+黄金町パブリックアート)		432
16	KIMONO服 シャツ		伊東純子	18,360
17	KIMONO服 シャツ	丈長		23,760
18	BIFOLD WALLET	黒、オーク、ブラウン	土平恭栄	18,360
19	HASHIGO-SHELF			30,240
20	MIRROR		上田剛央	36,720
21	PHOTO FRAME (A5)	ウォールナット		6,480
22	HASHIOKI			2,700
23	日米和親条約記念缶バッジセット		刈谷 威	756
24	TODOROKI KIDS	1号~4号	柏原政彦	2,160
25	五島と鎌倉の寄木箸		原田優輝	2,160
26	五島と鎌倉の箸袋			2,700
27	ヨコハマベイリッティー	緑茶ティーバッグ 3個入り	荒川志乃	918
28	Ittayo 組ヒモプレスレット 3本セット	みなとみらい/馬車道/元町・山手	小崎直利	2,160
29	バッグ	桃/梅		29,700
30		フォーハーツ		7,020
31	コサージュ	Ziggy S (吹き出し固定)	小田麻祐子	8,100
32		chibi ziggy		3,024
33	シューズクリップ	リップ		3,780
34		ポテト		3,240
35	はま太郎	4~10号		800
36	はま太郎	11~13号	星羊社	900
37	横浜市民酒場グリリと			1,620
38	TACO-ASHI			950
39	Greeting Girls	Happy Birthday, Heart, Congratulations, Thank you	Re+g-リブラグ	518
40	落語名台詞クリアファイル	(らくだ、居残り佐平次、文七元結、芝浜)		270
41	落語チケットフォルダ	2枚セット(たぬき、時そば)	アオキジュニヤ	918
42	MessengerBag Prima foto	Porto (紺)	クリオシティブ モトマチポート	24,840
43	袋果バックパック	小		25,920
44	袋果バックパック	大		28,080
45	コインケース(空気の色)		古田佐和子	10,800
46	二つ折り財布(空気の色)			15,120
47	tentline__tote	naranja	松井理美子	51,840
48		17-B 無題		60,480
49	btrail		濱西邦和	19,440
50	カケルウ	大		21,600
51		小	西澤 力	19,440
52	モーシオン分度器	SKY		1,890
53		MOON		1,890
54	てぬぐい	kuru-kuru	井上仁行	1,404
55		pata-pata		1,404



(全て税込、単位：円)

	商品名	出品者	価格(税込)	
56	造形工作アイデアノート		2,484	
57	メディア工作ワークブック	井上仁行	2,376	
58	パラレルワールド御土産帳		1,944	
59	写真集(CD付き)	内藤正雄	2,000	
60		Rainy day	2,160	
61		bird bird bird	1,728	
62	モビール	パラモビール Sサイズ	3,240	
63		サーカスモビール	1,296	
64	ボールペン	1color	2,916	
65		2Tone	3,456	
66	寄せ木ボールペン	3~6color	3,780	
67		Cube	972	
68		Button	972	
69	月曜日のレジャーシート	ボイズ	864	
70	横浜下町 初黄日ノ出町 てぬぐい		1,080	
71	トビラちゃんがあたまち	竹本真紀	2,160	
72	かつウォッチャ	プレーン/うめ	540	
73	ねこ刺繍のヘアクリップ&ブローチ		6,804	
74	リボンの手さげシースルーチェック	嶋山文香	3,996	
75	多角形ブローチ (カメ)		4,104	
76	多角形ピアス	山本貴美子	1,944	
77	多角形イヤリング		1,944	
78	ハマまちTシャツ	S/M/L	3,186	
79	かけらピン		756	
80	かけらピアス		1,080	
81	かけらピアス チャーム付キャッチ	久保萌菜	1,620	
82	かけらイヤリング		1,080	
83	デザインペーパー	6種セット	648	
84	ポムとポアルの横浜探訪 マスキングテープ		648	
85	ポムとポアルの横浜探訪 ポストカード	華へらんジェ	216	
86	ポムとポアルの横浜探訪 ポストカードボックス	13枚+缶バッジ(付)	2,592	
87	Hama Boom Boom! はちみつキャンディ	岡田信行	432	
88	Hama Boom Boom! はちみつフィナンシェ		702	
89	島と星座とアイスコーヒー	[ガラパゴス産豆使用](瓶ボトル 360ml)	594	
90	島と星座とドリップコーヒー	(ゴールデンキャメル味)	162	
91	島と星座とコーヒー豆	[ガラパゴス産豆使用]	1,296	
92	横浜水辺マップファイル	山崎博史	378	
93	ReflecT trafficlight	Kids100/110/120	6,264	
94	ReflecT trafficlight	大人 S/M/L/W/M/WL	5,184	
95	ReflecT motorbike	Kids100/110/120	6,264	
96	ReflecT scooter	大人 S/M/L/W/M/WL	6,264	
97	toothbrush	ライトブルー Kids100/110/120	4,104	
98	toothbrush	ライトブルー 大人S/M/L/W/M/WL	4,104	
99	ポスターバッグ	早川栄次	8,640	
100	パッチワークメタル バッグチャーム		2,300	
101	パッチワークメタル ブローチ	菅原美佐子	3,240	
102	ガラスの猫ブローチ	今井郁子	3,240	
103	ガラスの猫の肖像		5,400	
104	HANDMADE ACCESSORY	ブローチ/シュシュ	KAIE	2,160
105		Cool	540	
106	ノートブック	Cute	540	
107		50pieces	2,268	
108	3D ART PUZZLE CELL	30pieces	1,728	
109		1個	650	
110	旅するコンフィチュール	4個セット	3,000	
111		CUBE RING(S)/(M)/(L)	2,160	
112	SPRING JEWELRY	CROSS RING BRACELET & RING	3,240	
113		PENTAGON & ROUND, STAR & FLOWER, CROSS & RIBON	5,400	
114	OFF BEAT	4柄各1枚セット	864	
115	レコードスリーブ	1柄5枚セット	1,080	
116	IPA パワーポム	鈴木真也	540	



ショップ

横浜赤レンガ倉庫1号館会場



SHOPトリエンナーレ2017

ヨコハマトリエンナーレを応援するもうひとつの「ミュージアム」をコンセプトに、今回展のために新たに設置し、公式グッズ、ヨコハマ・クリエイターズグッズ、ショップ開発グッズ(シンボルアートグッズ※)等を販売した。

運営：株式会社エクスポート

※シンボルアートグッズ

SHOPトリエンナーレ2017のシンボルアート「小亀」を用いたグッズを制作し、販売した。
(シンボルアートデザイン：永井一正氏 制作：株式会社エクスポート)



横浜美術館会場

横浜美術館 MUSEUM SHOP

横浜美術館の既存のショップを横浜美術館会場の公式ショップとし、公式グッズ、ヨコハマ・クリエイターズグッズ、タイアップ商品、参加作家の関連グッズ等を販売した。



その他(ポップアップショップ)

ヨコハマ・クリエイターズグッズ、シンボルアートグッズを公式ショップ以外でも販売した。

販売場所：エクスポート直営ショップ(タワーショップ、赤レンガDepot、大さん橋エクスポート、マリントワーショップ)

横浜高島屋(ヨコハマグッズ・横浜001)

そごう横浜(そごう美術館ミュージアムショップ)

オンラインショップ：madeinyokohama.jp

12 広報・プロモーション

幅広い層に向けて展覧会開催を周知すべく、美術専門メディアから一般メディアまで広く網羅し、インターネットを含め様々なツールを活用して情報発信を行った。

メディアに対しては、3名のコ・ディレクターおよび参加作家が展覧会のコンセプトや制作意図などを直接伝達する機会を設けた一方で、展覧会に限らず、プロジェクト、市民協働、応援プログラムなど、様々な活動に関する情報を提供した。

パンフレット、チラシ、ポスター、バナー、広告などの展開においては、展覧会コンセプトを損なわない質を保ちつつ、明るい色使いや目に留まりやすい作品図版といった親しみやすいビジュアルを用いることを意識した。インターネットやTwitter、Facebook等のSNSを活用した発信を強化し、Instagramも新たに運用するなどして若者層への訴求を高めた。また、これらの媒体は、街のにぎわいと展覧会の盛り上がりを創出するために時期を図りながら計画的に掲出した。

広報(パブリシティ)

■記者会見

記者会見は第1回2016年10月、第2回2017年4月、第3回8月の開幕時に実施。第1回、第2回の記者会見は、記者のアクセス面から東京都内の会場を使用。第3回は、より収容規模の大きい横浜ランドマークホールで実施。約250名の出席を得て、3名のコ・ディレクターと国内外の参加作家31名が登壇し、全員が意気込みを直接伝えた。同日12:30-14:30に記者内覧会を実施。なお、会期、3名のコ・ディレクター、構想会議メンバーは、2016年5月にプレスリリースで発表。

日時	会場	内容	出席人数
第1回 2016年10月11日(火) 14:00-15:00	KKRホテル東京 「孔雀」	【発表内容】タイトル、コンセプト、イメージビジュアル紹介 【登壇者】逢坂恵理子、三木あき子、柏木智雄、養老孟司、スプツニ子I、スハーニャ・ラフェル、リクリット・ティラヴァーニヤ 【司会】荻野奈緒美 ※記者会見終了後に構想会議メンバーと記者との交流時間を設けた。	110
第2回 2017年4月18日(火) 14:30-15:30	銀座 王子ホール	【発表内容】26アーティスト+1プロジェクト、関連プログラム 【登壇者】逢坂恵理子、三木あき子、柏木智雄、小沢剛、宇治野宗輝 【司会】荻野奈緒美 ※宇治野宗輝によるパフォーマンスを実施。	153
第3回 2017年8月3日(木) 11:30-12:30	横浜ランドマーク ホール	【発表内容】開幕挨拶、展覧会紹介、登壇作家からメッセージ 【登壇者】逢坂恵理子、三木あき子、参加作家25組26名、関連プログラム3名 【司会】岩崎里衣	246



第1回記者会見
Photo: KATO Ken



第2回記者会見
Photo: KATO Ken



第3回記者会見
Photo: KATO Ken

■プレスデスク

広報事務局を外部業者に委託し、会期前も問合せや取材に対応できるように開幕1カ月前から横浜美術館内にプレスデスクを設置。取材受付から資料提供・記事校正、掲載・露出確認などを一貫して行い、メディアからの要望に滞りなく、フレキシブルに対応できるような体制を整えた。

プレスデスク

設置期間：7月3日(月) - 10月19日(木)

開設時間：10:00-18:00

設置場所：会期前 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局内

会期中 ビジターサービスセンター内(横浜美術館 アートギャラリー2)

内容：メディアからの問合せ対応、取材受付・立会、プレスキット受渡、撮影に関する注意事項説明、腕章・プレスパス受渡・返却対応、資料提供、記事校正など

■プレスリリース

国内外の一般メディアや市政記者に向けて、メールもしくはFAXで高い頻度でプレスリリースを配信した。配信実績は、日本語プレスリリース55回、英語リリース8回。

日本語プレスリリース配信一覧

2016年

	配信日	リリースタイトル	
1	5月26日	「ヨコハマトリエンナーレ 2017」開催概要決定！ － 構想会議メンバーによる検討がスタートします－	※
2	10月11日	「ヨコハマトリエンナーレ 2017」タイトル、コンセプト発表	※
3	12月19日	養老孟司がアートの可能性について語る!ヨコハマトリエンナーレ2017公開対話シリーズ「ヨコハマラウンド」いよいよ始動。参加者募集	

2017年

	配信日	リリースタイトル	
4	2月13日	今福龍太、スプツニ子Iらが文化を語る!ヨコハマトリエンナーレ2017公開対話シリーズ第2回 参加者募集	
5	2月28日	「応援プログラム」募集開始	
6	4月18日	ヨコハマトリエンナーレ2017 -島と星座とガラパゴス-「接続」と「孤立」をテーマに、世界のいまを考える～ 第1弾 参加アーティストと企画概要を発表	※
7	4月19日	アーティスト小沢剛、宇治野宗輝らが抱負を語る	
8	4月20日	ヨコハマトリエンナーレ2017前売券発売開始!限定・人気グッズ「ヨコトリ」付きチケット 4/21(金)から、公式オンラインチケットサイトにて	
9	5月19日	ヨコハマトリエンナーレ2017参加アーティスト 宇治野宗輝と語るトリエンナーレ学校6月28日(水)開催	
10	5月23日	ヨコハマトリエンナーレ2017「チケットサポーター」を新設 サポーター募集	
11	6月5日	ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」13名の追加参加アーティストを発表/全38組のアーティスト+1プロジェクトが揃う	※
12	6月23日	ヨコハマトリエンナーレ2017 横浜市の全小・中学生に「鑑賞ポケットガイド」を配布	
13	6月28日	横浜美術館に大規模なインスタレーション 横浜赤レンガ倉庫1号館では「横浜」をテーマに新作も	
14	6月29日	出品作家アイ・ウェイウェイが語る「アートは人間の価値を認め、より深く、そして、より広くコミュニケーションをとるための架け橋なのです」	※
15	6月30日	ヨコハマトリエンナーレ2017開催記念イベント「ヨコトリLIVE」～島と星座とガラパゴス～	
16	7月5日	開幕まであと1カ月 ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」2017年8月4日(金)開幕	※
17	7月19日	ヨコハマトリエンナーレ2017「ヨコハマプログラム」[ひろがる源氏 つながる古地図][源氏物語]古写本や古地図など、貴重書を展示 主催:鶴見大学、横浜美術館美術情報センター	
18	7月21日	200人限定!貸し切りの美術館でヨコハマトリエンナーレ2017を楽しむ「夜の美術館でアートフルズ」参加者募集	
19	7月24日	ヨコハマトリエンナーレ2017とBank ART Life V、黄金町バザール2017を巡る、アートのまち横浜 「セット券」前売は8月3日(木)まで	
20	7月26日	約40組の横浜市内クリエイターが参加 もうひとつのミュージアム「SHOPトリエンナーレ2017」OPEN	
21	7月28日	出品作家オラファー・エリアソンが語る。必要なのは、「we-ness(私たち感)」を語ること。	
22	7月31日	ヨコハマトリエンナーレ2017 関連プログラム「接続」や「孤立」をテーマに横浜の歴史に関連する施設等を紹介「ヨコハマサイト」	
23	8月1日	ヨコハマトリエンナーレ2017を一緒に盛り上げてくれる「応援プログラム」104事業が決定	
24	8月2日	ヨコハマトリエンナーレ2017の会場で「Free Wi-Fi」が使えます!	
25	8月3日	ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」明日、8月4日(金)開幕 ※	
26	8月14日	お手元のスマートフォンが音声ガイド端末に!ヨコハマトリエンナーレ2017をより深く楽しんでいただくための、音声ガイドアプリを無料で提供!	
27	8月16日	芸術鑑賞のあとはカフェ小倉山で涼しいひと時を 市民サポーターが期間限定のヨコハマトリエンナーレ2017オリジナルスイーツを考案!	

■海外ジャーナリスト招聘

海外の美術専門層への周知を目的に、海外ジャーナリストの招聘を実施した。地域別ではアジアから9媒体、欧州から2媒体、北米から2媒体が参加。その結果、雑誌(美術誌)4件、新聞(全国紙)1件、ウェブ13件の露出があった。

①東アジア文化都市2017連携 海外プレスツアー[8月19日(土)、20日(日)]

ヨコハマトリエンナーレ2017会場視察、三木あき子コ・ディレクターインタビュー。4媒体4名参加。

②国際交流基金主催 美術記者招聘[9月27日(水)]

ヨコハマトリエンナーレ2017会場視察、日産アートアワード受賞式出席。9媒体9名参加。

■露出件数

開幕時は、横浜美術館の外観およびグランドギャラリーに展示された作品と作家のインタビューを交えて開幕を告げる展覧会紹介記事が多く掲出され、さらに、難民問題などの国際情勢を交えて紹介され、展覧会のコンセプトに迫る内容の露出があった。美術専門媒体と一般向けの情報媒体にそれぞれプレスリリースを展開し、美術ファン層と一般層の両方にアプローチできるような露出を獲得できた。また、インターネットメディアとのリレーションを強化した結果、露出件数は前回展に比べて大幅に増加した。海外は専門媒体を中心とする露出を図り、展覧会の内容に触れるウェブ記事を中心に露出があった。

国内	テレビ(地上波・BS)	ケーブルテレビ	ラジオ	新聞	雑誌・書籍	フリーペーパー	ウェブ	合計
2016年5月 - 2017年7月	5	96	6	87	107	56	1,450	1,807
2017年8月	5	625	23	138	57	30	814	1,692
2017年9月	9	613	6	133	44	57	800	1,662
2017年10月	8	297	4	103	15	23	581	1,031
2017年11月	0	0	0	23	13	1	154	191
2017年12月	2	0	0	76	2	5	36	121
2018年1月	0	79	1	6	3	1	15	105
計	29	1,710	40	566	241	173	3,850	6,609

海外	テレビ	新聞	雑誌	フリーペーパー	ウェブ	合計
2016年5月 - 2017年7月	0	0	8	6	141	155
2017年8月	2	2	3	3	41	51
2017年9月	4	0	5	0	34	43
2017年10月	0	0	10	0	30	40
2017年11月	0	1	4	0	8	13
2017年12月	0	2	1	0	6	9
2018年1月	0	0	2	0	1	3
合計	6	5	33	9	261	314

■各媒体での露出傾向

・テレビ

NHK「日曜美術館」本編、NHK「首都圏ネットワーク」、NHK「ひるまえほっと」、TBS「報道特集」での国際問題に絡めての紹介、フジテレビ「めざましテレビ イマドキコーナー」でのお出かけ情報など、美術ファンから普段美術に接する機会の少ない視聴者向けの番組まで、さまざまな角度で取り上げてもらえた。また特に日本テレビ「NEWS ZERO 高橋大輔SPOTLIGHT」やテレビ神奈川の経済番組「神奈川ビジネスUp To Date」では、本展覧会の紹介だけではなく、横浜トリエンナーレの本質に迫る深い取り上げ方をしてもらうことができ、日本を代表する国際展として、単なるアートイベントだけではない社会的な役割が期待されていることが示された。

・ラジオ

NHKラジオ、文化放送、J-WAVEなどの主要局の番組にコ・ディレクターやキュレーターが出演し、展覧会の見どころや魅力を紹介した。また、NHK横浜放送局では、公開音楽イベント「ヨコトリLIVE」を開催して展覧会を直接PRするとともに後日放送し、広く告知を行った。

・新聞

『朝日新聞』では、開幕前に全面カラー写真による特集記事が掲載された。『読売新聞』『毎日新聞』『産経新聞』『日本経済新聞』では、取材による展覧会の紹介記事と、閉幕前には展評が掲載された。共同通信からも同様に配信があった。また、各紙神奈川版および神奈川新聞では、ヨコハマサイトやサポーター活動、応援プログラムなどの地元・横浜に特化した内容が多数取り上げられ、地域に広がる情報発信もできた。

・紙媒体

美術専門誌では開幕前に『美術手帖』に三木あき子コ・ディレクターのロングインタビューが掲載され、一般誌では『OZ magazine』『日経おとなのOFF』で特集が組まれ、美術館前に設置されたアイ・ウェイウェイの作品が見開きで紹介されるなど、今回のテーマを読者に強く印象づけることができた。逢坂恵理子コ・ディレクター、スプツニ子!氏(構想会議メンバー)、参加アーティストらもインタビューに答え、ファッション、カルチャー、旅行、建築、フリーペーパーなど幅広い媒体で積極的に露出を行った。

・インターネットメディア

美術専門分野の『美術手帖WEB』『ART iT』『artscape』などでは参加作家インタビューや展覧会レビュー、カルチャー層に人気の『CINRA』では展覧会レポートや作家対談といった展覧会記事が掲載された。「お出かけ」や「若い女性向け」情報サイトでも、各媒体がユーザーに合った独自の切り口で取材を行い、バラエティに富んだ特集記事が組まれた。また、新聞、雑誌、通信社によるデジタル配信も得られた。

ウェブ

■公式ウェブサイト

2017年3月1日(水)にティザーサイトを、4月18日(火)に特設サイトを公開した。ヨコハマトリエンナーレ2017の全体像が一目で理解できる「みどころ」ページをはじめ、「イベント」ページや「ブログ」ページを構成し、サイトを訪れるたびに新しい情報に触れてもらえるよう、随時更新を行った。アクセス数は開幕当日やメディアへの露出の度に高いアクセス数を獲得した。また、自動翻訳システムにて日英以外に7か国語での翻訳サービスを導入したこともあり、海外からの流入が前回展よりも大幅に増大した。ティザーサイト公開から閉幕まで(3月1日 - 11月5日)のセッション総数(訪問者総数)は865,271、ページビュー数(総閲覧数)は2,552,613を数えた。

■SNS

開幕前からそれぞれのSNS媒体の特徴に合わせて情報発信を図った。展覧会に関する情報や関連イベント、周辺おすすめ情報などをタイムリーに発信するとともに、ハッシュタグ機能を利用して情報拡散を行った。

・Twitter

開幕1年前の2016年7月時点で約12,400あったフォロワー数は、閉幕時には15,600を超えた。開幕前のアーティストの様子や制作の裏側を写真や動画と共に紹介するなど、開幕への盛り上がりの醸成に努める他、会期中の最新情報の配信、会場やイベントの様子を積極的に配信した。

・Facebook

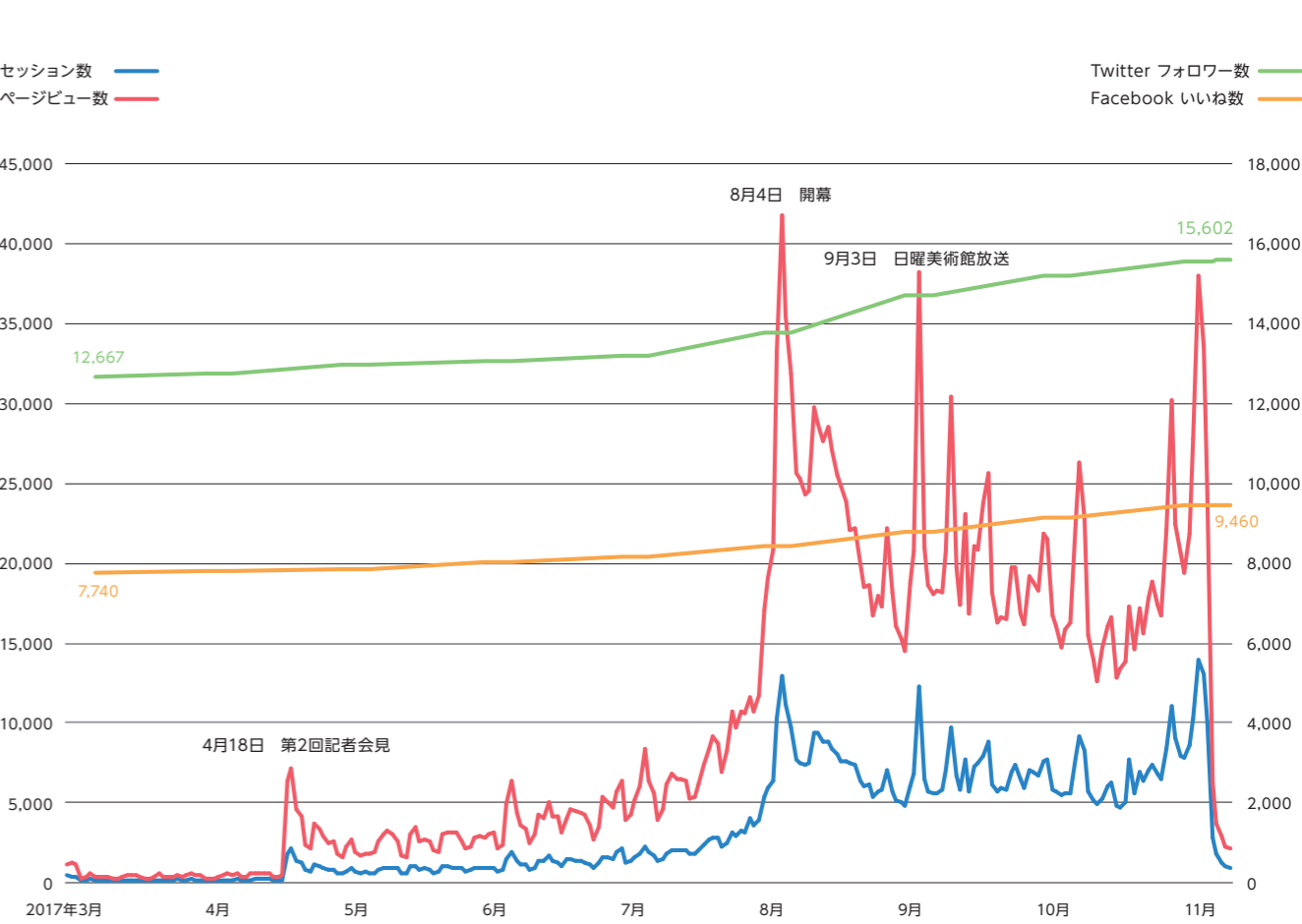
Twitterと共に展覧会の雰囲気や、イベントの募集情報や開催報告などを詳細に掲載し、初めて情報に触れる方にも分かりやすい内容にした。また、Facebookで投稿されることの多かった海外メディアによる掲載情報をシェアすることで、海外での注目度の高さを紹介した。

・Instagram

9月の会期中盤から閉幕まで、「私が世界のアートに接続する瞬間」をテーマに、作品と人物と一緒にいったスナップ写真を投稿。閲覧者自身がこんなアートな写真が撮りたいと思い、来場してもらえるような投稿を心掛けた。またハッシュタグを日英でつけることで、日本だけでなく世界へ向けても発信することを意識した。

・LINE

・メール



制作物

■イメージビジュアル

展覧会コンセプトを表現したイメージビジュアルを用いて、継続的に統一感のあるビジュアルコミュニケーションを行い、展覧会開催を印象づけた。



■パンフレット、チラシ、ポスターなど

制作物は、ターゲットと目的別に使い分け、デザインも使用時期に応じて複数用意した。

パンフレットは、全国の美術館やギャラリー、横浜市内の公共施設などでの配布を意識し、展覧会の総合案内の役割を持たせ、コンセプトとともに作品図版や解説、展示以外のプロジェクト概要をわかりやすく紹介し、来場を促すことを心掛けた。9月には実際の展示風景写真を用いて「横浜」を印象付け、かつ展示の見どころを具体的に訴えるものに刷新した。

また、横浜市内で開催される多数のイベントなどで配布し、不特定多数の方々に展覧会を広く周知するツールとしてA4サイズのチラシを作成した。特に、5月配布のチラシは、気軽に手に取ってもらうことを目的に、表面は親しみやすさ、裏面はダイナミックかつカラフルな作品画像を用いて関心を引くことを意識した。



- 1 イメージビジュアル ヨコ型
- 2 公式ウェブサイトトップページ画面
- 3 展覧会パンフレット表紙(観音開き)：7月配布
- 4 展覧会パンフレット表紙(観音開き)：9月配布
- 5 展覧会チラシ表面：5月配布
- 6 展覧会パンフレット中面(観音開き)：9月配布

広告・プロモーション

■会場周辺および交通広告

開催の周知と誘引を目的に、会場周辺のみなとみらい地区や乗降客数の多い都内主要駅などで広告展開を行った。

みなとみらい地区 屋外広告

掲出場所	掲出物の種類
動く歩道、グランモール公園、JR桜木町駅前広場、くすのき広場(市庁舎脇)	フラッグ
クロスゲート、ランドマークプラザ、横浜美術館前、赤レンガ倉庫前、市庁舎	懸垂幕
市庁舎、動く歩道	横断幕
横浜美術館前、市庁舎	看板
みなとみらい線馬車道駅構内円形通路	ポスター
ランドマークプラザ「風の灯台」	亀オブジェ

交通広告

掲出場所	掲出物の種類	時期
首都圏主要駅(東京、有楽町、新橋、浜松町、品川、神田、大崎、上野、渋谷、新宿、池袋など)ほかJR線、東急東横線、みなとみらい線、市営地下鉄などのコンコース	大型看板	8月 - 10月
東急東横線、みなとみらい線横浜駅、みなとみらい線みなとみらい駅、JR上野駅、市営地下鉄横浜駅コンコース	デジタルサイネージ	8月 - 9月
京浜急行線及び相鉄線駅構内、横浜駅通路	ポスター(B0サイズ)	8月 - 10月上旬
市営バス、市営地下鉄、東急東横線車内	ポスター(B3サイズ)	8月 - 9月中旬
市営バス接近表示機、市営地下鉄車内情報装置	電光掲示板	8月



クロスゲート(懸垂幕)



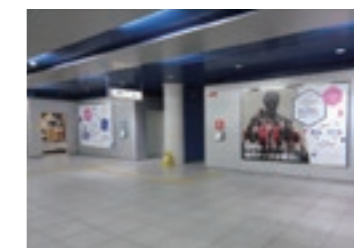
ランドマークプラザ「風の灯台」(亀オブジェ)



JR新横浜駅(大型看板)



JR浜谷駅(大型看板)



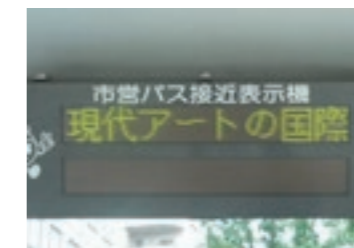
みなとみらい線みなとみらい駅ツインボード(大型看板)



みなとみらい線みなとみらい駅(デジタルサイネージ)



横浜駅通路(大型看板柱巻)



市営バス接近表示機(電光掲示板)

■広告出稿

美術雑誌、行政広報誌、カルチャー系ウェブサイトをはじめ、Twitter、Facebook、InstagramなどのSNSにも広告を掲載し、ターゲットに直接アプローチをするデジタルプロモーションを展開した。また、海外広報においては、積極的にウェブ広告を活用した。

雑誌等広告

種類	内容	件数
純広告(国内)	新聞、行政広報紙など	11
ペイドパブ(国内)	カルチャー系雑誌、ウェブサイトなど	8
ペイドパブ(海外)	海外の現代アート層向けウェブサイト	13
合計		32

SNS広告

種類	内容	回数
Twitter	開催周知や秦 基博公式アプリ告知	7
Facebook	開催周知、みらいチケット記念セレモニー告知	2
Instagram	開催周知、秦 基博公式アプリ告知、インスタグラマー誘致	6
合計		15

■プロモーション

主催者および協賛・協力企業との連携のもと会期中の展示会の認知度を高めるために、展示会のテーマに関連した企画の実施、ジャンルの異なるイベントに出向き周知活動を行った。バッグやステッカー、回遊性を高めるプロモーションツールを作成するなど、様々な層に訴求することを目的に活動に取り組んだ。

プロモーションイベント

・音楽イベント「ヨコトリLIVE」

日時：9月1日(土)17:30 - (開場17:00)

場所：新都市ホール(そごう横浜)

概要：観覧無料、抽選。音楽とダンスの分野で活躍する新進気鋭のアーティストたちが展示会からインスピレーションを得たパフォーマンスを披露。NHKサウンドクルーズ(ラジオ)にて後日放送。主催はNHK横浜。

・ダンスパフォーマンスイベント「ヨコトリDANCE」

日時：10月1日(日)13:00 - 13:30 / 15:00 - 15:30 2回公演

場所：ランドマークプラザ「サカタのタネガーデンスクエア」

概要：観覧無料。ヨコトリLIVEの出演者による公開イベント。NHK横浜との共同主催。

・「みらいチケット」発行および記念セレモニー

次世代育成およびファミリー層への周知を目的に、2020年展に保護者同伴の中学生以下の子どもたちを招待する「みらいチケット(招待券)」を発行。配布開始日にプロフィギュアスケーターの高橋大輔氏を招いた記念セレモニーを開催した。

配布期間：10月28日(土) - 11月5日(日)

10:00 - 18:00(10/28・29、11/2・3・4の夜間開館日は20:30まで)

記念セレモニー開催日時：10月28日(土)11:00 - 11:45

セレモニー開催場所：横浜美術館前広場(グランモール公園内)

出演者：高橋大輔(プロフィギュアスケーター)

逢坂恵理子(ヨコハマトリエンナーレ2017 コーディレクター/横浜美術館館長)

司会：田井れい花(フリーアナウンサー)

・TOKYO ART BOOK FAIR 2017 ブース

日時：10月5日(木) - 8日(日)

場所：寺田倉庫

概要：国内外の出版社、書店、ギャラリー、アーティストなど約350組が参加するアートブックフェアに出展。チラシ配布、カタログやグッズの販売により感度の高い層に展示会をアピールした。

※その他のイベントブースへの出展はP.53を参照。

■プロモーションツール

・ステッカー、ビニールバッグ

イメージビジュアルを用いたステッカー、ビニールバッグを制作。来場者や市内イベント参加者に幅広く配布し、展示会の周知に努めた。

・アプリラジオ「ヨコハマアートさんぽ with 秦基博」

公式音声ガイドアプリのスペシャルコンテンツとして、横浜にゆかりのあるアーティスト秦基博氏が出演するアプリラジオを制作(約5分×3種)した。来場者に、会場で各種コンテンツをダウンロードさせることで来場と周遊を促した。



「ヨコトリDANCE」



「みらいチケット」記念セレモニー
Photo: KATO Ken



「みらいチケット」表面



ステッカー小



ステッカー大



ビニールバッグ



ヨコハマアートさんぽ with 秦基博

13 来場者

来場者数

総来場者数 259,032人

	横浜美術館	横浜赤レンガ倉庫1号館	横浜市開港記念会館地下	合計
展示会鑑賞者数	131,112	76,780	42,133	250,025
関連プログラム参加者数				9,007
合計				259,032

※来場者のうち中学生以下：26,988人

※来場者のうち外国人：7,059人

一日平均来場者数(人/日)

	横浜美術館	横浜赤レンガ倉庫1号館	横浜市開港記念会館地下	合計
平日平均	953	543	291	1,787
休日平均*	2,342	1,396	777	4,515
一日平均	1,490	872	479	2,841

※8月14日(月)、8月15日(火)は休日として計上

最多来場者数記録日

11月3日(金・祝) 天気：晴れ時々曇り

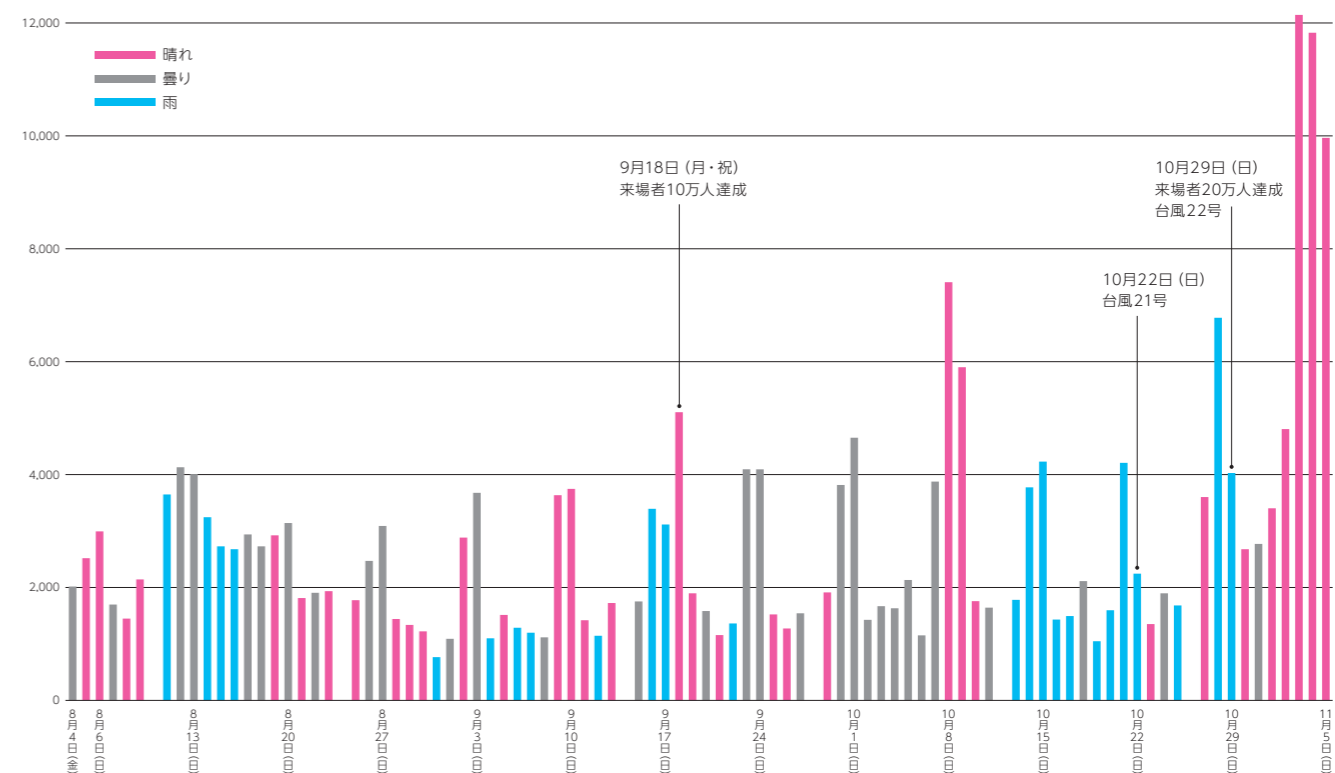
	横浜美術館	横浜赤レンガ倉庫1号館	横浜市開港記念会館地下	合計
来場者数	5,082	4,272	2,789	12,143

最少来場者数記録日

8月31日(木) 天気：雨のち一時曇り

	横浜美術館	横浜赤レンガ倉庫1号館	横浜市開港記念会館地下	合計
来場者数	396	249	121	766

来場者の推移



団体での来場

学校やクラブ・サークル活動、地域団体や事業所の旅行行事などの来場促進のために、横浜トリエンナーレサポーターによる「事前ガイダンス」(申込制)などのサービスの付いた団体鑑賞プログラムを用意した。

地域別にみると、横浜市内から75団体(全体の58%)、横浜市以外の神奈川県内から14団体、東京都から21団体、その他関東地方から8団体のほか、北海道、静岡県、愛知県、京都府、広島県、徳島県からの来場があった。海外(中国、韓国、台湾、米国)からの来訪もあった。

来場団体数／来場者数：163団体／6,147名

	団体数	来場者数
一般団体	34団体	674名
学校団体	129団体	5,473名
(内訳)		
大学	16団体	454名
専門学校	4団体	120名
高校	14団体	746名
中高一貫校	2団体	32名
中学校	35団体	791名
小学校	34団体	2,682名
未就学児	8団体	305名
特別支援学校	11団体	273名
その他(教育支援センター等)	5団体	70名
合計	163団体	6,147名

視察

国内外からの美術館の館長やキュレーター、評論家やコレクターなどのアート関係者をはじめ、国会議員や省庁関係者、在日外国公館や地方自治体の首長など行政関係者からの視察希望が多く、ヨコハマトリエンナーレ2017への関心の高さがうかがわれた。

視察受入の際には、事業説明や展覧会に関する事前ガイダンス、意見交換会などを展覧会の鑑賞と組み合わせ、積極的な情報発信を図ることで、ネットワークの構築につなげた。

国・地域内訳

地域	国・地域数	国・地域名
アジア	14	インド、インドネシア、シンガポール、タイ、韓国、中国、パキスタン、バングラディッシュ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、台湾、香港、日本
大洋州	2	オーストラリア、ニュージーランド
北米	2	米国、カナダ
中南米	2	キューバ、ブラジル
欧州	8	イタリア、英国、スイス、スペイン、スロベニア、ドイツ、フランス、ポーランド
中東	2	アラブ首長国連邦、トルコ
アフリカ	3	ナイジェリア、マリ、南アフリカ
合計	33の国と地域	

※国・地域名は外務省ホームページの記載を参照

視察件数／来場者数：79件(うち国内36件、海外43件)／513名

国内からの視察

芸術祭を実施、あるいは実施を検討している自治体首長3件、国および地方議員8件、日中韓都市間交流事業関連2件、教育機関3件、省庁関係者6件、在日外国公館2件、地方自治体関係者5件、その他有識者等が7件だった。

海外からの視察

海外からは、文化芸術関係の専門家・関係団体(美術館館長、キュレーター、有識者、国際展・芸術祭関係者、文化芸術関連団体等)の視察が全体の過半数を占めた。その他、美術系教育機関や韓国光州広域市文化観光体育室関係者より視察を受けた。

チケット

公式オンラインチケットサイト、鉄道駅事務室・売店、各種プレイガイドのほか、横浜市内外の文化施設等、約120か所でチケットを販売した。

■券種

・ヨコハマトリエンナーレ2017鑑賞券：横浜美術館・横浜赤レンガ倉庫1号館・横浜市開港記念会館 地下に会期中1回ずつ入場できるチケット(当日は同一会場に再入場可)

・セット券：ヨコハマトリエンナーレ2017鑑賞券に、同時期に開催されたアートプログラム『BankART LifeV』『黄金町バザール2017』(詳細はP.46参照)のパスポート引換券が付属したチケット

■販売期間

前売券販売期間：4月21日(金) - 8月3日(木)

当日券販売期間：8月4日(金) - 11月5日(日・祝)

■価格

		<div style="text-align: right;">(全て税込、単位：円)</div>		
		一般	大学・専門学校生	高校生
ヨコハマトリエンナーレ2017鑑賞券	前売券	1,500	900	500
	当日券	1,800	1,200	800
セット券	前売券	2,100	1,500	1,100
	当日券	2,400	1,800	1,400

・中学生以下、障がいのある方*とその介護者1人は無料

*身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、愛の手帳(療育手帳)、特定医療費(指定難病)医療受給者証、自立支援医療受給者証およびこれらに類する証書の交付を受けている方

・会場またはヨコハマトリエンナーレ2017チケット販売センターで券種を問わず20枚以上チケットをまとめて購入の場合、前売券は1枚あたり150円引き、当日券は同200円引き

○特別前売券

横浜トリエンナーレの人気グッズ・ヨコトリ*の「スペシャルバージョン」が付属する前売券を公式オンラインチケットサイト限定で販売した。

第一弾：“今日はヨコハマ王様気分”「キングヨコトリ」付きチケット

(販売期間 4月21日(金) - 5月31日(水))

第二弾：“いつも心にダンディズム”「ダンディヨコトリ」付きチケット

(販売期間 6月1日(木) - 6月30日(金))

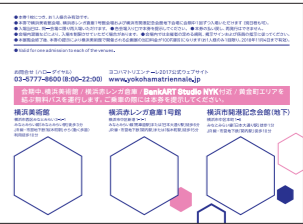
価格：鑑賞券 1,900円、セット券 2,500円(どちらも税込)

■販売実績

	前売券	当日券	合計
販売枚数(枚)	15,717	86,810	102,527



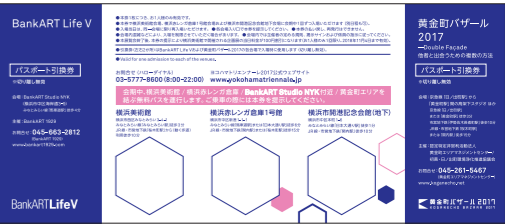
鑑賞券・一般



裏面



セット券・一般



裏面



キングヨコトリ



ダンディヨコトリ

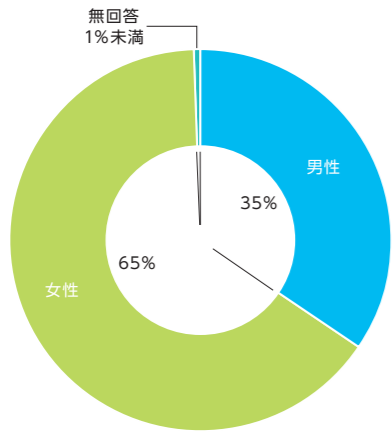
*ヨコトリ…「横を向いた鳥=ヨコトリ」をモチーフに、2005年、2011年の横浜トリエンナーレ参加アーティストである安部泰輔氏が、古着のハギレを使ってすべて手作りした世界にひとつしかないアート作品。

来場者アンケート

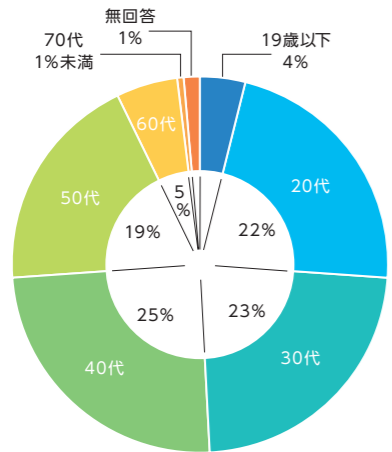
調査期間：8月4日(金) - 11月5日(日)
 調査方法：ウェブアンケート
 有効回答数：1,536件

■来場者の属性

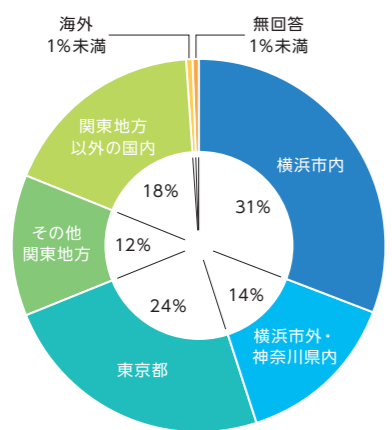
男女比



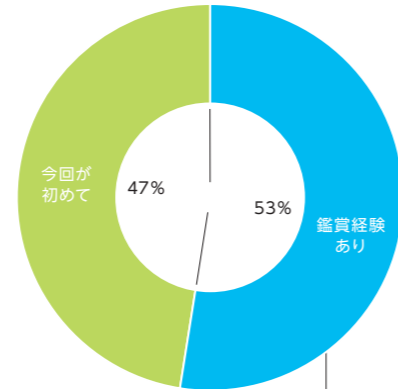
年齢層



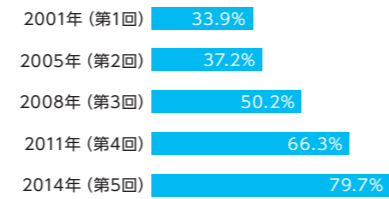
居住地



過去の横浜トリエンナーレの鑑賞経験

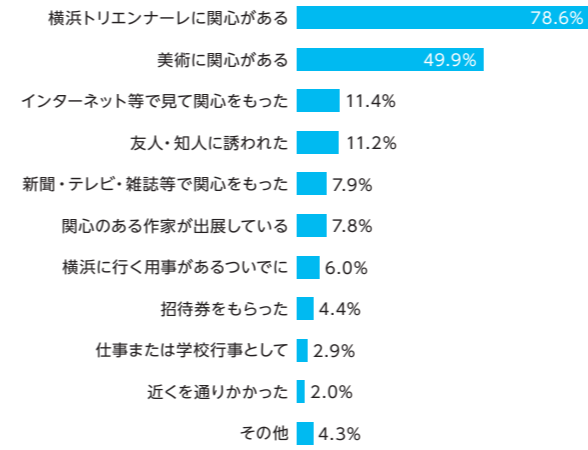


鑑賞経験ありの方(809人)が来場した過去の開催回(複数回答可)



■ヨコハマトリエンナーレ2017について

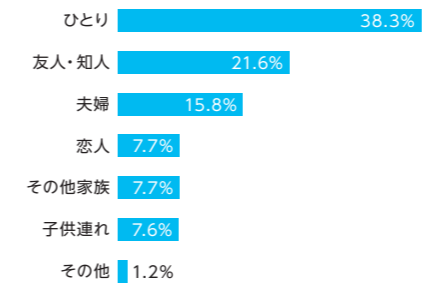
①ヨコハマトリエンナーレ2017来場の理由は何ですか?(複数回答可)



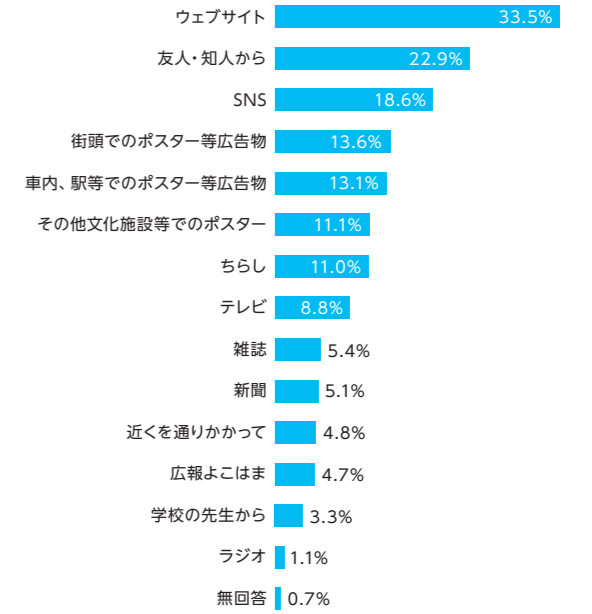
③本日来場した会場をお答えください。(複数回答可)



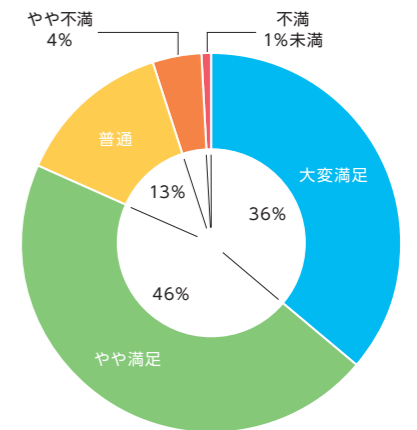
⑤ヨコハマトリエンナーレ2017にどなたといらっしゃいましたか?



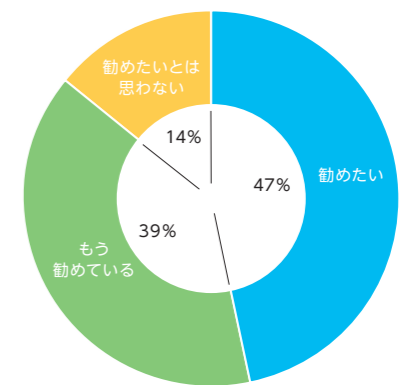
②ヨコハマトリエンナーレ2017について知ったきっかけは何ですか?(複数回答可)



④展覧会の内容はいかがでしたか?



⑥ヨコハマトリエンナーレ2017を家族や友人に勧めたいと思いませんか?



14 経済波及効果とパブリシティ効果

経済波及効果

経済波及効果は、推計時点で最新の平成23年横浜市産業連関表を用いて算出した。また、来場者消費支出は来場者アンケート、主催者調査は開催準備と運営にかかわる経費支出をもとにしている。来場者消費支出及び主催者調査を合計した、横浜市の経済波及効果は約35.4億円となった。

項目	金額
経済波及効果(生産誘発額)計	3,539
第一次波及効果	3,054
第二次波及効果	485
雇用誘発数	297(人)

項目	金額
経済波及効果(生産誘発額)計	2,828
第一次波及効果	2,456
第二次波及効果	372
雇用誘発数	252(人)

項目	金額
経済波及効果(生産誘発額)計	711
第一次波及効果	598
第二次波及効果	113
雇用誘発数	45(人)

項目	日帰り	市内宿泊	市外宿泊
一人当たり消費金額	8,256	30,908	11,100

パブリシティ効果

ヨコハマトリエンナーレ2017にかかる、新聞、雑誌、テレビ等のメディアに取り上げられることによる広報効果を、広告料金に換算した。2017年12月31日現在(2016年5月より集計開始)までに集計したテレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ウェブ記事の広告換算額は約50.4億円となった。

媒体	換算額
新聞	690
全国紙	145
全国紙(地方版)	275
地方紙	206
タブロイド紙	0
その他	63
雑誌等	137
ウェブ	742
テレビ	3,243
キー局	3,110
地方局	129
BS/CS	3
ケーブルテレビ	149
ラジオ	80
合計	5,040

※小数点以下を四捨五入しているため、内訳と合計が一致しない場合がある。

15 収支報告

■収入の部

項目	2015年度	2016年度	2017年度	2017年展決算
横浜市負担金	65,000,000	80,000,000	351,500,000	496,500,000
文化庁補助金	0	0	180,000,000	180,000,000
協賛金・助成金	0	600,000	45,798,299	46,398,299
入場料収入	0	0	177,834,850	177,834,850
カタログ等販売収入	5,750	439,404	1,384,357	1,829,511
その他収入	227,686	86,299	240,918	554,903
前年度からの繰越金	53,850,031	38,488,932	38,030,439	53,850,031 ※初年度のみ計上
計	119,083,467	119,614,635	794,788,863	956,967,594

■支出の部

項目	2015年度	2016年度	2017年度	2017年展決算
展示制作費	15,000	1,214,229	194,427,134	195,656,363
会場設営費	0	0	51,611,763	51,611,763
会場運営費	25,324,000	0	195,154,037	220,478,037
会場間無料バス事業費	0	1,650,153	40,152,210	41,802,363
広報費	691,445	5,700,291	97,390,574	103,782,310
カタログ等経費	0	0	10,687,798	10,687,798
関連行事費	0	768,670	18,621,901	19,390,571
入場券経費	0	0	16,376,247	16,376,247
教育プログラム費	3,738	36,288	1,921,759	1,961,785
ボランティア経費	0	0	706,047	706,047
専門家旅費	276,601	3,781,602	1,652,476	5,710,679
業務委託費	12,564,699	18,864,034	34,954,814	66,383,547
市民協働関連業務委託費	8,000,000	10,000,000	11,058,400	29,058,400
事務局費	33,719,052	39,568,929	70,401,048	143,689,029
翌年度への繰越金	38,488,932	38,030,439	49,672,655	49,672,655 ※最終年度のみ計上
計	119,083,467	119,614,635	794,788,863	956,967,594

第1 - 6回 横浜トリエンナーレー覧

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
開催年	2001年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年
会期 <p>(開場日数)</p>	9月2日 - 11月11日 <p>(67日)</p>	9月28日 - 12月18日 <p>(82日)</p>	9月13日 - 11月30日 <p>(79日)</p>	8月6日 - 11月6日 <p>(83日)</p>	8月1日 - 11月3日 <p>(89日)</p>	8月4日 - 11月5日 <p>(88日)</p>
主会場 <p>(有料)</p>	[2会場] <ul style="list-style-type: none">パシフィコ横浜 <p>展示ホール</p> <ul style="list-style-type: none">横浜赤レンガ倉庫1号館	[1会場] <ul style="list-style-type: none">山下ふ頭3号・4号上屋	[4会場] <ul style="list-style-type: none">新港ピア <ul style="list-style-type: none">日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) <ul style="list-style-type: none">横浜赤レンガ倉庫1号館 <ul style="list-style-type: none">三溪園	[2会場] <ul style="list-style-type: none">横浜美術館 <ul style="list-style-type: none">日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)	[2会場] <ul style="list-style-type: none">横浜美術館 <ul style="list-style-type: none">新港ピア	[3会場] <ul style="list-style-type: none">横浜美術館 <ul style="list-style-type: none">横浜赤レンガ倉庫1号館 <ul style="list-style-type: none">横浜市開港記念会館地下
テーマ	メガ・ウェイブ <p>—新たな総合に向けて</p>	アートサーカス <p>[日常からの跳躍]</p>	TIME CREVASSE <p>—タイムクレヴァス—</p>	OUR MAGIC HOUR <p>—世界はどこまで知ることができるか?—</p>	華氏451の芸術： <p>世界の中心には忘却の海がある</p>	島と星座とガラパゴス
ディレクター <p>／キュレーター</p>	アーティストック・ディレクター： <ul style="list-style-type: none">河本信治 建畠 哲 中村信夫 南條史生	総合ディレクター： <ul style="list-style-type: none">川俣 正 <p>[キュレーター]</p> <ul style="list-style-type: none">天野太郎 芹沢高志 山野真悟	総合ディレクター： <ul style="list-style-type: none">水沢 勉 <p>[キュレーター]</p> <ul style="list-style-type: none">ダニエル・バーンバウム フー・ファン 三宅暁子 ハンス・ウルリッヒ・オプリスト ペアトリクス・ルフ	総合ディレクター： <ul style="list-style-type: none">逢坂恵理子 <p>アーティストック・ディレクター：</p> <ul style="list-style-type: none">三木あき子	アーティストック・ディレクター： <ul style="list-style-type: none">森村泰昌 <p>[アソシエイト]</p> <ul style="list-style-type: none">天野太郎 大館奈津子 柏木智雄 神谷幸江 林 寿美	コ・ディレクター： <ul style="list-style-type: none">逢坂恵理子 三木あき子 柏木智雄
作家数	109作家	86作家	72作家	77組 79名	65組 79名	38組 1プロジェクト
作品数	113件	84件	66件	337件	444件	344件
総事業費	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円
総来場者数	約35万人	約19万人	約55万人	約33万人	約21万人	約26万人
外国人来場者数	－	－	－	約3,000人	4,501人	7,059人
中学生以下来場者数	－	－	－	24,205人	26,381人	26,988人
有料会場来場者数	約35万人 ※ <ul style="list-style-type: none">*チケットは2日間有効 (連続しない日も可) *未就学児無料	約16万人 <ul style="list-style-type: none">*チケットは1日に限り有効 *フリーパスあり *中学生以下無料	約31万人 ※ <ul style="list-style-type: none">*チケットは2日間有効 (連続しない日も可) *中学生以下無料	約30万人 ※ <ul style="list-style-type: none">*チケットは1会場1日有効 *中学生以下無料	約21万人 ※ <ul style="list-style-type: none">*チケットは1会場1日有効 *中学生以下無料	約25万人 ※ <ul style="list-style-type: none">*チケットは1会場1日有効 *中学生以下無料
チケット販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚	約10万枚	約10万枚
メディア露出件数	237社以上 <p>(うち海外36社以上)</p> <p>*掲載件数は記録なし</p>	1,089件 <p>(うち海外40件)</p>	1,233件 <p>(うち海外165件)</p>	1,763件 <p>(うち海外139件)</p>	3,899件 <p>(うち海外117件)</p>	6,923件 <p>(うち海外314件)</p>
ボランティア登録者数	719人	1,222人	1,510人	940人	1,631人	1,474人

※ 第1回、第3回、第4回、第5回、第6回については、有料会場の延べ入場者数

沿革

1997 外務省が国際美術展の定期開催方針を発表

1999 横浜トリエンナーレ組織委員会(国際交流基金、横浜市、NHK、朝日新聞社)設立

2001 横浜トリエンナーレ2001「メガ・ウェイブ—新たな総合に向けて」開催

2004 横浜市が創造都市施策を策定。横浜トリエンナーレをリーディング・プロジェクトに位置づける

2005 横浜トリエンナーレ2005「アートサーカス[日常からの跳躍]」開催

2008 横浜トリエンナーレ2008「TIME CREVASSE—タイムクレヴァス—」開催

2010 横浜トリエンナーレ組織委員会の主催者が横浜市、NHK、朝日新聞社の3者となる

2011 文化庁の「国際芸術フェスティバル支援事業」となる

ヨコハマトリエンナーレ2011「OUR MAGIC HOUR—世界はどこまで知ることができるか?—」開催

2012 横浜トリエンナーレ組織委員会の主催者に(公財)横浜市芸術文化振興財団が加わる

2014 ヨコハマトリエンナーレ2014 「華氏451の芸術:世界の中心には忘却の海がある」開催

2017 ヨコハマトリエンナーレ2017 「島と星座とガラパゴス」開催

組織体制

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局(2017年7月1日現在)

横浜トリエンナーレ組織委員会 (2017年7月1日現在)

名誉会長

上田良一(NHK会長)

林 文子(横浜市長)【代表】

渡辺雅隆(朝日新聞社社長)

委員

市村友一(朝日新聞社企画事業担当兼企画事業本部長)

逢坂恵理子(横浜美術館館長)

福山浩一郎(NHK事業センター専任部長)

澤 和樹(東京藝術大学学長)

澄川喜一(横浜市芸術文化振興財団理事長)【委員長】

高階秀爾(大原美術館館長)

建畠 哲(多摩美術大学学長)

柄 博子(国際交流基金理事)

中山こずゑ(横浜市文化観光局長)

監事

ペイ・タックス税理士法人

ヨコハマトリエンナーレ2017 組織体制

コ・ディレクター

逢坂恵理子(横浜美術館館長)

三木あき子(キュレーター、ベネッセアートサイト直島

インターナショナルアーティストックディレクター)

柏木智雄(横浜美術館副館長、首席学芸員)

キュレトリアル・チーム

キュレーター：木村絵理子*、松永真太郎*、

中野仁詞(公益財団法人神奈川芸術文化財団)

アシスタント・キュレーター：片多祐子*、金井真悠子*、日比野民蓉*、大下裕司

コーディネーター・チーム

庄司尚子*、田中 彩、倉茂なつ子、小林麻衣子

足立陽子*※ヨコハマラウンド

イメージビジュアル

PARTY(川村真司+室市栄二)

空間設計

藤原徹平(建築家、フジワラテッペイアーキテクトラボ代表)

横浜国立大学大学院、建築都市スクール(Y-GSA)

展示会場グラフィック

大西隆介(株式会社direction Q)

構想会議メンバー

スプツニ子!(アーティスト、マサチューセッツ工科大学メディアラボ助教)

高階秀爾(美術史家、大原美術館館長、東京大学名誉教授)

リクリット・ティラヴァーニャ(アーティスト、コロンビア大学芸術学部教授)

養老孟司(解剖学者、東京大学名誉教授)

スハーニャ・ラフェル(M+美術館エグゼクティブ・ディレクター)

鷲田清一(哲学者、京都市立芸術大学学長、せんだいメディアテーク館長)

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局(50音順)

開催本部長 神部 浩(横浜市)

事務局長 堀江武史(横浜市芸術文化振興財団)

事務局次長 帯金章郎(朝日新聞社)

柏木智雄(横浜市芸術文化振興財団)

田中良憲(NHK)

野田日文(横浜市)

プロジェクト・マネージャー 帆足亜紀(横浜市芸術文化振興財団)

[運営]*

岩波 藍、奥田粹弓、風間梨沙、木村綾夏、西城裕之、瀬藤悦弘、田村賢太、

堤 友紀、鶴見天平、藤森健弘、保土澤由宇、森世利子(以上、横浜市)

江見恵美奈、水谷英智(展覧会兼任)、品川純華、高久佐知子

(以上、横浜市芸術文化振興財団)

山田卓司、碓井俊太郎、早川悟史、井汲 章(以上、NHK・NHK横浜放送局)

八巻直史、竹部翔馬(以上、朝日新聞社)

*総務、経理、会場調整・運営、次世代育成、社会包摂、市民協働、会場間アクセス、グッズ、ショップ、各種連携等

[広報・プロモーション]

コミュニケーション・オフィサー 西山有子(横浜トリエンナーレ組織委員会)

會田巨享、古川真祐子(以上、横浜市)

岩城諒子、高橋伸佳、伊達明未(運営兼任)、堀木 結(運営兼任)

(以上、横浜市芸術文化振興財団)

伊藤浩平(制作補助)、工藤千愛子(広報制作物、ラウンド運営)、山田恵津子

(海外広報、ラウンド・IBA運営)(以上、横浜トリエンナーレ組織委員会)

[展覧会]

木村絵理子、庄司尚子、孫 沛艾(インターン)(以上、横浜市芸術文化振興財団)

大下裕司、倉茂なつ子、小林麻衣子、田中 彩

(以上、横浜トリエンナーレ組織委員会)

中野仁詞(公益財団法人神奈川芸術文化財団)

横浜トリエンナーレサポーター事務局(黄金町エリアマネジメントセンター)

事務局長 山野真悟

スタッフ：

山野 桂、神田美樹、本田あかね、平野 芳、北野翔平、那須若葉(インターン)

横浜美術館(横浜市芸術文化振興財団)

館長 逢坂恵理子

副館長 五十嵐誠一、柏木智雄

学芸グループ：

沼田英子、八柳サエ、中村尚明、内山淳子、松永真太郎、坂本恭子、片多祐子、

大澤紗碧子、金井真悠子、日比野民蓉、長谷川珠緒、相原佳奈子、菱村宏子、

大沢知二、尾田香代子、加藤亜希、加藤 絢、佐野里佳、鈴木理枝子、平賀かおる

国際グループ：

帆足亜紀、堀江武史、木村絵理子、庄司尚子、水谷英智、江見恵美奈、高橋伸佳、

堀木 結、岩城諒子、品川純華、伊達明未、孫 沛艾(インターン)

教育普及グループ：

関 淳一、山崎 優、木下貴博、端山聡子、岡崎智美、柳川文秀、大岩久美、

河上祐子、櫻庭瑠実、高徳早矢香、齊藤佳代、六島芳朗

経営管理グループ：

[経営管理チーム]古賀美弥子、杉浦正美、吉川由紀子、迫田利則、佐藤正美、

足立陽子、梅澤のど佳、長島愛子、永田麻子、普川由貴子、輪湖みどり

[広報・渉外チーム]鈴木慶子、襟川文恵、藤井聡子、堀内美穂、山崎聖一、

市川靖子、長濱佐和子

横浜赤レンガ倉庫1号館(横浜市芸術文化振興財団)

館長 小野晋司

副館長 鈴木 敦

スタッフ：

中富勝裕、大川志津子、小原光洋、中島尚未、中祖杏奈、山澤真紀子

横浜市開港記念会館

職員一同

* =横浜美術館所属

写真クレジット

P.14

アイ・ウェイウェイ | ©Ai Weiwei Studio

マウリツィオ・カテラン | Courtesy: Maurizio Cattelan's Archive and Perrotin

P.15

ミスター | ©2016 Mr./Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.

ザ・プロペラ・グループ | ©The Propeller Group

P.16

カールステン・ヘラー、トピアス・レーベルガー、アンリ・サラ&リクリット・ティラヴァーニャ |

Produced at and collection of STPI - Creative Workshop & Gallery, Singapore ©The Artists/STPI

畠山直哉 | ©HATAKEYAMA Naoya

P.17

パオラ・ピヴァイ | Courtesy of the artist and Perrotin

P.18

クリスチャン・ヤンコフスキー | ©Christian Jankowski 2017

P.18, 27

小沢 剛 | Courtesy of the artist

P.19

宇治野宗輝 | ©UJINO

プラバワティ・メッパイル | ©Prabhavathi Meppayil, Courtesy Pace Gallery

P.19, 27

キャンシー・ブレンダーガスト | ©The Artist and Kerlin Gallery

P.20

青山 悟 | ©AOYAMA Satoru

ラグナル・キヤルタンソン | Courtesy of the artist, Luhring Augustine,

New York and i8 Gallery, Reykjavik

小西紀行 | ©Toshiyuki Konishi

P.21

ジェニー・ホルツァー | ©1987 Jenny Holzer, member Artists Rights Society (ARS), NY

P.27

Don't Follow the Wind | Courtesy of Don't Follow the Wind

P.28

スプツニ子! | Photo by Tomoya Uehara

リクリット・ティラヴァーニャ | Photo by Anette Aurell

逢坂恵理子、三木あき子、柏木智雄 | ©Ateru

ヨコハマトリエンナーレ2017
「島と星座とガラパゴス」
記録集

発行日
2018年6月28日

監修
横浜トリエンナーレ組織委員会

編集
小林麻衣子
田中 彩

デザイン
小沼孝至

撮影
ERIC
加藤 健
田中雄一郎

印刷
吾妻印刷株式会社

発行
横浜トリエンナーレ組織委員会
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 (横浜美術館内)
TEL 045-663-7232
FAX 045-681-7606
www.yokohamatriennale.jp

©2018 Organizing Committee for Yokohama Triennale
無断転写、転載、複写は禁じます。
All rights reserved. Printed in Japan

